桐蔭横浜大学現代教養学環
設置の趣旨等を記載した書類

学校法人桐蔭学園

令和４年７月

目　次

１．設置の趣旨及び必要性 1
（１）今，求められる人材 1
（２）桐蔭横浜大学の使命 3
（３）桐蔭横浜大学の取組 4
（４）現代教養学環を設置する趣旨 10
（５）教育目標と養成する人材像 11
（６）卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー） 12
（７）養成した人材が活躍する場 12
（８）中心となる学問分野 13
２．学部・学科等の特色 15
（１）現代教養学環の教育上の特色 15
（２）現代教養学環設置による本学の活性化 16
（３）現代教養学環を構成する連係協力学部と全学協働体制 16
３．学部・学科等の名称及び学位の名称 18
（１）組織名称を当該名称とする理由 18
（２）学位の名称と当該学位とする理由 19
４．教育課程の編成の考え方及び特色 20
（１）教育課程の基本的な考え方 20
（２）教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー） 20
（３）科目区分 20
（４）教育課程の特色 25
５．教育方法，履修指導方法及び卒業要件 28
（１）教育課程の体系化 28
（２）卒業要件 28
（３）履修モデル 28
（４）卒業研究 28
（５）学修成果の可視化 29
（６）学修時間の確保 29
（７）学修支援 29
６．実習の具体的計画 31
（１）実習の目的と特徴 31
（２）実施方法と内容 31
７．入学者選抜の概要 33
（１）入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー） 33
（２）選抜方法 33

（３）入学者選抜の実施体制 34
８．教員組織の編制の考え方及び特色 35
（１）教員組織編制の基本的考え方 35
（２）教員組織 35
（３）教員組織の年齢構成 36
（４）教員の業務管理 36
９．施設，設備等の整備計画 37
（１）校地校舎等 37
（２）図書等の資料及び図書館 37
１０．管理運営 38
（１）運営会議 38
（２）全学執行体制上の位置づけ 38
１１．自己点検・評価 39
（１）全学的実施体制 39
（２）実施方法等 39
１２．情報の公表 40
１３．教育内容等の改善を図るための組織的な研修等 42
（１）全学的な取組 42
（２）現代教養学環としての取組 42
１４．社会的・職業的自立に関する指導等及び体制 43
（１）適切な体制の整備と全学的な取組 43
（２）教育課程内の取組 43
（３）教育課程外の取組 43
資料 44

１．設置の趣旨及び必要性

（１）今，求められる人材

デジタルトランスフォーメーション（Digital Transformation, DX）やグローバル化の更なる進展により，世界的規模で社会と価値観が激しく変化している。昨日不可能だったことが今日には可能となり，今日最先端である知識・技術が明日には陳腐化する。折しも，新型コロナウイルス感染症の世界規模での流行により，私たちはそのことを痛感することとなった。まさに本格的なVUCA[1]の時代に突入したと言える。

（普遍的なコンピテンシー）

このように変化が激しく，予測することが困難な時代において求められるのは，自ら考え，主体的に行動し，責任を持って社会の変化に関わっていくことができる人材である。

2000年代以降，高等教育政策においては，「主体的に変化に対応し，自ら将来の課題を探求し，その課題に対して幅広い視野から柔軟かつ総合的な判断を下すことのできる力」として課題探求能力や，「幅広い教養を身に付け，高い公共性・倫理性を保持しつつ，時代の変化に合わせて積極的に社会を支え，あるいは社会を改善していく資質を有する人材」として21 世紀型市民など，累次の政策提言の中で「陳腐化しない普遍的なコンピテンシー」の育成を大学に求めてきた。しかしながら，例えば平成14年（2002年）に発表された神奈川経済同友会提言[2]にあるように，企業はそうした大学の取組に不満と疑念を持っているとし，「変化の激しい時代にあって，物事の本質を見極め，新しい発想力や旺盛な起業力といった資質により，新たなビジネスを展開する資質・能力溢れる人材」の育成を大学に改めて強く求めるなど，大学の取組は十分とは言えなかった。

そのような背景もあって，2010 年代には政策は更に踏み込み，普遍的なコンピテンシー（＝汎用的能力）の育成に必要な活動は何かという発想に基づき教育プログラムを構築するとともに，アクティブラーニングの導入など，教育方法を質的に転換すること（＝大学教育の質的転換）を求め，全学の大学における教育改革を強力に促進することとなった。

現在，高等教育政策を方向づける「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン」[3]においては，これら過去の政策を総括しつつ，今後の高等教育は「基礎的で普遍的な知識・理解と汎用的な技能を持ち，その知識や技能を活用でき，ジレンマを克服することも含めたコミュニケーション能力を持ち，自律的に責任ある行動をとれる人材」を育成することを求めている。未だに課題は継続されており，大学として真摯に向き合わなければならない事柄となっている。

また産業界においても，「文系・理系であることを問わず，リテラシー（数理的推論・データ分析力，論理的文章表現力，外国語コミュニケーション力など），論理的思考力と規範

---

[1] Volatility：変動性，Uncertainty：不確実性，Complexity：複雑性，Ambiguity：曖昧性。先行きが不透明で将来予測が困難な状況。
[2] 社団法人神奈川経済同友会 2002，「大学の創造性教育に関する提言」
[3] 中央教育審議会 2018

的判断力，課題発見・解決能力，未来社会の構想・設計力，高度専門職に必要な知識・能力が求められ，これらを身に付けるためには，基盤となるリベラルアーツ教育が重要」と普遍的なコンピテンシーの育成を大学教育に期待している[4]。

（専門知識への眼差し）

イノベーションが急速に進展し，人工知能(AI)・ビッグデータ・IoT(Internet of Things)などの技術革新が，産業・社会構造を急激に変化させている。またデジタルトランスフォーメーション（DX）が進むにつれて，産業・社会は労働集約型・資本集約型から知を集め，つなぎ，活用することで新たな知を創出する知識集約型にシフトしている。知と知の組み合わせがイノベーションを創出し，新しいビジネスモデルや商品・サービスを生み出す源泉となる。またそうした経済活動にとどまらず，現代社会を取り巻く様々な社会的課題に対しても，多様な人材が知を持ち寄り，組み合わせ，最適な解を導き出すことが期待されている。本学が立地する神奈川県横浜市においても，横浜経済の維持・発展のために，技術革新の進展などを踏まえ，中小・大企業・大学等が互いの力をいかして新たな価値を生み出すことができるオープンイノベーションの推進など，新たな市場分野を開拓し，雇用やイノベーションを生み出すことに取り組んでいる[5]。

政府においては第５期科学技術基本計画にSociety 5.0を掲げ，IoTで全ての人とモノがつながり，様々な知識や情報が共有され，新たな価値を生み出すことで課題や困難を克服するなど，先端技術をあらゆる産業や社会生活に取り入れ，経済発展と社会的課題の解決を両立していく新たな社会を目指すことを提唱している。「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」においても，「分野を越えた専門知の組合せが必要」とし，一般教育においては従来の組織の枠を越えた幅広い分野からなるカリキュラムを，専門教育においては従来の専攻を越えた幅広くかつ深いレベルの教育を求めている。

このように，大学教育においては，激しく変化する社会に対応するための普遍的なコンピテンシーと，知識集約型の未来社会に積極的に関わっていくための幅広く確かな専門知識の双方が獲得できる教育プログラムの構築が求められている。

（持続可能な社会づくり）

国連が提唱する持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals,SDGs)(以下「SDGs」という。)は，世界的な課題解決に向けた人類共通の行動目標とも言える。前述したように，激しく変化する現代社会に対応し，より良い未来社会の構築に資することができる人材育成が求められているが，それはSDGsに貢献できる人材育成であるとも言えるだろう。貧困

---

[4] 日本経済団体連合会 2020 ，「採用と大学教育の未来に関する産学協議会・報告書　Society5.0に向けた大学教育と採用に関する考え方」
[5] 横浜市　中期４か年計画　2018－2021

撲滅，国内的・国際的不平等との戦い，地球の維持，持続的・包摂的・持続可能な経済成長といった世界的な課題は，とりもなおさず私たち自身の課題であり，教育機関として，それら課題に対峙できる人材を育成していかなくてはならない。

横浜市は，「SDGs 未来都市計画（2021～2023）」の中で，2030 年に向けて，パリ協定の発効により「脱炭素化」という高いレベルでの環境への取組が求められていることを踏まえながら，「力強い経済成長と文化芸術創造都市，観光・MICE[6]都市の実現」「花と緑にあふれる環境先進都市」の実現に向け，横浜の最大の強みである市民力を活かした公民連携により，環境に配慮しながら，経済や文化による新たな価値・賑わいを創出し続ける都市の実現を目指す，と宣言している。なお横浜市は，平成 30 年（2018 年）に内閣府が推進する「SDGs 未来都市」に選定されている。地域社会の持続的な発展は，そこに立脚するすべての人のライフキャリア[7]の充実に直結する。横浜市が掲げる SDGs 未来都市計画は，本学の教育研究のあり方を記す道標でもある。

（２）桐蔭横浜大学の使命

桐蔭横浜大学（以下「本学」という。）の設置者である学校法人桐蔭学園は，昭和 39 年（1964 年）に学校法人設立の認可を受け，

１　社会連帯を基調とした，義務を実行する自由人たれ。

２　学問に徹し，求学の精神の持ち主たれ。

３　道義の精神を高揚し，誇り高き人格者たれ。

４　国を愛し，民族を愛する国民たれ。

更に，創立 50 周年に際して，

５　自然を愛し，平和を愛する国際人たれ。

を加えて建学の精神とし，幼稚園から大学院まで，幼児・児童・生徒・学生約 8,000 人を擁し，教育活動を展開する総合学園である。中期計画（令和２年度～６年度）においては，この５つの建学の精神に基づいた教育を実践し，急速に進むグローバル化や ICT を中心とした技術革新，少子化時代の到来などの社会環境にたくましく対応することのできる人材の育成を行なっていくとともに，その活動を支える組織，財政基盤の整備を図ることを掲げている。

（人材育成）

これまで本学は，建学の精神を具体化した「個の充実」，「実務家養成」，「開かれた大学」，「国際交流」の４つの柱を特色とし，法学部，医用工学部，スポーツ健康政策学部という専門性の高い３つの学部を擁し，一人ひとりの「専門性を高める」ことを目標に掲げ教育研究

---

[6] Meeting, Incentive tour, Convention または Conference, Exhibition

[7] 仕事をはじめ，家庭生活，地域社会とのかかわり，個人の活動（自己啓発・趣味）など，生活全般において生涯にわたり果たす役割や経験の積み重ね（神奈川県，https://www.pref.kanagawa.jp/docs/m8u/cnt/f532110/index.html）

活動を行ってきた。しかしながら，今，求められる人材に掲げた問題認識のもと，中期計画に掲げた「激しく変化する社会環境に対応できる人材」を育成するため，令和２年度より抜本的な教育改革に着手している。この改革の主眼を，

－　これまで以上に学生の能力を引き出し，最大限に育成すること。

－　「なりたい自分」を見出した学生を本気で育てること。

－　変化の激しい社会においてもエージェンシー[8]を発揮し，社会を支える人材を輩出すること。

の３点に置き，建学の精神を実現する，新しい本学の社会貢献のあり方として掲げている。これまで培ってきた専門性の高い教育研究を基盤に，現代社会の変化にたくましく対応し，より良い未来社会の構築に積極的に関わっていくことのできる人材を育成することを確認している。

（持続可能な社会づくりへの貢献）

本学園は，児童・生徒・学生を育てる学校教育のみならず，社会の変化，問題解決に携わる様々な人々を支援する教育機関でもあるため，平成 30 年（2018 年）に「トランジション[9]センター」 を設立した。これまで，学園関係者の学びと成長の支援，学校・大学の教員の教育力向上の支援，横浜市を中心とした成人・女性・シニアの「人生 100 年」支援など，複層的に取組を充実させてきている。

建学の精神に掲げるように，社会との連帯なしに本学園の発展は成しえない。地域社会の持続的な発展があってこそ，本学の教育研究活動を充実していくことが可能となる。激しく変化する社会に対応し，より良い未来社会の構築に資することができる人材育成により SDGs への貢献を志向する本学であるが，それとともに，地域社会の直接的な課題解決に対してアクションを起こしていくことが重要である。

本学の主要なステークホルダーである横浜市は SDGs 未来都市を標榜し，脱炭素化を主眼とした都市づくりを志向している。本学には次世代太陽電池ペロブスカイト[10]の研究シーズを有している。これまでトランジションセンターの取組で培った地域社会連携の経験を基盤に，この地域の脱炭素化のトップランナーとなる使命がある。

（３）桐蔭横浜大学の取組

本学は法的思考能力を備えた人材を養成する法学部，臨床検査技師や臨床工学技士を養成する医用工学部，スポーツの指導者やスポーツエンジニア等を養成するスポーツ健康政

---

[8] 自ら考え，主体的に行動して，責任を持って社会変革を実現していく力。（中央教育審議会 2018，「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」）

[9] 「トランジション」とは，接続・移行という意味がある。時間（過去，現在，未来）や，社会的な空間（家族，コミュニティ，地域，国，世界）など様々なコンテクストを超えて，不確実性の中を歩んでいくこと（接続・移行）が必要である。

[10] ペロブスカイト構造を有する有機ハロゲン化鉛を光吸収層に用いた太陽電池。低価格で大面積化が可能な高効率薄膜太陽電池として極めて高いポテンシャルを有する。

策学部といった，それぞれ専門特化した３学部を擁する。これまで大学として専門職業人養成を主柱とした教育研究を展開し，地域・産業社会に貢献してきた。

一方で，専門に特化したこれまでの取組では，教育研究活動が各学部に閉じたものとなってしまった。教育課程は過度に専門重視となり，全学的な教学マネジメントが希薄となり，「普遍的なコンピテンシー」に対する大学としての取組が非常に困難な状況となってしまった。

そこで令和２年度より取り組んできた全学教育改革をより加速させ，人材育成における「桐蔭横浜大学共通」のブランドを改めて確認し，再構築するため桐蔭横浜大学リ・ブランディング戦略（Toin Univ.’s Re-Branding Strategy，TURBoS）を令和３年度に策定し，全学的な大学改革に取り組むこととした。（図１）

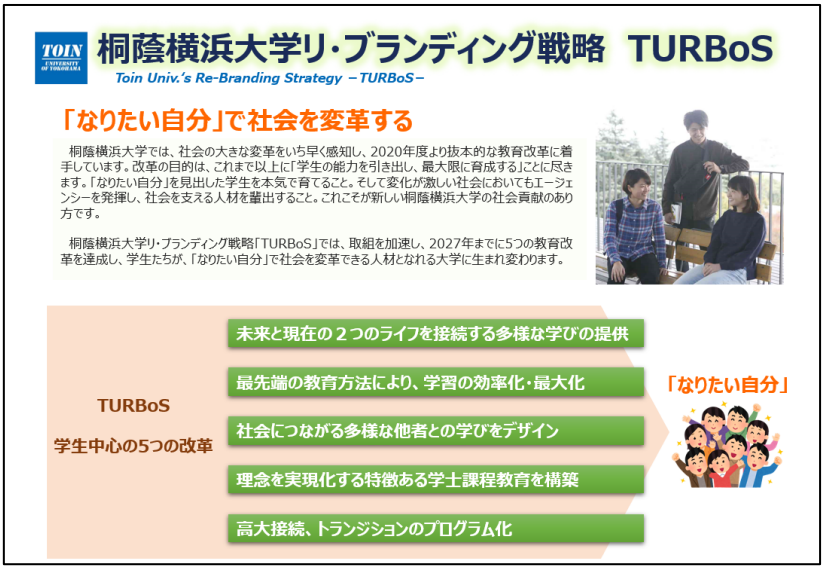


図１　桐蔭横浜大学リ・ブランディング戦略（TURBoS）の概要

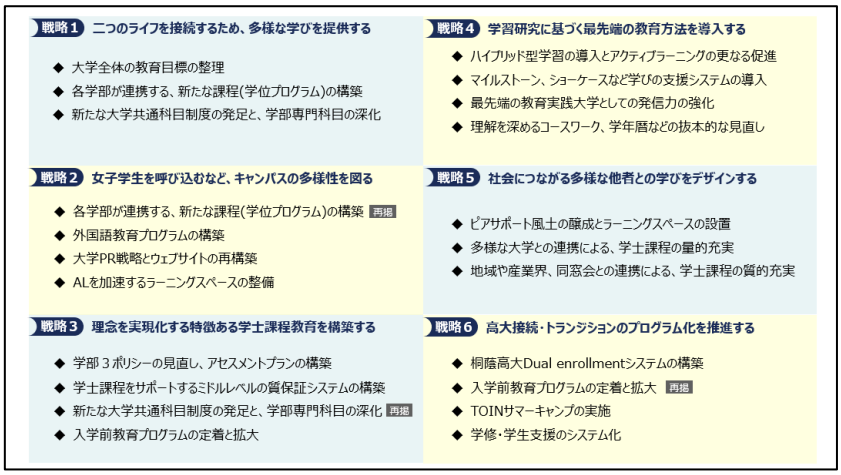


図２　TURBoS の具体的な戦略とアクション

具体的な戦略とアクションは多岐にわたるが（図２），令和３年度は主として大学全体の教育目標の整理と，新たな大学共通科目制度の発足に注力した。普遍的なコンピテンシーと幅広く確かな専門知識の双方が獲得できる教育プログラムを本学に構築していくとき，過度に専門特化した現在の教育体制をまず刷新する必要があるためだ。

（ユニバーシティ・ポリシーの策定）

この変化が激しく予測困難な社会でエージェンシーを発揮し，活躍できる人材を育成する本学の現代的使命のため，学生に，どの専門教育課程においても到達してほしい桐蔭横浜大学共通の教育・学修目標を「ユニバーシティ・ポリシー」として策定した。これが本学の考える「陳腐化しない普遍的なコンピテンシー」であり，桐蔭横浜大学の卒業生が共通して獲得する資質・能力として，大学のブランディング戦略の起点となるものである。

桐蔭横浜大学ユニバーシティ・ポリシー

桐蔭横浜大学は，すべての学位プログラムにおいて，深い教養と倫理観を礎とした専門的知識・技能を有し，主体的に社会と関わり，その中で「人生と学びの基盤となる力」を発揮することで，社会の持続可能な発展に貢献し新たな価値を生み出すことができる人材を育成する。

「人生と学びの基盤となる力」

・考動力

物事を批判的に捉えて問題を発見するとともに，その問題解決のために行動する力

・複眼的思考力

多角的な視点と柔軟な心をもって，物事をとらえる力

・共感力

他者の意見や考えに耳を傾けるとともに，自らの意見や考えを表現し，伝える力

・リーダーシップ

集団の目標達成のために，自らの果たすべき責任を自覚するとともに，他者と良好な関係を築き，協働する力

・探究力

積極的に新しいことに挑戦するとともに，粘り強く学び続ける力

・自律的キャリア

長期的な展望をもって将来の人生を思い描き，その実現のために必要とされる物事を理解し，それに向けて計画し，実行する力

図３　桐蔭横浜大学「人生と学びの基盤となる力」

（大学共通科目 MAST プログラム）

これまで本学の各教育課程は過度に専門特化しており，一般教育やキャリア教育等の科目についても，各学部がそれぞれに独自に開設してきた。このたび大学全体の教育目標としてユニバーシティ・ポリシーを策定したことから，本学としての一般教育等の体制を抜本的に刷新し，新たに大学共通プログラム「MAST（マスト）プログラム[11]」を構築した。この MAST プログラムは，法・医用工・スポーツ健康政策の全学部に加え教育研究開発機構[12]から教育資源を結集し，普遍的なコンピテンシーを，現代を読み解く５つの視点（地域，ビジネス，異文化，心理，地球環境）に立脚しながら獲得していく構成としている。また，英語，キャリア教育，アカデミックスキルに加え，数理・データサイエンスの入門科目を必修科目と設定している。

各学部の専門課程は，まずディプロマ・ポリシーの中にユニバーシティ・ポリシーを反映させ，MAST プログラムを教育課程に取り入れ，学士課程を再構築する（図４）。令和４年度より施行している。

[11] 海洋都市を標榜する横浜市に立地することから，本学の教育を船に見立て，すべての学生に獲得してほしい普遍的なコンピテンシーを帆柱（MAST）と位置付けた。学部を問わずすべての学生が必ず受講する（マスト）という意味合いも込めている。
[12] 教学マネジメントの推進や，教育方法・内容等の研究開発など，全学の教育を支援するために令和２年度に設置した附置機関。

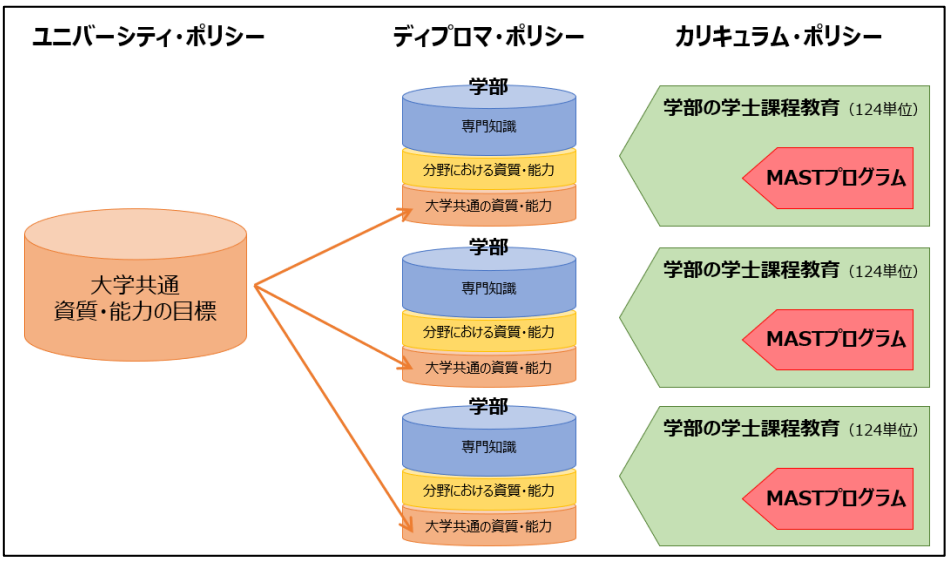


図４　ユニバーシティ・ポリシーと MAST プログラム，各専門課程の関係性

（各学部の教育改革）

激しく変化する社会に対応するための普遍的なコンピテンシーと，知識集約型の未来社会に積極的に関わっていくための幅広く確かな専門知識の双方が求められる中で，前者に対応するためにユニバーシティ・ポリシーの策定と大学共通 MAST プログラムの構築に取り組んできた。後者に対応するため，各学部の教育課程を見直す必要がある。各学部の教育課程の専門性を再確認し，より鮮明にすることが，本学共通の教育システムとして学生の学びをデザインするために欠かせない。

法学部においては，弁護士や警察官等の「人を助ける仕事」，公務員や銀行員等の「社会を豊かにする仕事」，教員やコンサルタント等の「人を育てる仕事」など，「法律の知識が役立たない分野はない」との認識のもと，多様な進路を示し，多様な人材養成に取り組んできた。教育課程は，一般教育科目と専門教育科目の２区分で編成してきたが，多様な人材養成への対応から，科目が乱立し体系性が不明瞭な状況になっていた。このたびの全学改革に伴い，ディプロマ・ポリシーの見直しと大学共通 MAST プログラムの導入，一般教育科目の抜本的改廃，法学基礎・専門科目の再体系化に取り組んでいる。MAST プログラムにおける現代を読み解く５つの視点（地域，ビジネス，異文化，心理，地球環境）と再整理された法学知識の組み合わせにより，確かな専門知識を幅広く活用し，たくましく現代社会を生き抜くことができる人材養成を目指す。

医用工学部においては，「医学と理工学を組み合わせた学び」を提供し，生命医工学科において臨床検査技師を，臨床工学科において臨床工学技士を養成している。いずれも文部科学大臣指定（認定）の医療関係技術者養成学校ではなく，国家試験受験承認学校である。つまり，各国家資格に特化した教育課程を修めるための学部ではなく，工学分野を基盤とした教育研究を行う学部である。しかしながら国家資格取得に対する学生・受験生の関心が高く，

そのニーズに応えるため，これまで国家試験の対策に資源を集中させてきた。その結果，国家試験合格率は全国に遜色のない結果[13]を得られ，卒業生は病院等の医療現場に多く就職している。一方，最近は医療現場においても，専門知識を獲得し国家資格を有するだけではなく，幅広い教養や視野などを大学での活動経験を通じて獲得している学生が求められる傾向が強い。そこでこのたびの全学改革に伴い，ディプロマ・ポリシーの見直しと大学共通 MAST プログラムの導入，一般教育科目の改廃を行い，専門医療系資格取得者に付加価値をつけることができる教育を志向する。

また，地域社会の持続的な発展に貢献する本学園の新たな使命に貢献すべく，宮坂力特任教授[14]をはじめとする次世代太陽電池ペロブスカイトの研究陣を中心とする新たな教育プログラムを構築する。脱炭素化の近未来を見据え工学的な観点から持続可能な社会づくりに貢献できる人材を育成するため，医用工学部から工学教育のシーズを，全学から環境や社会，地域づくり等の教育シーズを集め融合し，全学の連携教育プログラムとする。医用工学部はこの新たなプログラムに連携協力しつつ，工学の新たな学びからフィードバックを受け，学部が掲げてきた「医学と理工学を組み合わせた学び」を再確認し，改善活動を行い，医用工学部教育の高次化を図っていく。

スポーツ健康政策学部においては，本学園が大きな力を注いできたスポーツ活動と文化活動を礎に，社会学的，経済的，政治的，文化的，歴史的な側面から現代社会を捉え，文化・スポーツを通じて課題解決に貢献できる人材育成を志向し，本学園のフラッグシップとして本学を牽引してきた。スポーツ教育学科，スポーツテクノロジー学科，スポーツ健康政策学科の３学科を，スポーツ科学，政治学，工学，文化学など様々な人文社会，自然科学の諸分野で構成している。スポーツ教育学科においては，複雑化する現代社会の要請にこたえることができ，正確で柔軟な指導法を身に付けた教育職員や，生涯学習時代におけるスポーツの指導者等の人材を養成している。スポーツテクノロジー学科においては，スポーツ科学や工学，関連する領域の専門的な知識とともに，科学的・総合的な見識と技能等を持つ指導者やエンジニアを養成している。スポーツ健康政策学科においては，文化やスポーツ，健康に関わる政策立案に資する人材や，スポーツや文化芸能などに精通し次世代のスポーツ文化交流の担い手となる人材を養成している。

このたびの全学改革は，本学園のフラッグシップとしてのスポーツ健康政策学部の教育理念を，学部を越えて，本学の持つすべての分野に展開するところにある。単一の専門分野に通じた人材育成から脱却し，普遍的なコンピテンシーと幅広く確かな専門知識を獲得した人材を育成するため，スポーツ健康政策学部で培った教育資源を全学で共有，再編することが必要である。そのため当学部から多くの資源を提供し，大学共通 MAST プログラムを構

---

[13] 2021 年度国家試験合格率
臨床検査技師：80.6%（全国平均 80.2%），うち新卒 91.3%（全国平均 91.6%）
臨床工学技士：93.5%（全国平均 84.2%）

[14] 2017 年に『効率的なエネルギー変換を達成するためのペロブスカイト材料の発見と応用』で クラリベイト・アナリティクス引用栄誉賞を受賞。ノーベル賞候補と注目されている。

築した。それに伴い，スポーツ健康政策学部においてもディプロマ・ポリシーを見直し，一般教育科目を改廃し，大学共通 MAST プログラムを導入する。

スポーツ健康政策学部の理念を全学共通で普遍化し，そのための共通プログラムが発足するにあたって，当学部は「確かな専門知識」を獲得できる教育課程を再構築する必要が生じる。そこでスポーツ健康政策学部の専門性をスポーツ科学や工学，教育に集中させ，スポーツ科学部[15]として改組（学位分野に変更なし，別途届出申請）し，大学共通の学びと学部の専門の学びという全学的な構造を完成させる。

（４）現代教養学環を設置する趣旨

このたびの全学改革は，３学部から教育資源を結集した大学共通 MAST プログラムを構築し，各学部の専門課程を改良することで，大学として普遍的なコンピテンシーと幅広く確かな専門知識を獲得した人材を育成できる教育システムを構築することを狙いとしている。普遍的なコンピテンシーと専門知識は，MAST プログラムを含めた各学部の課程を通じて育成するものであり，普遍的なコンピテンシーを主に MAST プログラムが担い，専門知識を主に各学部の課程が担う，という二分化された構造にならないよう，十分な工夫が必要である。つまり，学部の連携協力が一般・教養の部分に限定され，学部の各専門教育が従来通り閉じてしまうことを避けなければならない。知識集約型の社会を迎えるにあたって，そして SDGs に貢献できる人材を育成していくにあたっては，知と知の組合せが重要であり，学部の連携協力はむしろ「分野を越えた専門知の組合せ」に向かうことが現代的本質である。

本学においては，大学共通 MAST プログラムの構築にあたって，全学的な連携協力の経験を共有できた。この経験を基礎に取組を高次元化し，知識集約型社会で活躍できる人材，SDGs に貢献できる人材を育成する本学の使命を果たすべく，連携協力による新たな学位プログラムを構築する。令和元年（2019 年）の大学設置基準改正により，２以上の学部等との緊密な連係及び協力の下，横断的な分野に係る教育課程を実施する学部等連係課程実施基本組織を置くことが可能となった。全学改革において，全学部が連携協力し，学園と大学の使命を果たすべく資源を結集し，未来社会の構築に貢献できる人材育成を行うことを目指す本学にとり，この新制度は有用である。

全学が連携協力する新課程では，法学部で実施する法学，行政，政治・経済，企業，地域に関する分野，医用工学部で実施する環境，工学に関する分野，新スポーツ科学部（旧スポーツ健康政策学部，p.9 参照，以下「スポーツ科学部」という。）で実施する健康，現代社会，経営，心理，地域，国際，福祉に関する分野を１つの教育課程として融合するとともに，学外フィールドを活用した実習を組み入れ，社会科学，工学の複合的視点から現代社会の諸課題を読み解くカリキュラムとし，５つの領域（地域社会学，マーケティング学，国際コミュニケーション学，心理学，サスティナブル工学）に立脚しながら知識集約型社会，SDGs に

[15] スポーツ教育学科，スポーツ健康科学科の２学科体制で改組申請。本学は既に「スポーツ科学研究科」を有しており，この改組により大学院との接続がより明確になることも企図している。

貢献できる現代的教養を備えた人材を輩出する。

またSDGsへの貢献に関しては，基礎工学に加え次世代太陽電池ペロブスカイト研究の成果を教育に還元する科目を新設し，環境分析，現代社会，地域文化等の他分野の視点を組合せたカリキュラムも併設し，工学技術を軸に，持続可能な脱炭素化社会の実現に向けて能力を発揮できる人材を輩出する。

カリキュラムには，分野横断型の科目を設定する。この科目は法学部・医用工学部・スポーツ科学部の学生にも開放し，多様な学生がそれぞれの専門課程を主に学びながら，このカリキュラムをハブとして「分野を越えた専門知の組合せ」を経験することができる。これにより，本学全体の教育効果の向上が可能となる。

このように本学全体で，連帯を基調とし，変化の激しい社会においてもエージェンシーを発揮し，社会を支える人材を輩出することができる大学に転換していくため，「現代教養学環」を学部等連係課程制度に基づき設置する。

（５）教育目標と養成する人材像

（桐蔭横浜大学の教育目標）

桐蔭横浜大学憲章において次のように宣言している。

○　日本社会と世界の将来像に照らして，社会貢献できる人材を育成する。大学生，大学院生が，自ら判断する能力と実行力を磨き，仲間と協同することもできる人間に鍛える。

○　人権意識に目覚めさせ，市民性の涵養を行う。

この憲章を具現化するため，「すべての学位プログラムにおいて，深い教養と倫理観を礎とした専門的知識・技能を有し，主体的に社会と関わり，その中で『人生と学びの基盤となる力』を発揮することで，社会の持続可能な発展に貢献し新たな価値を生み出すことができる人材を育成する」と大学共通の教育目標を定めている。

（現代教養学環の教育目標）

本学の教育資源を結集し，全学として知識集約型社会・SDGs に貢献できる人材育成を目指す現代教養学環の教育目標は，５つの領域（地域社会学，マーケティング学，国際コミュニケーション学，心理学，サスティナブル工学）から現代的諸課題に対峙し，自ら考え，主体的に行動して，責任を持って社会変革を実現していくことができる人材，確かな専門知識・技術により持続可能な社会づくりに貢献できる人材を養成し，輩出する。

（養成する人材像）

以上の目標を達成するために，現代教養学環では，幅広い教養と確かな専門知識を身につ

けて，現代社会の構造的課題を理解し，今後の持続的な発展に向けてアイデアを出し，それを具現化し，持続可能で豊かな社会の構築に貢献できる，実践的な能力を修得した以下のような人材を養成する。

① 現代社会の成り立ちや課題を理解し，多角的な視点と柔軟な発想をもって情報収集や状況判断を行い，問題解決のために行動することができる
② 他者の意見や考えを傾聴するとともに，自らの意見や考えを表現し，多様な主体と協働することができる
③ 積極的に新しいことに挑戦し，その実現のために必要とされる物事を理解し，それに向けて計画し，実行することができる
④ 地域・都市の持続的な発展に向けて，専門的な知識や技術を他者との協働の中で発揮し，アイデアを具現化し，実行することができる

（６）卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

現代教養学環は，統合された知をもって，現代社会の諸課題の解決に貢献する人材を輩出することを目標として，卒業時に以下のような能力を身につけた者に学士の学位を授与する。

１．人文・社会科学，自然科学について幅広く理解するとともに，自分の専攻する分野に関する専門知識を身につけている。【現代的教養】
２．自分の専攻分野に関する専門知識を中心に，隣接する分野に横断する幅広い知識を現代的課題と関連づけて理解している。【専門知識と分野横断】
３．物事を批判的に捉えて問題を発見するとともに，その問題解決のために行動することができる。【考動力】
４．多角的な視点と柔軟な心をもって，物事をとらえることができる。【複眼的思考力】
５．他者の意見や考えに耳を傾けるとともに，自らの意見や考えを表現し，伝えることができる。【共感力】
６．集団の目標達成のために，自らの果たすべき責任を自覚するとともに，他者と良好な関係を築き，協働することができる。【リーダーシップ】
７．積極的に新しいことに挑戦するとともに，粘り強く学び続けることができる。【探究力】
８．長期的な展望をもって将来の人生を思い描き，その実現のために必要とされる物事を理解し，それに向けて計画し，実行することができる。【自律的キャリア】

（７）養成した人材が活躍する場

本学では，これまで一人ひとりの「専門性を高める」ことを目標に掲げ教育研究活動を行

い，専門分野への高い就職実績を積み重ねてきた。また，学生が将来社会で希望の仕事に就き，思う存分活躍するために，キャリア講座やインターンシップ，業界研究セミナーなどに加え，本学ならではの学生と教員の「距離の近さ」を活かしたきめ細やかなキャリア支援を行ってきた。

現代教養学環ではこれらの取組に加え，養成した人材が修得した能力を活かして持続可能で豊かな社会の構築に貢献できるよう，ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を修得する過程において，複数の地域に出向いて人々と体験を共有し，そこでの課題解決に向けて切磋琢磨する学外実習等の実践的な教育を行う。これにより学生は，現代社会の課題を経験的に学修するとともに，地域の企業や官公庁，NPO 法人，金融機関等の仕事の現場を具体的に知ることができる。

このような教育課程内外の取組を踏まえ，持続可能な社会に向けて課題解決できる能力を携えた学生が，地域のサスティナブル経営を志向する企業や官公庁，NPO 法人，地域企業を支える金融機関等でその能力を発揮し活躍できるよう，教育とキャリア支援に取り組んでいく。

（８）中心となる学問分野

全学が連携する新課程では，法学部で実施する法学，行政，政治・経済，企業，地域に関する分野，医用工学部で実施する環境，工学に関する分野，スポーツ科学部で実施する健康，現代社会，経営，心理，地域，国際，福祉に関する分野を１つの教育課程として融合し，現代的課題を複眼的に捉え，課題解決に向けてアイデアを実践できる教育課程を編成する。本学の持つこれら資源を現代的にニーズの高い５つの領域（地域社会学，マーケティング学，国際コミュニケーション学，心理学，サスティナブル工学）に焦点化し，教育活動を実施する。本学が持つ専門分野（法学，工学）を構成する諸要素を切り出し，及び及びスポーツ科学に関する資源も合わせて結集し，現代的視点で再構成することで，今求められる人材育成に貢献していく。

＜地域社会学に関する分野＞

政治・経済，地域情勢，地域文化など，いわゆる地域学を中心に教育研究を行う。具体的にはコミュニティ・ファシリテーション，地域における健康課題，サステナブル社会学など

＜マーケティング学に関する分野＞

企業ビジネス，政治・経済など経営学分野にマーケティング・リサーチ，ウェブ・コミュニケーションなどを加え，融合的な教育研究を行う。具体的にはデジタル産業論，ビジネスの科学，アントレプレナーシップなど

＜国際コミュニケーション学に関する分野＞

国際情勢，言語学，現代社会などを礎に様々な現代文化を取り扱う，比較文化学の教育

研究を行う。具体的には表現とコミュニケーション，言語文化論，視覚文化論など

＜心理学に関する分野＞

健康，心理学を中心に教育研究を行う。具体的にはこころの世界，青年と心理学，健康と心理学など

＜サスティナブル工学に関する分野＞

工学を中心に，環境，政治・経済，地域文化などを融合させたサスティナブル工学の教育研究を行う。具体的には地球環境の科学，持続可能な開発と法，科学技術の未来など

また，現代教養学環には，学習科学に基づき学生その他の学びのプロセスや成果等を研究対象とする「学びデザイン研究所」を附置機関として設置することを検討している。

２．学部・学科等の特色

（１）現代教養学環の教育上の特色

現代教養学環は，地域社会の持続的な発展に向けて，現代的課題を５つの領域（地域社会学，マーケティング学，国際コミュニケーション学，心理学，サスティナブル工学）から複眼的に捉え，課題解決に向けてアイデアを形にしていく人材育成を，全学協働で実践する。

全学的な連携協力により構築した大学共通 MAST プログラムを基礎教育として実施する。大学共通 MAST プログラムでは，キャリア，スキル，データサイエンス，語学の科目が全学必修となっている。その上で既存学部においては，大学共通 MAST プログラムの特徴である各科目群（地域，ビジネス，異文化，心理，地球環境）のコア科目を１科目選択必修とし，学生は自身の関心に基づき履修する科目群を選択する。現代教養学環では，この科目群をすべて履修する。５つの視点をすべて知り，現代的課題を複眼的に捉え，横断的な知識をもって現代社会に対峙することを学ぶ。

現代教養学環の専門教育では，学生は自身の関心に基づき５つの領域（地域社会学，マーケティング学，国際コミュニケーション学，心理学，サスティナブル工学）から知識を深める分野を選択する。基礎教育の段階ですべての視点を幅広く学び，専門教育の段階で自身の専攻を決めていくレイトスペシャライゼーション型のカリキュラムとなっている。大学共通の基礎教育段階から専門教育段階まで一体的に設計されたカリキュラムの中で，学生が幅広い教養と確かな専門知識を身につけていくことができるシステムとなっている。

現代教養学環では，課程を通じて徹底的にアクティブラーニングを行う。知識等を学修し，他者との協働の中でその学修した知識等を用い表現していく。この十分な内化[16]と外化[17]のサイクルを，課程の至るところに実装する。外化には，課程内のプロジェクト科目や学外研修プログラム，ボランティアやインターンシップなど，複数の活動を設定している。また課程外にも，大学として参画している神奈川産学チャレンジプログラム[18]など外部の取組も積極的に活用する。

また，必修科目やプロジェクト科目，ゼミ等の重要科目で埋め込み型パフォーマンス評価（Pivotal Embedded Performance Assessment，PEPA）を実施し，課程の重要な局面毎にディプロマ・ポリシーの達成度を自己評価・他者評価を行い，その結果を「ショーケース」に記録する。「ショーケース」は，キャリア支援の取組として企業等に直接提示[19]することを前提に記録していく。

---

[16] 読む・聞くなどを通して知識を習得したり，活動（外化）後のふり返りやまとめを通して気づきや理解を得たりすること。(internalization)

[17] 書く・話す・発表するなどの活動を通して，知識の理解や頭の中で思考したことなど（認知プロセス）を表現すること。(externalization)

[18] 一般社団法人神奈川経済同友会の会員が所属する企業および団体と神奈川県内に拠点を持つ大学が中心となって行う，産学連携による学生の人材育成を目的とした課題解決型研究プログラム

[19] 学生の学びを可視化し，社会との接続を円滑にするためを作成・発行するもの。学びの履歴，学修の成果のみならず，数理・データサイエンス・AI など，意図された科目ユニットを履修した学生には，その証明としてショーケース上に履修履歴を記載し，社会等に PR できるように設計。我が国においては「日本版ディプロマ・サプリメント」等，同様のツールが開発され，取り組まれている大学も少なくない。(東京都市大学など)

（２）現代教養学環設置による本学の活性化

このような教育上の特色を持つ現代教養学環の開設により，その成果を全学的なアクティブラーニング，カリキュラム・マネジメント，キャリア支援，そして内部質保証の実質化に波及させていく。現代教養学環を，学部等連係課程制度を用いて設置する趣旨は，本学が取り組むべき教育改革のモデルを構築するとともに，そのモデルを間接的ではなく学部との連携部分を通じて直接的に波及させていくところに狙いがある。

また，持続可能な社会という理想的な未来からバックキャストで５つの領域（地域社会学，マーケティング学，国際コミュニケーション学，心理学，サスティナブル工学）を設定し，本学の資源を最大限に活用しながら教育研究に取り組んでいく現代教養学環の設置により，地域社会との連携をより積極的に進めていくことが可能となる。これまでは本学園のトランジションセンターの企画運営のもと，案件に応じて必要な教員等が参画する形態で地域連携を進めてきたが，今後は社会課題に対峙する現代教養学環が組織上のハブとなり，トランジションセンターとの連携協力のもと，より強力に地域貢献を進めていくことが可能となる。特に，脱炭素化という重大なテーマを課題とする当地域に対しては，サスティナブル工学を軸とした科学技術面での貢献のほか，まちづくりのアイデアなど，ハード・ソフトの両面での地域貢献を推進していくことができる。

（３）現代教養学環を構成する連係協力学部と全学協働体制

全学協働体制による現代教養学環は，既存３学部のすべてを連係協力学部とし，教員の現代教養学環教育への参画，授業科目の共同開講，施設・設備の共用により実現する。また教育研究開発機構所属の教員も参画し，授業科目の開設，教育課程の運営等に協力する。

法学部からは１名が専属専任教員[20]として配置される。この教員は主に現代教養学環教育の基礎部分となる大学共通 MAST プログラムを専従として担当しながら，アスリートの科学，リーダーシップ教育などの講義科目，ゼミナール，知識集約型研究プロジェクトなどの演習科目において，知識の定着と外化の役割を担う。他，兼担教員[21]として９名が，租税法，比較政治制度論，政治学，法哲学，市民形成論などの授業科目において教育課程を担当する。

医用工学部からは３名が連係専任教員[22]として配置される。これら教員は，科学技術の未来，地球環境の科学，ゼミナール，知識集約型研究プロジェクトなどの教育を担当する。他，兼担教員として５名が，分析化学，基礎光学，サスティナブル工学研究法，環境分析学などの授業科目において教育課程を担当する。

スポーツ科学部からは４名が専属専任教員として配置される。これら教員は，地域社会学コースにおける地域における健康課題，コミュニティ・ファシリテーションなどや，マーケティング学コースにおけるビジネスの科学，アントレプレナーシップ，デジタル産業論など，

---

[20] 専属専任教員：現代教養学環の業務を主に行い，現代教養学環でのみ主要な授業科目を担当する教員。
[21] 兼担教員：現代教養学環以外の学部等部局に所属する専任教員で，授業科目の提供又は共同開設を業務とする教員。
[22] 連係専任教員：現代教養学環と連係協力学部の双方の業務を行い，双方で主要な授業科目を担当する教員。

国際コミュニケーション学コースにおける表現とコミュニケーション，言語文化論，視覚文化論など，心理学コースにおける健康と心理学などを担当する。他，兼担教員として８名が，地球と環境，国際交流論，デジタル産業論などの授業科目において教育課程を担当する。

このほか教育研究開発機構からは３名が専属専任教員として配置され，地域社会学コースにおける地域の科学，サスティナブル社会学，心理学コースにおける心の科学，国際コミュニケーション学コースにおける異文化の科学などを担当する。１名が連係専任教員として配置され，基礎部分のソーシャル・コミュニケーションなどを担当する。

また，現代教養学環の学生定員については，スポーツ健康政策学部の理念を全学共通で普遍化していくことを基盤とすることから，スポーツ健康政策学部（スポーツ科学部）の学生定員から 70 名（スポーツ教育学科より 40 名，スポーツ健康科学科より 30 名）を割り当て，現代教養学環の学生定員として配置する。

３．学部・学科等の名称及び学位の名称

組織名称　：　現代教養学環　School of Arts and Sciences
学　　位　：　学士（学術）　Bachelor of Arts and Sciences

（１）組織名称を当該名称とする理由

本学に設置するこの新たな学位プログラムは，激しく変化する社会に対応するための普遍的なコンピテンシーと，知識集約型の未来社会に積極的に関わっていくための幅広く確かな専門知識の双方が求められる中，本学の教育資源を結集し，現代社会の課題を５つの領域（地域社会学，マーケティング学，国際コミュニケーション学，心理学，サスティナブル工学）から捉え，自ら考え，主体的に行動して，責任を持って社会変革を実現していくことができる人材を育成する。

日本学術会議提言「21 世紀の教養と教養教育」[23]においては，「各国が世界共通の問題の平和的な解決に協働して取り組み，また，各国はそれぞれに自国社会の諸問題を解決し，豊かな文化の展開と社会の活力の維持・向上に取り組んでいくことが重要」とし，「その取り組みに参加し，それを担っていくことのできる豊かな教養の形成，すなわち柔軟かつ創造的な知性および実践的能力の形成と，そのような教養を育み培うことのできる教育・大学教育の充実」を求め，「21 世紀に期待される教養は，現代世界が経験している諸変化の特性を理解し，突きつけられている問題や課題について考え探究し，それらの問題や課題の解明・解決に取り組んでいくことのできる知性・智恵・実践的能力である」と結論づけている。

すなわち，この新たな学位プログラムで実施する教育は 21 世紀の教養，現代教養教育である。現代教養は，国内他大学でも学部や学科の名称として使用する複数の先行事例があり，それら教育内容と比較しても，本学の新たな学位プログラムが現代教養を冠することは，受験生や学生，その他ステークホルダーに対しても通用性が高い。

また，２以上の学部等との緊密な連係及び協力の下，横断的な分野に係る教育課程を実施する学部等連係課程実施基本組織を置くことが可能となった新制度を用い，全学から資源を結集し，学びを環のようにつなぎ学位プログラムを構築する。学生と教員が，建学の精神に掲げるように，社会との連帯を基調として，環となって現代社会の諸課題に取り組んでいく。こうした精神を可視化するため，「学環」という名称を用い，当該学位プログラムの実施基本組織を「現代教養学環」と名付けた。学部等連係課程制度の実施先行事例に照らしても通用性が高い名称としている。

組織の英語名称は，School of Arts and Sciences とした。教養を Arts and Sciences と表記する国内外の大学の事例も多く，また学位プログラムを College of Arts and Sciences, School of Arts and Sciences とする国外の事例も多い。学部等連係課程としての先行事例である岐阜大学社会システム経営学環も School of Social System Management としてい

[23] 日本学術会議　日本の展望委員会　知の創造分科会（平成 22 年４月５日）

る。学環の名称としてSchool of Arts and Sciencesとするのは，国際的な通用性も担保できる。

（２）学位の名称と当該学位とする理由

科学技術・学術審議会は，「人文学・社会科学が社会的課題に向き合い『総合知』の創出・活用に貢献していくためには，人文学・社会科学において厚みのある『知』の蓄積を図るとともに，社会課題やデータを様々な研究分野と共有し，学際的に協働する取組を促進することが必要」とし，今後の人文学・社会科学振興の取組方針[24]を策定した。文理を問わず，分野を越えた学術的な連携の重要性が益々高まっている。

現代教養学環においては，法学分野を持つ法学部，工学分野を持つ医用工学部，スポーツ科学部の連係協力により教育研究を実施する。これら教育資源を結集し，現代社会の諸課題を５つの領域（地域社会学，マーケティング学，国際コミュニケーション学，心理学，サスティナブル工学）に焦点を絞り学ぶ現代教養の教育プログラムである。

一方，５つの領域（地域社会学，マーケティング学，国際コミュニケーション学，心理学，サスティナブル工学）から現代的諸課題に対峙し，自ら考え，主体的に行動して，責任を持って社会変革を実現していくことができる人材，確かな専門知識・技術により持続可能な社会づくりに貢献できる人材を養成し，輩出することを教育目標とする現代教養学環では，学生は前述した日本学術会議提言が謳う現代教養を身につけるとともに，本学の持つ法学，工学の学際的な専門知識・技術を修めることになる。幅広い教養と確かな専門知識を身につけて卒業する学生には「教養」ではなく，教養も含めた学際性を表現するものとして「学術」の学位を付与することが適当であると考えた。分野横断型のプログラムにおいて学士（学術）を付与する国内大学の事例も数多く確認できる。学士（学術）の英語名称については，国際的にも BASC（BASc）として数多くの大学で使用されている実績があり，国際的な通用性が高いBachelor of Arts and Sciencesとした。

[24] 「『総合知』の創出・活用に向けた人文学・社会科学振興の取組方針」科学技術・学術審議会学術分科会人文学・社会科学特別委員会，令和３年８月24日。

４．教育課程の編成の考え方及び特色

（１）教育課程の基本的な考え方

現代教養学環では，５つの領域（地域社会学，マーケティング学，国際コミュニケーション学，心理学，サスティナブル工学）から現代的諸課題に対峙し，自ら考え，主体的に行動して，責任を持って社会変革を実現していくことができる人材，確かな専門知識・技術により持続可能な社会づくりに貢献できる人材を養成するため，全学部の連係により実施する大学共通 MAST プログラムを基礎教育として他学部より広くかつ深く学修するとともに，法学部，医用工学部，スポーツ科学部の開講科目を融合的に配置する。

教育課程は，徹底的にアクティブラーニングを行うよう編成する。知識等を学修し，他者との協働の中でその学修した知識等を用い表現していくサイクルを，課程の至るところに実装する。そうしたサイクルの中で，学生は幅広い視点を学びながら高年次になるにつれ専門的に学ぶ分野を絞っていくレイトスペシャライゼーション型の教育課程としている。

（２）教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

現代教養学環では，ディプロマ・ポリシーの達成のために，大学共通の MAST プログラム，専門的知識を深める５つのコースとゼミナール科目を体系的・構造的に配置するとともに，学生の達成状況を常に評価しながら，何を学んだか，ではなく何を身につけたかを重視したカリキュラム編成を行う。

１．「人生と学びの基盤となる力」（考動力，複眼的思考力，共感力，リーダーシップ，探究力，自律的キャリア）を MAST プログラム中心に修得し，現代的教養を身につける。
２．MAST プログラムで視野を広げた後，専攻分野を選択し，専門探究において専門知識を深め，他者と協働する知識集約型研究プロジェクトにより分野を横断した知識を身につける。
３．各授業科目では，知識の定着を総括的に評価するとともに，資質・能力の獲得を形成的に評価する。教育課程を通じては，各年次の主要科目においてディプロマ・ポリシーの達成度を評価する。

（３）科目区分

カリキュラム・ポリシーを教育課程に反映させるため，次の通りの科目区分を設定し，体系的で順次性のある履修を実現する。

（全学必修科目）

MAST プログラムの導入科目（MAST A）として，所属学部等を問わずすべての学生が履修する必修科目を配置する。

桐蔭キャリアゲート：

学生の過去の学びや経験と現在の自分をつなぎ，未来のなりたい自分を思い描くことを通して，ライフキャリアを明確にすることを目指す必修科目

桐蔭スキルゲート：

コミュニケーションの作法，文書作成やプレゼンテーションなど大学生活に留まらず，現代社会で必須となるスキルを身につけることを目的とした必修科目

データコミュニケーション入門：

様々な情報をデータとして共有・活用できる数理・データサイエンス・AI に関する知識や能力を備えた人材を育成する必修科目

ディプロマ・ポリシーを達成するための根幹となる科目であるため，授業内外における学修支援体制を万全にし，すべての学生が各到達目標を達成できるよう，全学的に支援を行う。この他，英語コミュニケーション科目も同様に全学必修科目としている。

（MAST プログラム）

「人生と学びの基盤となる力」（考動力，複眼的思考力，共感力，リーダーシップ，探究力，自律的キャリア，p.6 参照）を育成すること，及び「現代社会の構造的課題を理解」することを目的に，MAST プログラムを配置する。

現代社会の諸課題を捉える５つの視点（地域，ビジネス，異文化，心理，地球環境）に対応した科目群「コンポ」[25]を置く。各コンポには，学生の思考を解きほぐし，柔軟な思考様式を身につけるとともに，各視点におけるものの見方を理解することを目的とするコア科目をそれぞれ配当し，現代教養学環の学生はその全てを必修として設定する（複領域学修（Multi-disciplinary））。その上で学生は，基礎科目を履修し，自分の経験や将来のキャリアにひきつけて考えることを通して，コア科目で身につけたものの見方を発展させ，「プロジェクト入門」科目において知識を統合し表現（外化）する（MAST B）。現代教養学環の学生には，この MAST B 科目群のうち２年次で選択するコースに対応する科目は，コース基礎科目となる。

次に，コア科目，基礎科目，プロジェクト入門を通して身につけた各領域の思考様式を発展させる発展科目を履修（内化）し，コンポを横断して知識を統合し表現（外化）する「分野横断型プロジェクト」科目で締めくくる（MAST C）。なお，現代教養学環の学生は，この MAST C 科目群を専門科目におけるコース基礎科目として履修する。

[25] コンポーネント（component）を用いた造語。

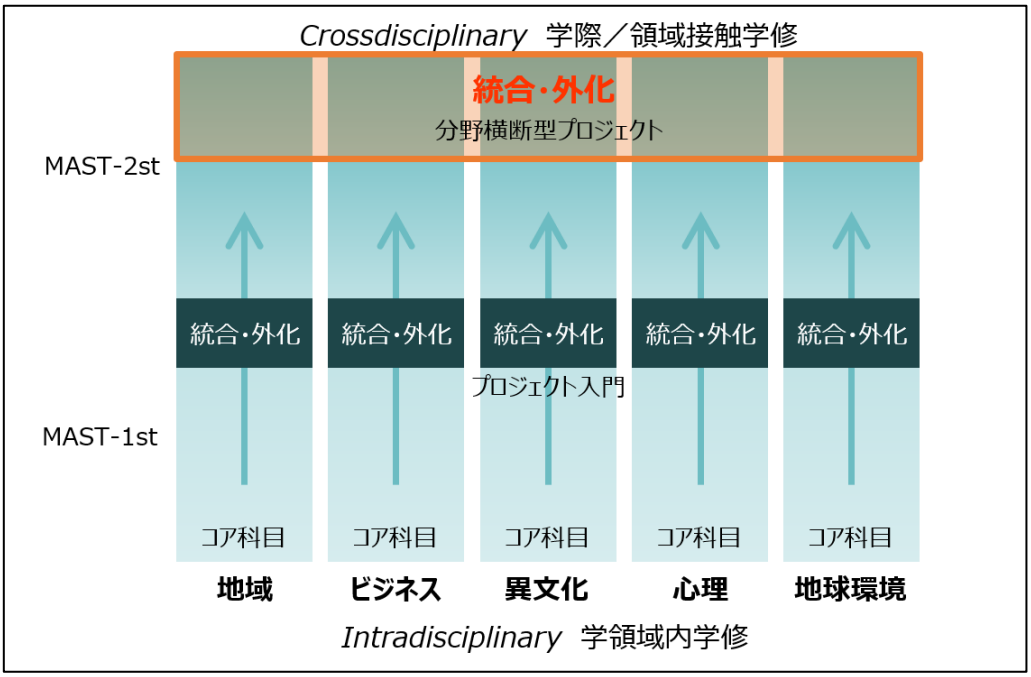


図５　MAST プログラムの構造

（専門必修科目）

現代教養学環の学生は，MAST A 科目の応用版として，ロジカルライティング，ロジカルコミュニケーション，デジタルスキル，データコミュニケーションを学び，専門科目，専門探究ゼミ，知識集約型研究プロジェクトがより深い学びとなるよう，知識・スキルを磨く。

（実習科目／桐蔭キャラバン）

MAST プログラムにおいて，５つの視点の科目群を学ぶことにより幅広い視野を獲得し，現代社会の構造的課題を理解した。そのことをもって，日本の複数都市をめぐる中で社会を相対化する視点を養い，仲間との協働を通じて知を統合するとともに，現実の各地域社会が抱える課題を特定し，解決策を提案していく学外実習を行う。

（コース基礎科目）

学生が人文・社会科学，自然科学に対する理解を深めるとともに，専攻分野に関する専門知識を身につけるため，専門科目を配置する。学生は，２年次に地域社会学コース，マーケティング学コース，国際コミュニケーション学コース，心理学コース，サスティナブル工学コースのうち一つを選択し，その分野の専門性を深めていく。コース基礎科目群では，主となるコース及び副となるコースを選択し，２つのコースの基礎を学ぶ。

地域社会学コース　Regional and Community Studies Program：

社会学の理論を土台として，行政や産業，観光などから社会のあり方について学ぶ。

身の回りの地域に留まらず日本社会が抱える構造的課題の解決に貢献できる人材を育成する。

マーケティング学コース　Marketing Program：

マーケティング理論を中心に，起業家精神や現代社会特有のビジネスのあり方を学ぶ。激しく変化する現代社会のなかで新たな価値を創出し，社会の持続可能な発展に貢献する人材を育成する。

国際コミュニケーション学コース　International Communication Program：

言語や文化を中心に，異文化コミュニケーションの理論を学ぶ。グローバル社会の一員としての自覚を持ち，豊かな国際感覚を身につけ，多文化共生社会の実現に貢献する人材を育成する。

心理学コース　Psychology Program：

社会の中で生きる人間のこころと行動に関わる様々な理論を学ぶ。心理学の思考と理論を土台にして，現代社会の諸問題を心理学的視点から読み解き，課題解決に貢献する人材を育成する。

サスティナブル工学コース　Sustainable Engineering Program：

工学を中心に，エネルギー問題や地球温暖化などの課題を克服し，脱炭素化社会を実現するための知識・技術を学ぶ。環境と経済を両立し，豊かで持続可能な社会づくりに貢献する人材を育成する。

（現代社会考察科目）

MAST プログラムにおいて獲得した５つの視点，桐蔭キャラバンで獲得した幅広い視野，選択したコースの基礎科目を一度総括し，現代社会の構造と課題を理解するための科目群を学ぶ。実際の都市・地域社会に触れてきた桐蔭キャラバンを「現代社会の科学」で総括し，この後に各コース専門の学びを深めるにあたって，実際に現代社会において専門性を発揮している教員たちの研究に触れる科目，本学における各専門科目と学環のコースがクロスする科目を配置し，現代社会を考察していく。

（コース専門科目）

主となるコースを１つに決定し，各コースの研究法をはじめ，専門性を深めていく。専門探究ゼミナールと並行して履修することで，学領域内学修（Intra-disciplinary）を深化させていく。

（専門探究ゼミナール）

現代教養学環では，２年次の第１タームに基礎ゼミナールⅠを開講し，コース研究室ローテーションを行うことで，学生と指導教員のマッチングを行う。２年次第２タームには基礎ゼミナールⅡを開講するが，ここでは学生は主となるコースと副となるコースのゼミを２

つ履修する。３年次第１ターム・第２タームにかけて専門探究ゼミナールⅠ・Ⅱを開講し，各コースに応じた専門の学びを，少人数のアクティブラーニング型演習で深めていく。３年次第３ターム（IAL ターム）[26]には専門探究ゼミナールⅢを開講する。入学後より MAST プログラムで５つの視点の基礎を全て学び，２年次より各コースに配属され深めてきた専門の学びの成果をまとめる。これにより，学領域内学修（Intra-disciplinary）は完結し，４年次の知識集約型研究プロジェクトによる学際的横断・領域横断学修（Inter-disciplinary）への準備を終える。

（知識集約型研究プロジェクト）

現代教養学環は，入学時点で専門を決めず，設定する領域を幅広く学ぶ中で学生自身の関心を引き出し，２年次以降に専門コースに配属されるレイトスペシャライゼーション型の教育課程としている。しかしながら，全学として知識集約型社会・SDGs に貢献できる人材育成を目指す現代教養学環においては，知と知の組合せが重要であり，レイトスペシャライゼーションにより専門特化したままでは，この学位プログラムが目指す学修成果を達成できない。

そのため，４年次のゼミナール及び知識集約型研究プロジェクトにおいては，３年次にまとめた各学生の専門の学びの成果を用い，コース内外の学生たちと交わり，議論し，協働することで自身の専門知と他者の専門知を組み合わせ，横断し，融合して新たな知を創出する経験をする。現代社会の諸課題を解決するための方法論として，現代教養学環が学生たちに最も伝えたいものであり，この学位プログラムの集大成として設定するものである。

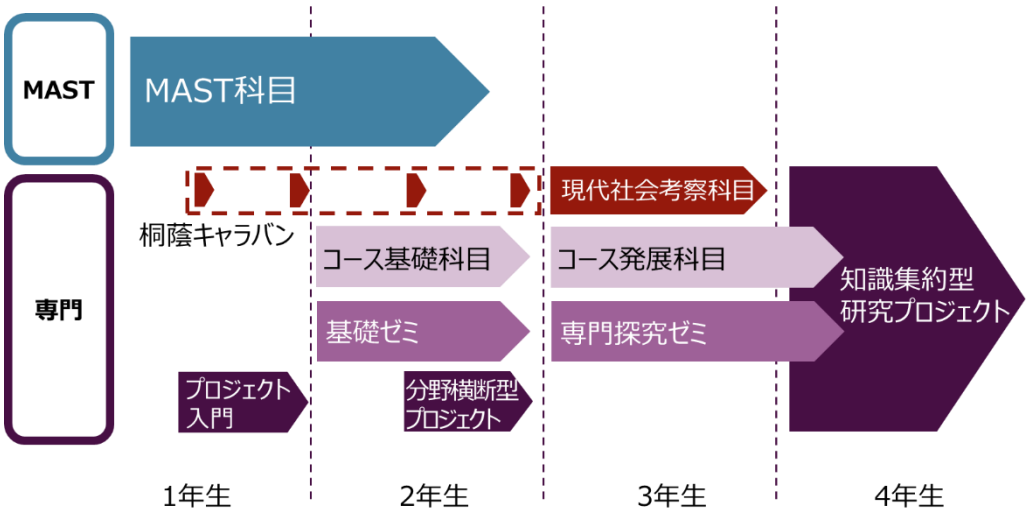


図６　現代教養学環で学ぶ４年間

[26] 2022 年度より，第１ターム・第２ターム を 105 分×13 週（1,365 分）授業とし，１～３月に集中的な学修を行う第３ターム（Intensive Active Learning term，IAL ターム）を導入している。

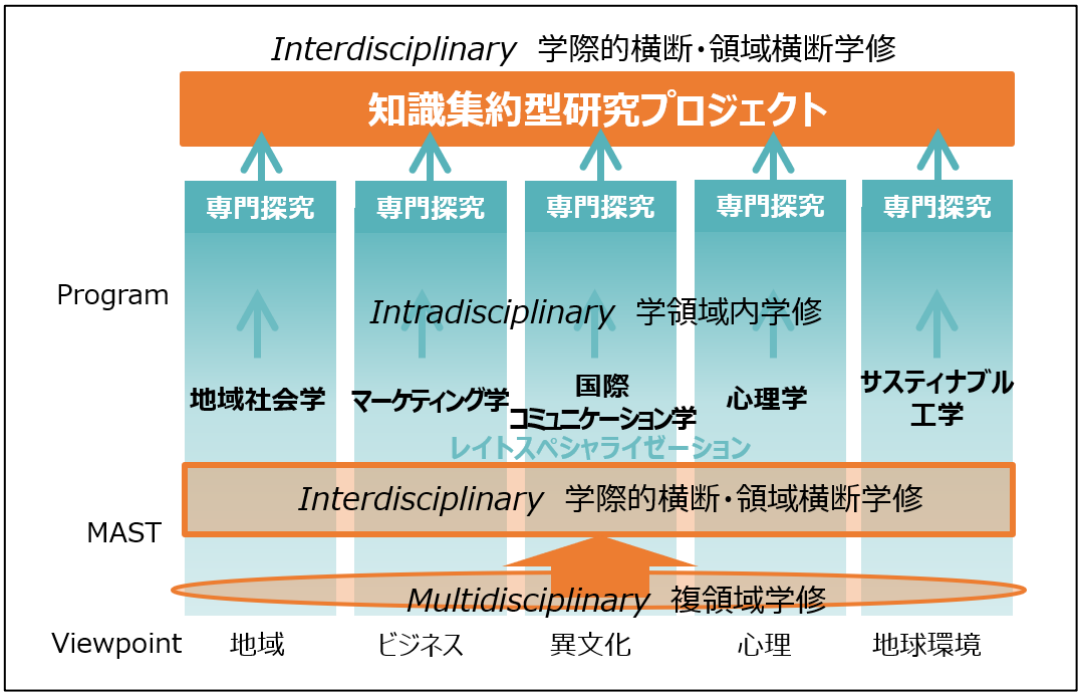


図７　現代教養学環教育課程の構造

（４）教育課程の特色

現代教養学環の教育課程には，レイトスペシャライゼーション，知識集約型研究プロジェクト，アクティブラーニング，桐蔭キャラバン，埋め込み型評価，という特色がある。教養の教育課程は得てして散発的になりかねないが，これら特色を組み込むことにより，養成する人材像／教育目標に向けて，着実に成果を重ねていく教育課程となっている。

（レイトスペシャライゼーション）

MAST プログラムの段階では，現代教養学環の学生は現代社会の諸課題を捉える５つの視点（地域，ビジネス，異文化，心理，地球環境）に対応した科目群「コンポ」を幅広く履修する。これには,「人生と学びの基盤となる力」の獲得及び「現代社会の構造的課題を理解」するための MAST プログラムを徹底的に学び，ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力をより高次に獲得させるだけではなく，２年次で行うコース選択に向けて学びの視野を広げさせる意図がある。学生は，多様な視点や考え方を理解した上で，専攻し深める領域を決定していく。

２年次以降配当の５コース（地域社会学，マーケティング学，国際コミュニケーション学，心理学，サスティナブル工学）は，MAST プログラムの各科目群「コンポ」をより深めるように設計している。このレイトスペシャライゼーションを教育課程に組み込むことにより，総花的でアラカルトな履修を抑止し，幅広い視野から専門的な学びに移行していく履修モデ

ルを提示することで，学生のより高次の学びがデザイン可能となる。

（知識集約型研究プロジェクト）

MAST プログラムにおいて複領域学修（Multi-disciplinary）を行い，２年次以降の専攻コース選択により学領域内学修（Intra-disciplinary）を深める（レイトスペシャライゼーション）。３年次にはその専門の学びの集大成として成果をまとめ，専門知を獲得する。現代教養学環が特色として誇るのは，４年次の知識集約型研究プロジェクトによる学際的横断・領域横断学修（Inter-disciplinary）である。

知識集約型の社会において主要なアクターになるためには，確かな専門知を携えた上で他者と協働し，知と知を組み合わせてイノベーションを創出していく経験の蓄積が重要となる。現代教養学環の知識集約型研究プロジェクトでは，３年次までに獲得した専門知を，異なる分野の学生たちで持ち寄り，組み合わせ，横断し，統合することで新たな知を創出する経験をする。レイトスペシャライゼーション＋知識集約型研究プロジェクトのカリキュラムが、現代教養学環の比類なき特徴と言える。

（アクティブラーニング）

現代教養学環の授業科目は，「個－協働－個の学習サイクル」を基本とし，講義，演習，オンラインなどすべての授業形態においてアクティブラーニングの手法を活用する。形だけのアクティブラーニング型授業に陥らず，内化－外化－内化を往還させる学習サイクルを確立していく。

すべて授業科目は，一方向的な知識伝達型の講義で完結しない。対面で行う授業はもちろん，オンラインを活用して行う授業においても，学生と教員の双方向性，及び学生と学生のコミュニケーションを担保し，グループワーク，リフレクション，プレゼンテーション等のツールを活用しながら主体的，対話的で深い学びを促していく。

（桐蔭キャラバン）

現代社会の諸課題に対峙し，自ら考え，主体的に行動して，責任を持って社会変革を実現していくことができる人材を養成する現代教養学環では，実際に身をもって社会課題に触れ，他者と交わりながら試行錯誤する経験を重視している。そこで，１年次夏期集中，１年次第３ターム（IAL ターム），２年次夏期集中，２年次第３ターム（IAL ターム）に，「桐蔭キャラバン」と称する複数のフィールドワーク演習を実施する。大学が立地する横浜市と，日本の複数都市をめぐり，社会を相対化しつつ共通点を見出し，仲間との協働を通じて知を統合し，課題解決に向けて学びを深めていく。

（埋め込み型評価）

現代教養学環の各授業科目は，カリキュラム・チェックリストにより，ディプロマ・ポリ

シーの達成に必要な科目が過不足なく配置されていることを確認している。各授業科目はシラバス上にディプロマ・ポリシーの達成に向けた到達目標を設定し，適切な評価方法を用いて成績評価する。その積み重ねで，学生は卒業に必要な単位数を修得すると同時にディプロマ・ポリシーを達成することが期待される。

このことは，３つのポリシーに基づく学修成果の評価として，国の政策が求め，全国の大学で定着した一つの方法論である。現代教養学環においてもこの方法は採用するものであるが，学生の学修成果に基づき教育課程編成の PDCA サイクルを回し，内部質保証を実質化していくとき，やはり直接的に学生の学修成果を測定し，評価する取組が必要である。

そこで，現代教養学環のカリキュラムでは埋め込み型パフォーマンス評価（Pivotal Embedded Performance Assessment，PEPA）を実施する。ディプロマ・ポリシーを分解した各授業科目の成績評価とは別に，ディプロマ・ポリシーそのものの達成度を測る科目として全学必修科目，MAST プログラムにおけるプロジェクト科目，専門探究ゼミナール，知識集約型研究プロジェクトを設定し，各年次の主要な局面において学生の到達度を測定し，評価する。学生のディプロマ・ポリシーの到達度は，教育課程編成の PDCA サイクルに用いることはもちろん，学生自身の学びの PDCA サイクルにも活用する。到達度は「ショーケース」に記録し，学生は入学してからの学びの軌跡を何時でも振り返ることができ，社会との接続に向けて何をすべきか，主体的に考え，行動する習慣を身につけることになる。

５．教育方法，履修指導方法及び卒業要件

（１）教育課程の体系化

現代教養学環では，ディプロマ・ポリシーの達成に必要な科目を，カリキュラムマップを用いて精選し，配置している（添付資料１）。また各年次に埋め込んだアセスメント科目により，ディプロマ・ポリシーに向けた学生の到達度を確認できるようになっている。

教育課程は，MAST プログラムを踏まえた専門コース選択，専門探究ゼミナール，そして集大成としての知識集約型研究プロジェクトと，まず視野を広げ（Multi-disciplinary），専門を決定し深め（Intra-disciplinary），他者と協働し知識を集約（Inter-disciplinary）するための順次性が明確な編成としている。アラカルトな教養ではなく「現代教養」として本学が教授したいものを，学生はその意図を理解した上で学ぶことができる（添付資料２）。

（２）卒業要件

必修講義科目 34 単位，必修演習科目 18 単位を含め，MAST プログラムから 39 単位以上，学環専門科目から 59 単位以上を修得し，124 単位以上を修得した学生に卒業を認定し，学位を授与する。

（３）履修モデル

学生は全学必修科目，MAST プログラムを履修した後，専門必修科目，桐蔭キャラバン，選択したコースの専門科目を履修し，専門探究ゼミナールで知識を深めた後に知識集約型研究プロジェクトで知を統合する。体系的で順次性の明確なカリキュラムとなっているが，学生には複数の履修モデルを提示し，意義ある多様な学修をデザインできるよう支援をしていく（添付資料３～７）。

（４）卒業研究

学生は２年次にコースを決定し，専門科目を履修するが，それを踏まえて２年次の第１タームに開講する基礎ゼミナールⅠ（２単位）において指導教員のマッチングを行う。２年次の第２タームに開講する基礎ゼミナールⅡ（２単位）においては，主・副となるコースのゼミを２つ履修する（４単位）。３年次の第１ターム・第２タームには専門探究ゼミナールⅠ・Ⅱ（各２単位）を履修し，３年次第３ターム（IAL ターム）の専門探究ゼミナールⅢ（２単位）で学修の成果をまとめる。

４年次第１ターム・第２タームには，知識集約型研究プロジェクトⅠ・Ⅱ（４単位，６単位）を履修する。知識集約型研究プロジェクトは，バックグラウンドが異なる５名程度の学生グループを形成し，課題の設定，探究，分析，成果のまとめを行い，４年次第３ターム（IAL ターム）に学環として開催する成果報告会においてプレゼンテーションを行う。

（５）学修成果の可視化

ディプロマ・ポリシーを分解した各授業科目の成績評価とは別に，ディプロマ・ポリシーそのものの達成度を測る科目として全学必修科目，MAST プログラムにおけるプロジェクト科目，専門探究ゼミナール，知識集約型研究プロジェクトにおいて学生の到達度を測定し，評価する。学生のディプロマ・ポリシーの到達度は，教育課程編成の PDCA サイクルに用いることはもちろん，学生自身の学びの PDCA サイクルにも活用する。到達度は「ショーケース」に記録し，学生は入学してからの学びの軌跡を何時でも振り返ることができる。

（６）学修時間の確保

本学では 2022 年度より，標準授業時間数[27]を遵守しつつ，学生がオンとオフのメリハリの中で集中して深い学びを行う期間として，冬期に第３ターム（Intensive Active Learning term，IAL ターム）を導入している。第１ターム（４月～７月），第２ターム（９月～12 月）はそれぞれ１コマあたり 105 分授業，13 週開講とし，1,365 分の授業時間数を確保している。第３ターム（IAL ターム）は，曜日により５週～７週を確保し，第１・第２タームでは実施できない集中的な授業を実施する。

全学的には，第３ターム（IAL ターム）の履修を義務付けておらず，学生は，基本的には従来どおり第１ターム，第２タームの履修で卒業要件単位を修得することが可能である。しかしながら現代教養学環においては，桐蔭キャラバンや知識集約型研究プロジェクトの総括など，従来通りの学期区分では対応できないカリキュラムとなっており，積極的に第３ターム（IAL ターム）を活用することとしている。特に，２年次終盤～３年次前半は桐蔭キャラバンにより学外フィールドワークに長期間赴くため，従来型の２学期制ではカリキュラムが組めない。

第１ターム，第２タームは，それぞれ履修上限単位数を 24 単位と定めている。第３ターム（IAL ターム）は期間の短さや集中的な学びのための期間という趣旨を踏まえ，学生にとり真に必要な授業科目のみを厳選し，履修を勧める（上限６単位）。なお，直前の学期までの累積 GPA が 3.0 以上の学生には，第１・第２タームに限り，履修上限単位数を 30 単位まで緩和する。

（７）学修支援

本学ではこれまでも，中小規模の大学ならではの，学生と教職員の距離の近さを活かした履修相談や成績不振者のフォローを行ってきた。担任教員は学生の修学動向に目を光らせ，学務部の職員は毎学期，相当数の学生対応をしている。この外形には表しにくい本学の長所は今後も継続して伸ばしていきながら，2022 年度より新たに取り組んでいる事項がある。

（共通教育チューター）

---

[27] ２単位・週１コマの授業あたり，90 分×15 週＝1,350 分を標準授業時間数と設定。

本学としては初めて全学部共通の必修科目を３科目導入したことに際し，科目担当教員だけでは学生の躓きや遅れなどに十分に対応できない可能性がある。当然に，一義的には科目担当教員の責任であるが，大学入学直後の１年次生については，大学として支援を十全に行い，その後の修学も見据えた取組が重要であると判断した。そこで大学院生を中心に，学生の授業内外での活動を支援する共通教育チューター制度を導入した。チューターは，科目担当教員の管理下で，グループワークの支援や質問対応，提出物の整理などの授業内支援や，課題の提出状況のチェック，学修が遅延気味の学生の抽出と声がけ・サポートを行う。

（教学 IR）

本学における IR（Institutional Research）は，内部質保証の取組に用いるのみならず，学修支援の装置としても活用することとしている。学事システムである桐蔭横浜大学 Universal Passport（ユニパ）が提供する学修カルテ，ポートフォリオシステムや授業出席情報，成績情報，学修行動調査等のデータを IR 担当者が分析し，学生の修学に関するアーリー・アラートを出し，担任教員や学務部職員等に伝達し，懇切丁寧な修学相談にあたる。

（ラーニングスペース）

本学には，各棟の各所に学生のための学修スペースを設けているものの，面積としては十分とは言えない。そこで現代教養学環に限らず，全学生が学修のために使用できる空間として，300 ㎡規模の大教室を改修し，ラーニングスペースとして開放している。ラーニングスペースには，学生の学修サポート（レポートライティング等）のためのスタッフを駐在させている。

６．実習の具体的計画

（１）実習の目的と特徴

現代社会の諸課題に対峙し，自ら考え，主体的に行動して，責任を持って社会変革を実現していくことができる人材を養成する現代教養学環では，机上で理論を学修することにとどまらず，現実の社会の構造を理解し，社会を構成し動かしている実践者と触れ合うことで，現代社会の諸課題を「我が事」として受け止め，考えることができるよう，実習を重視している。

実習は，１年次「プロジェクト入門」，２年次「分野横断型プロジェクト」，１年次～２年次の「桐蔭キャラバン」フィールドワーク科目群，４年次の「知識集約型研究プロジェクト」と，各年次に体系的・構造的に配置している。視野を広げ，専門を決定し深め，他者と協働し知識を集約するそれぞれの段階において，各実習が主要な位置づけを占めていることが現代教養学環のカリキュラムの特徴である。

（２）実施方法と内容

各実習の科目概要は次の通りである。各年度の具体的な実施方法，内容，体制，予算等については，現代教養学環における教授会に相当する学環運営会議において審議する。

■　プロジェクト入門　Introduction to Project Management

１年次対象。MAST プログラムにおける５つの科目群（コンポ）ごとに，それぞれの学びの特徴に応じた「プロジェクト入門」を開講する。

プロジェクトの計画から実行・評価に至るプロセスを経験的に学ぶと同時に，社会課題の解決に取り組むための基盤となる資質・能力を身につけることを目標とする。また，学修者自らが意欲的にプロジェクトに取り組み，成果を出すことを目指す中で，科目群（コンポ）ごとのテーマに応じた学びを深め，授業時間外の活動を推奨する。

そうした中，プロジェクトの計画・実行に関わる基礎的な知識・技能について理解し，協働して社会課題の解決に取り組む素地を形成することを目指す。

■　分野横断型プロジェクト　Cross-disciplinary Project

２年次対象。MAST プログラムにおける５つの科目群（コンポ），及び専門各コースの基礎的知識を活用し，複数の他者と協働する中で分野を横断する重要性を学ぶ。

横浜信用金庫や株式会社アントレなど，地域の企業や団体等の協力のもと，現実に生じる課題の提示を受けた学生が主体的に解決策を検討し，提案する PBL(Project Based Learning)科目。社会で活躍するために必要な他者と協働的に学ぶスキルを活用しながら，学修者自らが意欲的にプロジェクトに取り組み，自ら問題を発見し解決する能力を養うことを目指す。

■　桐蔭キャラバン　Toin Caravan

１年次，２年次に実施。日本の複数都市をめぐる中で，社会を相対化する視点を養い，仲間との協働を通じて知を統合し，地域社会が抱える課題を特定し，解決策を提案する。

学生は，まずはMASTプログラムコア科目「地域の科学」（１年次第１ターム，２単位）において，横浜市青葉区をフィールドとして活動を行い，複数都市をめぐる前に思考の軸を形成する。１年次夏期集中期間には，「フィールドスタディⅠ」（１単位）において地方の小規模，中規模の都市において数日間の活動を実施する。１年次第３ターム（IALターム）には，「フィールドスタディⅡ」（１単位）において地元大都市である横浜市を探求する。

２年次夏期集中期間には，「フィールドスタディⅢ」（２単位）として，１年次と同じく地方の小規模，中規模の都市をめぐる。地方都市は，福島県や山梨県などと具体的な計画を進めている。２年次では２週間程度滞在し，それぞれの地域で生活しながら、滞在都市にある研究施設や芸術施設などを利用し，また現地の企業，行政機関，NPO法人，市民団体等との協働プロジェクトやインターンシップを経験しながら学びを深める。複数都市ごとに学びのテーマがあり，実際に暮らすことで各都市に即した特徴や課題に触れながら，幅広い内容の事柄を体験しつつ学ぶ実践型学修を行う。

２年次第３タームには，「フィールドスタディⅣ」（１単位）として，日本の首都である東京を題材にしたフィールドワークを行う。

■　知識集約型研究プロジェクト　Knowledge - Intensive Research Project

４年次に実施。３年次までに獲得した専門知を，異なる分野の学生たちで持ち寄り，組み合わせ，横断し，統合することで新たな知を創出する経験をする。この際，実社会で生じる時勢に即した課題へのアプローチを踏まえた学びを展開する。バックグラウンドが異なる５名程度の学生グループを形成し，課題の設定，探究，分析，成果のまとめを仲間との協働を通して行い，学環として開催する成果報告会においてプレゼンテーションを行う。

７．入学者選抜の概要

（１）入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

現代教養学環では，幅広い教養と確かな専門知識を身につけて，現代社会の構造的課題を理解し，今後の持続的な発展に向けてアイデアを出し，それを具現化し，持続可能で豊かな社会の構築に貢献できる人材を養成する。このため，現代教養学環では，次のような知識や能力を備え，主体的に社会変革を実現していく意欲のある人材を求める。

（知識・技能）
１．本学での学修に必要な基礎学力を有している。
（思考力・判断力・表現力）
２．目標を達成するため，現状を理解し，何をすべきかについて自ら考えることができる。
３．他者の意見を理解し，自己の考えを表現することができる。
（主体的に学習に取り組む態度）
４．積極的に他者と関わり，協働して活動することができる。
５．社会の持続可能な発展に関心を持ち，主体的に関わる意欲を有している。

（２）選抜方法

入学者選抜は，大学入学者選抜実施要項（文部科学省高等教育局長通知）に基づき，一般選抜，学校推薦型選抜，総合型選抜，特別選抜を実施する。ホームページをはじめ，大学案内パンフレット（キャンパスガイド），オープンキャンパス等の入試広報活動を展開し，アドミッション・ポリシーに合致する受験生を確保する。

○　令和５年度入試（第１期生）受入れのための実施案

◆一般選抜（全学統一試験）
試験科目：　国語※1，外国語※2，地理歴史・公民※3，数学※4，理科※5から２科目又は１科目選択
試験実施：　前期　２月上旬，後期　３月上旬
募集人員：　15 人

◆一般選抜（学部等前期）
試験科目：　国語※1，外国語※2，地理歴史・公民※3，数学※4，理科※5から２科目選択
試験実施：　２月上旬
募集人員：　10 人

◆大学入学共通テスト利用選抜
試験科目：　数学①または②，国語（近代以降の文章），地理歴史または公民，外国語，

理科①または理科②から３教科４科目選択

試験実施：　前期　１月募集，後期　２月募集

募集人員：　10 人

◆学校推薦型選抜（公募）

試験科目：　基礎学力検査，小論文，面接

試験実施：　11 月中下旬

募集人員：　10 人

◆総合型選抜

試験科目：　基礎学力検査，小論文，面接

試験実施：　10 月中旬，12 月上旬，３月中旬

募集人員：　20 人

◆特別選抜（社会人，留学生，帰国生徒募集）

試験科目：　小論文，面接

試験実施：　11 月下旬，12 月上旬

募集人員：　若干名

※1　国語：国語総合（近代以降の文章）

※2　外国語：英語（コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ，英語表現Ⅰ）

※3　地理歴史・公民：地理（地理 B），世界史（世界史 B，近世及び近代以降），日本史（日本史 B），政治・経済から選択

※4　数学：数学（数学Ⅰ・Ⅱ，数学 A・B））

※5　理科：物理（物理基礎・物理），化学（化学基礎・化学），生物（生物基礎・生物）から選択

（３）入学者選抜の実施体制

入学者選抜は，公正で公平な方法により，適切な体制を整えて行う。そのため，学長を本部長とする試験実施本部，全学入試委員長を本部長とする試験場本部を設置し，権限と責任を明確化し，全学一致体制で入学者選抜を実施する。

８．教員組織の編制の考え方及び特色

（１）教員組織編制の基本的考え方

前述した桐蔭横浜大学リ・ブランディング戦略（TURBoS）を具現化していくには，従来のように教員が学部内に閉じた活動を行うのではなく，全学一体となり，学部学科を問わず，必要な箇所に必要な者が携わる体制を整えることが決定的に重要である。既存の３学部の壁を取り払い，教育資源，とりわけ教員の人的資源を結集し，大学共通 MAST プログラムを構築したことは，その旗艦となる取組であった。

現代教養学環設置は，全学部が連携協力し，学園と大学の使命を果たすべく資源を結集し，未来社会の構築に貢献できる人材育成を行うことを目指すもう一つの旗艦的取組である。そのため，現代教養学環における教育研究に係る責任を担う教員組織の編制において重視すべきことは，連携協力と適材適所，すなわち，学生の学びのために資源を結集する「学修者本位の大学教育」である。

（２）教員組織

現代教養学環における業務を担う教員は，専属専任教員，連係専任教員，兼担教員，兼任教員から構成される。

専属専任教員と連係専任教員が，現代教養学環の専任教員となる。専任教員は，専門分野や教育研究上の能力，教学マネジメントの経験に基づき 13 名を配置する。うち１名は法学部，３名は医用工学部，５名はスポーツ科学部，４名は教育研究開発機構の協力により成立する。職位別には，教授が７名，准教授が３名，講師が３名となっている。１名はこれまでも全学的な要職を経験し，令和３年度からは学長補佐として全学改革を牽引する教員であり，現代教養学環設置後は学環長として就任することを予定している。学長執行部の一員として，学長のリーダーシップのもと現代教養学環設置の理念を具現化していく責務を負う者である。

専属専任教員は８名であり，現代教養学環の業務を主に行い，現代教養学環でのみ主要な授業科目を担当する。現代教養学環における教授会に相当する学環運営会議を主導する立場であり，全学の各種委員会等に現代教養学環を代表して参画する。

連係専任教員は５名であり，現代教養学環と連係協力学部の双方の業務を行い，双方で主要な授業科目を担当する。現代教養学環における教授会に相当する学環運営会議の構成員であり，現代教養学環における教育研究について審議する立場である。

兼担教員は 22 名であり，現代教養学環以外の学部等部局に所属する専任教員で，授業科目の提供又は共同開設を業務とする。もちろん当然に，現代教養学環における３つのポリシーに基づく教学マネジメントには参画する。兼任教員は 25 名であり，他大学その他に所属し，非常勤として現代教養学環の授業を担当する教員である。

（３）教員組織の年齢構成

完成年度（令和８年度）末時点の専任教員（専属専任教員及び連係専任教員）の年齢構成は，30 歳台１名，40 歳台４名，50 歳台２名，60 歳台４名，70 歳台１名であり，教育研究上の水準を維持向上させ，持続的に活性化させることができる年齢構成となっている。学校法人桐蔭学園桐蔭横浜大学教員定年規則において，教員の定年は満 63 歳若しくは満 68 歳[28]と定めており，学年進行中に２名の教員が定年に達するが，当該分野でより優秀で適切な若手教員を獲得し，より持続可能性の高い年齢構成実現する方針である。十分な期間を確保して人事計画を進めるため，綿密に業務の引継ぎなどを行うため，教育研究上の影響は極小とする。なお，次世代太陽電池ペロブスカイト研究の宮坂力特任教授は，特例により定年を適用しない。

（４）教員の業務管理

現代教養学環において，専任教員はゼミナールによる学生指導，授業担当，学位プログラムの教学マネジメントに携わる。加えて，連係専任教員においては現代教養学環と連係協力学部の双方の業務を行い，双方で主要な授業科目を担当する。このことから，特に連係専任教員において負担が過重とならないよう，学環長のもと，学環運営会議として教員のエフォートを常に管理し，必要に応じて大学執行部会議を通じて全学的な負担調整を行う。

[28] 採用時の形態により決定される。招聘教員は満 68 歳，その他教員は満 63 歳。

９．施設，設備等の整備計画

（１）校地校舎等

本学は，横浜市青葉区鉄町のキャンパスに，83,764 ㎡の校地と述べ床面積 40,863 ㎡の校舎を構え，3,450 名までは教育可能な施設設備を有している。2021（令和３）年５月現在，学部と大学院を合わせて 2,479 名の学生が在籍しているが，十分に余裕がある現況にある。

既存の法学部，医用工学部，スポーツ健康政策学部（新スポーツ科学部）は，それぞれの教育研究の特徴に応じた施設設備を有しており，学部名称を冠した棟もあるが，全学的な施設マネジメントとして特に各棟の使用を明確に区分することはなく，活動の目的に応じたキャンパス活用を行っている。現代教養学環においては，全学の連係協力のもと実施することから，これまでの全学的運用を改めて確認し，教育研究内容に応じた教室，研究室等を利用することとしている。

また現代教養学環に限らず，全学生が学修のために使用できる空間として，300 ㎡規模の大教室を改修し，ラーニングスペースとして開放している。各棟と連携し学生の学修空間をデザインし，至る所で学生がアクティブに学ぶことができるキャンパスとして整理することを目指す。

（２）図書等の資料及び図書館

学部・大学院の教育研究のため，床面積 3,141 ㎡，閲覧席 413 席の大学図書館を有している。現在，約 20 万冊の書籍と約 605 タイトルに及ぶ雑誌を保有し，約 1,400 タイトルの電子ジャーナルが閲覧可能となっている。開館時間は月～土曜日の９時から 20 時まで，日・祝日及び年末年始の大学休業日は休館となっている。２階参考閲覧室は，資料を大きく広げ複数人で画面を見ながらの作業が可能な 13 台の PC やホワイトボード，DVD ブースも備えた会話可能な閲覧室である。また，館内に個人用閲覧席が 86 席あり，集中して自習するスペースとして多く活用されている。

１０．管理運営

（１）運営会議

現代教養学環における教育研究等に関する事項を審議するため，専属専任教員と連係専任教員により構成される現代教養学環運営会議を設置し，毎月１回開催する。運営会議は次の事項を審議し，学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

－　学生の入学，卒業及び課程の修了に関する事項
－　学位の授与に関する事項
－　教育課程に関する事項
－　学環の教学マネジメントに関する事項
－　学生支援に関する事項
－　教員の教育研究業績に関する事項
－　学環の教員人事に関する事項
－　専任教員の業務管理に関する事項
－　その他教育研究に関する事項

（２）全学執行体制上の位置づけ

現代教養学環の設置にあたり，これまでも全学的な要職を経験し，令和３年度からは学長補佐として全学改革を牽引する教員が学環長として就任することを予定している。当面は学長補佐・学環長として学長執行部の一員として管理運営に携わり，学長のリーダーシップのもと，最前線で全学的な連係協力を具現化する役割を担う。

学環長は，現代教養学環を代表する者として，専任教員を次に掲げる全学委員会に参画させる。

－　全学学務委員会　：　教務に関する事項を審議
－　全学入試委員会　：　入試及び学生募集に関する事項を審議
－　全学学生委員会　：　学生生活に関する事項を審議
－　全学キャリア支援委員会　：　学生のキャリア支援に関する事項を審議

１１．自己点検・評価

（１）全学的実施体制

本学は，桐蔭横浜大学自己点検評価規程に基づき，教育研究，組織，運営並びに施設設備の状況について自己点検・評価を行う。全学的な責任を担うものとして，大学自己点検評価委員会を設置することとなっているが，現在の全学改革期において，点検評価項目の調整が多数発生することや，迅速なPDCAのチェック活動が必要なことから，当面の間は大学執行部会議が大学自己点検評価委員会を包括することとしている。

令和４年度より，内部質保証担当副学長を置き，学生の学修成果に基づく各教育プログラムの自己点検・評価を中心に，全学の教育研究活動において内部質保証を実質化させていくことに取り組んでいる。

（２）実施方法等

大学執行部会議のもと，各学部，各研究科，各事務部局においてそれぞれ自己点検評価委員会を設置（以下「学部等自己点検評価委員会」という。）し，大学執行部会議から定められた事項，及び自ら定める事項について自己点検を行う。事務責任部局である大学総務部が各学部等自己点検評価委員会における点検結果の提示を受け，その適切性を検討し，必要な場合は修正等を要請する。総務部は，適切と判断した各学部等自己点検評価委員会の点検結果を，作業過程も明らかになるようにしながら，大学執行部会議に提案する。大学執行部会議は提案の各内容を審議し，それを踏まえ学長が次年度の事業計画等に反映させていくサイクルとなっている。

個々の教員の自己点検・評価は，令和３年度より全学的な統一方針のもとで実施している。各教員は，指示を受けて自己点検・評価シートを作成し，学部長等に提出する。学部長等は，各教員の点検結果について吟味し，部局評価案を作成する。各教員の自己点検結果及び部局評価案は大学執行部会議に提出され，内容を確認の上，評価結果を決定し，学部長等を通じて各教員に結果を通知する。各教員の評価結果に基づき，教育活動の評価は令和５年度より所属学部等の教育活動費等の査定に用い，研究活動の評価は令和６年度より各教員の研究費配分の見直しに用いることを決定している。

１２．情報の公表

ホームページや大学案内等を通じて，本学の教育研究活動，社会貢献活動等の情報を学内外に積極的に発信している。なお，「教育情報の公表」として，学校教育法施行規則第 172 条の２に基づく情報公開を，次の URL にて実施している。

■ 教育情報の公表　／桐蔭学園 >桐蔭横浜大学
http://toin.ac.jp/univ/publish/

（学校教育法施行規則第 172 条の２に定める事項）

① 大学の教育研究上の目的及び第 165 条の２第１項の規定により定める方針（※３つのポリシー）に関すること

本事項に対応して，建学の精神・学園訓，桐蔭横浜大学憲章，学部及び研究科の目的・目標を公表している。各学部・研究科における３つのポリシーについては，次の URL から閲覧可能となっている。

■ ３つのポリシー　／桐蔭学園 >桐蔭横浜大学 >大学概要
http://toin.ac.jp/univ/overview/policy/

② 教育研究上の基本組織に関すること

本事項に対応して，基本組織，役職を公表している。

③ 教員組織，教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

本事項に対応して，教職員の数，専任教員一人あたりの学生数，専任教員の職位・年齢・性別構成，教員プロフィール及び業績を公表している。

④ 入学者の数，収容定員及び在学する学生の数，卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

本事項に対応して，入学定員・入学者数とその経年推移，収容定員・在籍学生数，卒業者数，留学生数，科目等履修生・聴講生・研究生数，社会人学生数，卒業後の進路や就職率等の状況を公表している。

⑤ 授業科目，授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

本事項に対応する情報として，教育課程や履修の方法などを記した「履修要項」をホームページ上でも公表し，閲覧可能としている。授業計画（シラバス）については，次の URL から閲覧可能となっている。

■ 桐蔭横浜大学授業計画
http://syllabus.cc.toin.ac.jp/jyugyoukeikaku/

⑥　学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

本事項に対応する情報として，教育課程や履修の方法，卒業要件などを記した「履修要項」をホームページ上でも公表し，閲覧可能としている。

⑦　校地，校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

本事項に対応する情報として，キャンパスマップ，各施設紹介，アクセスマップ，周辺地図を掲載している。

⑧　授業料，入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

本事項に対応して，入学金，授業料，施設整備費その他の諸経費のほか，授業料減免制度（特待生制度）や奨学金の情報を公表している。

⑨　大学が行う学生の修学，進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

本事項に対応して，学生と教員のコミュニケーションに関すること（オフィスアワー），大学生活で出会う様々な問題について相談できる学園相談室，ハラスメント相談のシステムが閲覧できるようにしている。

（その他）

■　大学ガバナンス・コード　／桐蔭学園 >桐蔭横浜大学 > 大学概要

http://toin.ac.jp/univ/overview/governance-code/

■　大学基準協会における大学評価（認証評価）について

／桐蔭学園 >桐蔭横浜大学 >大学紹介 >点検・評価

http://toin.ac.jp/univ/intro/check/evaluation2018/

１３．教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

（１）全学的な取組

全学的な見地から教育研究の一層の推進を図るための組織として，令和２年に教育研究開発機構を設置した。教育開発研究機構は，大学の教学マネジメントの推進，教育開発の研究を行う組織として，大学共通 MAST プログラムや高大接続事業の企画立案，学修行動調査，学修成果のアセスメント，教学 IR の実施，ファカルティ・ディベロップメント（以下「FD」という。）の企画運営を担ってきている。

FD については，高等教育全体の状況から本学が直面している課題，今後とるべく戦略等を検討する全学 FD や，各学部と教育研究開発機構が連携して，アクティブラーニングの推進やカリキュラム改革などを研究する学部 FD などを実施している。

特にコロナ禍におけるアクティブラーニングの実践事例を全学で共有する取組も進めており，特色ある事例はホームページ上にも掲載し，公表している。（■AL を止めない！桐蔭横浜大学 教育実践　http://toin.ac.jp/univ/onlineclass/）

また，授業評価の高い教員をエクセレント・ティーチャーとして毎年選出し，学長が顕彰する制度があり，教員の授業改善に対する意欲を喚起することに資する取組となっている。受賞者は，全学 FD で経験を全教員と共有することとなっている。

（２）現代教養学環としての取組

現代教養学環においては，全学的な取組に加え，各ターム（年３回）に学環 FD を実施する。アクティブラーニングの点検と改善，授業評価アンケートや学修行動調査等の学生の反応を受けた教育内容・方法の改善，学生の学修成果のアセスメント結果を踏まえたカリキュラムの改善等を定例として毎回のアジェンダに盛り込む。それらに加えて，全学から教育資源を結集した組織であることから，学環における教育活動を各学部等，全学にフィードバックする責務があるため，教育研究開発機構と協働して全学 FD の運営にも積極的に参画することとしている。

１４．社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

（１）適切な体制の整備と全学的な取組

学生の進路やキャリアを支援するための事務組織として，キャリア情報センターを置いている。また，全学的見地から学生のキャリア支援に関する重要な事項を審議する全学キャリア支援委員会を設置し，教員・職員協働のサポート体制を構築している。

学生の進路相談に丁寧に応じるため，３名のキャリアサポーターを配置している。キャリア形成に対する意識が高まっている学生への予約制のキャリア相談に加え，相談のハードルを下げ，まずはキャリア情報センターに足を運んでみることを促す「就活なんでも相談会」を毎週火曜日に実施している。

（２）教育課程内の取組

大学共通 MAST プログラムの導入科目として，全学生を対象とする必修科目「桐蔭キャリアゲート」,「桐蔭スキルゲート」,「データコミュニケーション入門」を配置している。社会的・職業的自立に向けて，意識とスキルの双方を身につけていく科目となっている。また，全学生が受講できるキャリア講座を開設している。自らを振り返り進路選択の幅を広げていく１～２年次対象の科目，自己分析を行い分野や職種等，進路選択を考える３年次対象の科目を配置している。

教育課程の重要な局面（プロジェクト入門，分野横断型プロジェクト，ゼミナール等）ごとに，ディプロマ・ポリシーの達成度を自己評価・他者評価を行い，その結果を「ショーケース」に記録する取組を進める。この「ショーケース」は学生の学びの PDCA に用いるとともに，３年次の段階では企業等に直接提示できる内容となるように指導する。キャリア情報センターが主体となって「ショーケース」を学生の就職先等企業にも評価いただけるよう働きかけること等を通じて,「ショーケース」の作成がディプロマ・ポリシーの達成に繋がり，ディプロマ・ポリシーの達成が進路成功に繋がる，というモデルを構築する。

（３）教育課程外の取組

キャリア情報センターの取組として，学内外の企業説明会や業界研究セミナー，面接対策，就職試験対策などに加え，本学ならではの学生と教員の「距離の近さ」を活かしたきめ細やかな支援プログラムを実施している。また，一般社団法人神奈川経済同友会の会員が所属する企業および団体と神奈川県内に拠点を持つ大学が中心となって行う，産学連携による学生の人材育成を目的とした課題解決型研究プログラム「神奈川産学チャレンジプログラム」にも積極的に参画し，学生のキャリア意識を涵養する取組も進めている。

資料

添付資料１	カリキュラムマップ
添付資料２	カリキュラムツリー
添付資料３	履修モデル１　心理学コース （マーケティング学コースを横断的に学ぶ場合）
添付資料４	履修モデル２　マーケティング学コース （心理学コースを横断的に学ぶ場合）
添付資料５	履修モデル３　国際コミュニケーション学コース （地域社会学コースを横断的に学ぶ場合）
添付資料６	履修モデル４　地域社会学コース （国際コミュニケーション学コースを横断的に学ぶ場合）
添付資料７	履修モデル５　サスティナブル工学コース
添付資料８	桐蔭横浜大学教員定年規則
添付資料９	桐蔭横浜大学特任教員内規

科目区分		授業科目の名称	単位	学年	ディプロマ・ポリシーとの関連							
					現代的教養	専門知識と分野横断	考動力	複眼的思考力	共感力	リーダーシップ	探究力	自律的キャリア
一般教育科目	MAST A	桐蔭キャリアゲート	2	1			○	○	◎	○	○	◎
		桐蔭スキルゲート	2	1			◎	◎			○	○
		データコミュニケーション入門	2	1			◎	◎	◎	○	○	○
		英語コミュニケーションⅠ	2	1				◎	○		○	○
		英語コミュニケーションⅡ	2	1				◎	○		○	○
		英語コミュニケーションⅢ	2	2				◎	○		○	○
		英語コミュニケーションⅣ	2	2				◎	○		○	○
	MAST B	地域の科学	2	1	○	○	◎		○		◎	
		サステナブル社会学	2	1	○	○	○	◎				◎
		地域における健康課題	2	1	○	○	◎	◎			○	
		コミュニティ・ファシリテーション	2	1	○	○		○	◎	◎		
		ビジネスの科学	2	1	○	○	◎			○		◎
		マーケティング各論	2	1	○	○	◎		◎	○		
		アントレプレナーシップ	2	1	○	○		◎			◎	○
		デジタル産業論	2	1	○	○		◎			◎	○
		異文化の科学	2	1	○	○	◎	◎			○	
		言語文化論	2	1	○	○	◎			○	◎	
		表現とコミュニケーション	2	1	○	○		○	◎	◎		
		視覚文化論	2	1	○	○		◎	◎		○	
		心の科学	2	1	○	○	◎	◎			○	
		健康と心理学	2	1	○	○	○		◎			◎
		こころの世界	2	1	○	○	○		◎			◎
		青年と心理学	2	1	○	○	○	◎			◎	
		地球環境の科学	2	1	○	○	◎	◎			○	
		科学技術の未来	2	1	○	○	○	◎			◎	
		地球と環境	2	1	○	○	○				◎	◎
		持続可能な開発と法	2	1	○	○	◎	◎			○	
		プロジェクト入門	2	1	○	○	○	○	◎	○	◎	○
	MAST C（コース基礎科目）	地域政治論	2	2	◎	○	○	◎			◎	
		地域観光事業論	2	2	◎	○			○		◎	
		横浜地域学	2	2	◎	○	◎	◎	○			
		実践地域創成学	2	2	◎	○	◎		○	◎		
		マーケティング・リサーチ	2	2	◎	○	◎	◎			○	
		ウェブ・コミュニケーション	2	2	◎	○	◎	◎	○			
		現代ビジネス論	2	2	◎	○	○	◎	◎			
		ビジネスアイデアデザイン	2	2	◎	○		○	◎		◎	
		異文化リサーチ	2	2	◎	○	◎	◎	○			
		ファッション文化論	2	2	◎	○		◎	◎		○	
		フード文化論	2	2	◎	○		◎	◎		○	
		若者文化論	2	2	◎	○		◎			◎	○
		集団と心理学	2	2	◎	○		○	◎	◎		
		幸せと心理学	2	2	◎	○		◎	○		◎	
		意思決定と心理学	2	2	◎	○	◎	◎			○	
		自己調整と心理学	2	2	◎	○			○		◎	◎
		分野横断型プロジェクト	3	2	◎	◎	◎	◎	○	◎	○	○
	自由科目	体育実技Ⅰ	1	1					○	○		
		体育実技Ⅱ	1	1					○	○		
		ボランティア論	2	1			○	○			○	
		ボランティア実習	2	1			○	○	○	○	○	
		海外実習	2	2			○	○	○	○	○	○

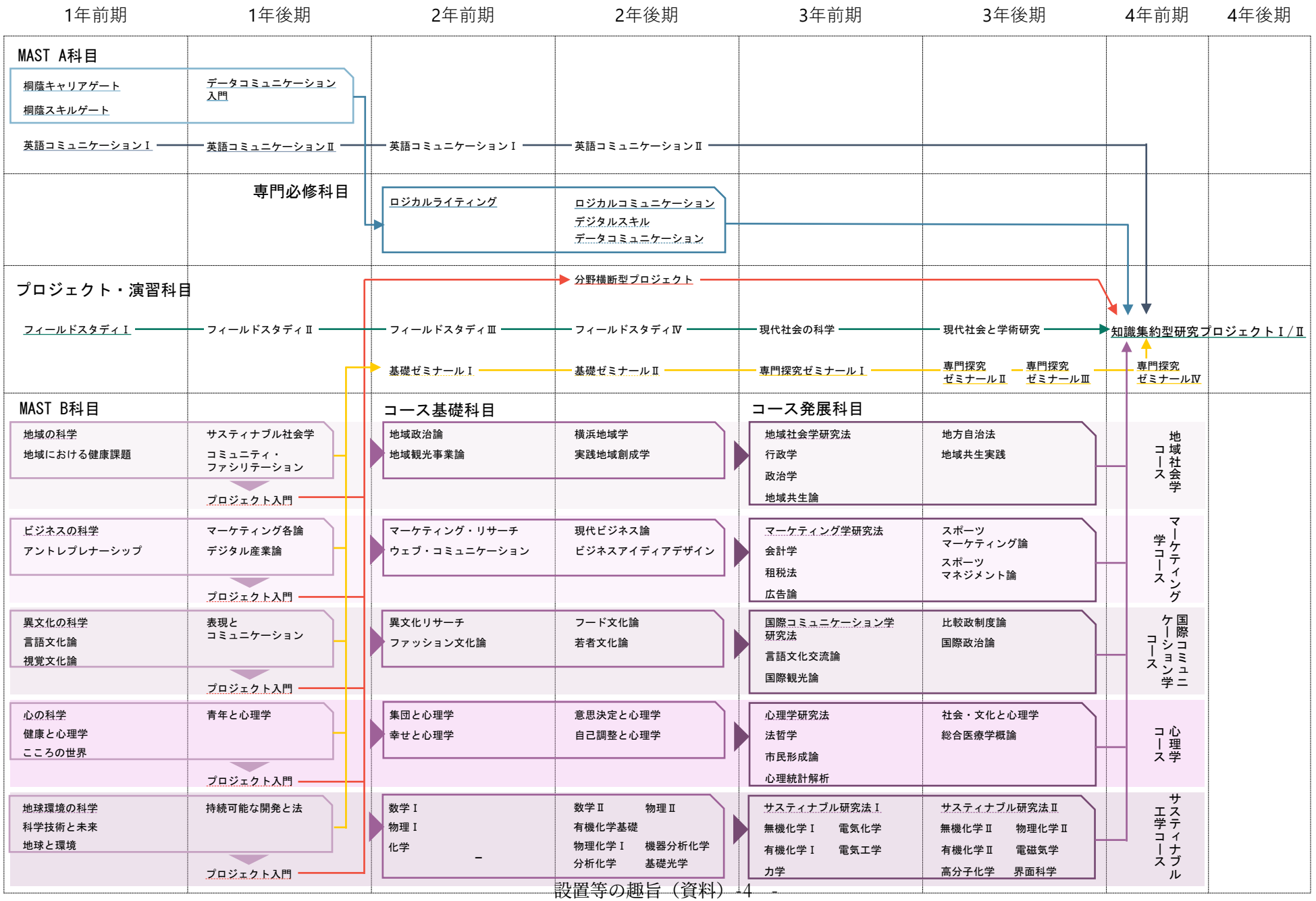
科目区分		授業科目の名称	単位	学年	ディプロマ・ポリシーとの関連							
					現代的教養	専門知識と分野横断	考動力	複眼的思考力	共感力	リーダーシップ	探究力	自律的キャリア
	キャリアプログラム	キャリアトランジション	2	2				○			○	○
		キャリアセミナーⅠ	2	2				○			○	○
		キャリアセミナーⅡ	2	2				○			○	○
		キャリアセミナーⅢ	2	3				○			○	○
		インターンシップ	2	3			○	○	○	○	○	○
		教師論	2	1					○			○
		教育心理学	2	1			○	○				
		教育原理・教育課程論	2	2			○	○				
		特別支援教育指導論	2	2				○	○			
		教育社会論（学校安全を含む）	2	2				○			○	
		道徳教育指導論	2	2			○		○			
		教育方法論	2	2				○				○
		生徒指導論	2	3				○				○
		教育相談・キャリア教育指導論	2	2					○			○
		特別活動・総合的な学習の時間指導法	2	3				○			○	
		ICT活用スキルの理論と実際	2	3			○	○				
		アスリートの科学	2	1				○	○			
		大学スポーツ論	2	1				○				○
		ことばのスキル	2	1				○	○			
		ソーシャル・コミュニケーション	2	1				○	○			
		アスリートキャリア	2	1				○				○
		アスリート・クロス	2	2				○				○
		リーダーシップ教育	2	2				○		○		
		ライフスキル	2	2				○			○	
	特別講義	MAST特別実習	1	1			○	○	○	○	○	○
		MAST特別講義	2	1			○	○	○	○	○	○
専門必修		ロジカルライティング	2	2			○	○			○	○
		ロジカルコミュニケーション	2	2					○	○	○	○
		デジタルスキル	2	2			◎	◎	○	○	◎	○
		データコミュニケーション	2	2			◎	◎	◎	○	○	○
		フィールドスタディⅠ	1	1				◎	◎	◎		
		フィールドスタディⅡ	1	1				◎	◎	◎		
		フィールドスタディⅢ	2	2				◎	◎	◎		
		フィールドスタディⅣ	1	2				◎	◎	◎		
		現代社会の科学	2	3	◎	◎		◎	○		◎	
		現代社会と学術研究	2	3	◎	◎		◎			○	◎
		地域社会学研究法	2	3	◎	◎	◎	◎			○	
		行政学	2	3	◎	◎	◎	◎				○
		政治学	2	3	◎	◎	◎	◎			○	
		地方自治法	2	3	◎	◎	◎	◎				○
		地域共生論	2	3	◎	◎		◎	○		◎	
		地域共生実践	2	3	◎	◎		◎	○	◎		
		マーケティング学研究法	2	3	◎	◎	◎	◎			○	
		会計学	2	3	◎	◎	◎	◎			○	
		租税法	2	3	◎	◎	◎	◎	○			
		広告論	2	3	◎	◎	○	◎	◎			
		スポーツマーケティング論	2	3	◎	◎	◎	◎	○			
		スポーツマネジメント論	2	3	◎	◎		◎	○	◎		
		国際コミュニケーション学研究法	2	3	◎	◎	◎	◎			○	
		言語文化交流論	2	3	◎	◎	○	◎	◎			

科目区分	授業科目の名称	単位	学年	ディプロマ・ポリシーとの関連							
				現代的教養	専門知識と分野横断	考動力	複眼的思考力	共感力	リーダーシップ	探究力	自律的キャリア
学環専門科目	国際観光論	2	3	◎	◎	◎	◎			○	
	国際交流論	2	3	◎	◎	○	◎	◎			
	比較政治制度論	2	3	◎	◎		◎			◎	○
	国際政治論	2	3	◎	◎	◎	◎			○	
	心理学研究法	2	3	◎	◎	◎	◎			○	
	法哲学	2	3	◎	◎		◎			◎	○
	市民形成論	2	3	◎	◎	◎	◎	○			
	心理統計解析	2	3	◎	◎	◎	◎	○			
	社会・文化と心理学	2	3	◎	◎		◎			◎	○
	総合医療学概論	2	3	◎	◎	○	◎			◎	
	数学Ⅰ	2	2	◎	◎	◎	◎			○	
	物理Ⅰ	2	2	◎	◎	◎	◎			○	
	化学	2	2	◎	◎	◎	◎			○	
	数学Ⅱ	2	2	◎	◎	◎	◎			○	
	物理Ⅱ	2	2	◎	◎	◎	◎			○	
	有機化学基礎	2	2	◎	◎	◎	◎			○	
	物理化学Ⅰ	2	2	◎	◎	◎	◎			○	
	分析化学	2	2	◎	◎	◎	◎			○	
	機器分析化学	2	2	◎	◎	◎	◎			○	
	基礎光学	2	2	◎	◎	◎	◎			○	
	サステナブル工学研究法Ⅰ	2	3	◎	◎	◎	◎			○	
	サステナブル工学研究法Ⅱ	2	3	◎	◎	◎	◎			○	
	無機化学Ⅰ	2	3	◎	◎	◎	◎			○	
	無機化学Ⅱ	2	3	◎	◎	◎	◎			○	
	有機化学Ⅰ	2	3	◎	◎	◎	◎			○	
	有機化学Ⅱ	2	3	◎	◎	◎	◎			○	
	高分子化学	2	3	◎	◎	◎	◎			○	
	物理化学Ⅱ	2	3	◎	◎	◎	◎			○	
	力学	2	3	◎	◎	◎	◎			○	
	電気化学	2	3	◎	◎	◎	◎			○	
	電気工学	2	3	◎	◎	◎	◎			○	
	電磁気学	2	3	◎	◎	◎	◎			○	
	界面科学	2	3	◎	◎	◎	◎			○	
	環境分析学	2	3	◎	◎	◎	◎			○	
	都市と防災	2	3	◎	◎	◎	◎			○	
演習	基礎ゼミナールⅠ	2	2	◎	○	◎	○	○	○	○	◎
	基礎ゼミナールⅡ	2	2	◎	○	◎	○	○	○	○	◎
	専門探究ゼミナールⅠ	2	3	◎	○	◎	◎	◎	○	◎	◎
	専門探究ゼミナールⅡ	2	3	◎	○	◎	◎	◎	○	◎	◎
	専門探究ゼミナールⅢ	2	3	◎	○	◎	◎	◎	○	◎	◎
	専門探究ゼミナールⅣ	2	4	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	知識集約型研究プロジェクトⅠ	4	4	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	知識集約型研究プロジェクトⅡ	6	4	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

現代教養学環カリキュラムツリー

（※科目名の下線は必修科目、点線はコースごとの必修科目（選択必修科目）を示す。

添付資料2



履修モデル1　心理学コース（マーケティング学コースを横断的に学ぶ場合）

		1年			2年			3年			4年			
		科目名	配当年次	単位	科目名	配当年次	単位	科目名	配当年次	単位	科目名	配当年次	単位	
一般教育科目	MAST-A	桐蔭キャリアゲート 桐蔭スキルゲート データコミュニケーション入門 英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1前 1後 1前 1後	2 2 2 2 2										10
	MAST-B	地域の科学 ビジネスの科学 異文化の科学 心の科学 地球環境の科学 健康と心理学 こころの世界 青年と心理学 マーケティング各論 アントレプレナーシップ デジタル産業論 プロジェクト入門（現代心理） プロジェクト入門（ビジネス・インテンシブ）	1前 1前 1前 1前 1前 1前 1前 1後 1後 1前 1後 1後 1後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	地域における健康課題 表現とコミュニケーション 持続可能な開発と法 言語文化論	1前 1後 1後 1前	2 2 2 2							34
	MAST-C （コース基礎科目）				集団と心理学 幸せと心理学 意思決定と心理学 自己調整と心理学 分野横断型プロジェクト	2前 2前 2後 2後 2後	2 2 2 2 3	マーケティング・リサーチ 現代ビジネス論 若者文化論	2前 2後 2後	2 2 2				17
	キャリアプログラム				キャリアトランジション キャリアセミナーⅠ キャリアセミナーⅡ リーダーシップ教育	2前 2前 2後 2後	2 2 2 2	キャリアセミナーⅢ インターンシップ	3前 3前	2 2				12
学環専門科目	専門必修	フィールドスタディⅠ フィールドスタディⅡ	1前 1後	1 1	ロジカルライティング ロジカルコミュニケーション データコミュニケーション フィールドスタディⅢ フィールドスタディⅣ	2前 2後 2後 2前 2後	2 2 2 2 1	現代社会の科学 現代社会と学術研究 デジタルスキル	3前 3後 2後	2 2 2				17
	コース発展科目							心理学研究法 市民形成論 心理統計解析 社会・文化と心理学 総合医療学概論	3前 3・4前 3前 3後 3・4前	2 2 2 2 2				10
	演習				基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ（心理学） 基礎ゼミナールⅡ（マーケティング学	2前 2後 2後	2 2 2	専門探究ゼミナールⅠ 専門探究ゼミナールⅡ 専門探究ゼミナールⅢ	3前 3後 3後	2 2 2	専門探究ゼミナールⅣ 知識集約型研究プロジェクトⅠ 知識集約型研究プロジェクトⅡ	4前 4前 4後	2 4 6	24
総単位数				38			42			32			12	124
年間履修登録単位の上限				48			48			48			48	

履修モデル2　マーケティング学コース（心理学コースを横断的に学ぶ場合）

		1年			2年			3年			4年			
		科目名	配当年次	単位	科目名	配当年次	単位	科目名	配当年次	単位	科目名	配当年次	単位	
一般教育科目	MAST-A	桐蔭キャリアゲート 桐蔭スキルゲート データコミュニケーション入門 英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1前 1後 1前 1後	2 2 2 2 2										10
	MAST-B	地域の科学 ビジネスの科学 異文化の科学 心の科学 地球環境の科学 健康と心理学 こころの世界 青年と心理学 マーケティング各論 アントレプレナーシップ デジタル産業論 プロジェクト入門（現代心理） プロジェクト入門（ビジネス・インテンシブ）	1前 1前 1前 1前 1前 1前 1前 1後 1後 1前 1後 1後 1後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	サステナブル社会学 科学技術の未来 持続可能な開発と法 視覚文化論	1後 1前 1後 1前	2 2 2 2							34
	MAST-C （コース基礎科目）				マーケティング・リサーチ 現代ビジネス論 ウェブ・コミュニケーション ビジネスアイデアデザイン 分野横断型プロジェクト	2前 2後 2前 2後 2後	2 2 2 2 3	集団と心理学 意思決定と心理学 横浜地域学	2前 2後 2後	2 2 2				17
	キャリアプログラム				キャリアトランジション キャリアセミナーⅠ キャリアセミナーⅡ ライフスキル	2前 2前 2後 2前	2 2 2 2	キャリアセミナーⅢ インターンシップ リーダーシップ教育	3前 3前 2後	2 2 2				14
学環専門科目	専門必修	フィールドスタディⅠ フィールドスタディⅡ	1前 1後	1 1	ロジカルライティング ロジカルコミュニケーション デジタルスキル データコミュニケーション フィールドスタディⅢ フィールドスタディⅣ	2前 2後 2後 2後 2前 2後	2 2 2 2 2 1	現代社会の科学 現代社会と学術研究	3前 3後	2 2				17
	コース発展科目							マーケティング学研究法 会計学 租税法 広告論	3前 3・4前 3・4前 3・4後	2 2 2 2				8
	演習				基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ（心理学） 基礎ゼミナールⅡ（マーケティング学	2前 2後 2後	2 2 2	専門探究ゼミナールⅠ 専門探究ゼミナールⅡ 専門探究ゼミナールⅢ	3前 3後 3後	2 2 2	専門探究ゼミナールⅣ 知識集約型研究プロジェクトⅠ 知識集約型研究プロジェクトⅡ	4前 4前 4後	2 4 6	24
総単位数				38			44			30			12	124
年間履修登録単位の上限				48			48			48			48	

履修モデル3　国際コミュニケーション学コース（地域社会学コースを横断的に学ぶ場合）

		1年			2年			3年			4年			
		科目名	配当年次	単位	科目名	配当年次	単位	科目名	配当年次	単位	科目名	配当年次	単位	
一般教育科目	MAST-A	桐蔭キャリアゲート 桐蔭スキルゲート データコミュニケーション入門 英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1前 1後 1前 1後	2 2 2 2 2	英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	2前 2後	2 2							14
	MAST-B	地域の科学 ビジネスの科学 異文化の科学 心の科学 地球環境の科学 言語文化論 表現とコミュニケーション 視覚文化論 サステナブル社会学 地域における健康課題 コミュニティ・ファシリテーション プロジェクト入門（異文化スタディ） プロジェクト入門（地域創生）	1前 1前 1前 1前 1前 1前 1後 1前 1後 1前 1後 1後 1後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2										26
	MAST-C （コース基礎科目）				異文化リサーチ ファッション文化論 フード文化論 若者文化論 分野横断型プロジェクト	2前 2前 2後 2後 2後	2 2 2 2 3	地域観光事業論 実践地域創成学	2前 2後	2 2				15
	キャリアプログラム				キャリアトランジション キャリアセミナーⅠ キャリアセミナーⅡ リーダーシップ教育	2前 2前 2後 2後	2 2 2 2	キャリアセミナーⅢ インターンシップ	3前 3前	2 2				12
	自由科目	海外実習	2前	2										2
学環専門科目	専門必修	フィールドスタディⅠ フィールドスタディⅡ	1前 1後	1 1	ロジカルライティング ロジカルコミュニケーション デジタルスキル データコミュニケーション フィールドスタディⅢ フィールドスタディⅣ	2前 2後 2後 2後 2前 2後	2 2 2 2 2 1	現代社会の科学 現代社会と学術研究	3前 3後	2 2				17
	コース発展科目							国際コミュニケーション学研究法 言語文化交流論 国際観光論 国際交流論 比較政治制度論 国際政治論 社会・文化と心理学	3前 3前 3後 3・4後 3・4前 3・4前 3後	2 2 2 2 2 2 2				14
	演習				基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ（国際コミュニケーション学） 基礎ゼミナールⅡ（地域社会学）	2前 2後 2後	2 2 2	専門探究ゼミナールⅠ 専門探究ゼミナールⅡ 専門探究ゼミナールⅢ	3前 3後 3後	2 2 2	専門探究ゼミナールⅣ 知識集約型研究プロジェクトⅠ 知識集約型研究プロジェクトⅡ	4前 4前 4後	2 4 6	24
総単位数				40			40			32			12	124
年間履修登録単位の上限				48			48			48			48	

履修モデル4　地域社会学コース（国際コミュニケーション学コースを横断的に学ぶ場合）

		1年			2年			3年			4年			
		科目名	配当年次	単位	科目名	配当年次	単位	科目名	配当年次	単位	科目名	配当年次	単位	
一般教育科目	MAST-A	桐蔭キャリアゲート 桐蔭スキルゲート データコミュニケーション入門 英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1前 1後 1前 1後	2 2 2 2 2	英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	2前 2後	2 2							14
	MAST-B	地域の科学 ビジネスの科学 異文化の科学 心の科学 地球環境の科学 言語文化論 表現とコミュニケーション 視覚文化論 サステナブル社会学 地域における健康課題 コミュニティ・ファシリテーション 持続可能な開発と法 プロジェクト入門（異文化スタディ） プロジェクト入門（地域創生）	1前 1前 1前 1前 1前 1前 1後 1前 1後 1前 1後 1後 1後 1後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2										28
	MAST-C （コース基礎科目）				地域政治論 地域観光事業論 横浜地域学 実践地域創成学 フード文化論 分野横断型プロジェクト	2前 2前 2後 2後 2後 2後	2 2 2 2 2 3							13
	キャリアプログラム				キャリアトランジション キャリアセミナーⅠ キャリアセミナーⅡ	2前 2前 2後	2 2 2	キャリアセミナーⅢ インターンシップ リーダーシップ教育	3前 3前 2後	2 2 2				12
	自由科目	ボランティア論 ボランティア実習	1後 1後	2 2										4
学環専門科目	専門必修	フィールドスタディⅠ フィールドスタディⅡ	1前 1後	1 1	ロジカルライティング ロジカルコミュニケーション デジタルスキル データコミュニケーション フィールドスタディⅢ フィールドスタディⅣ	2前 2後 2後 2後 2前 2後	2 2 2 2 2 1	現代社会の科学 現代社会と学術研究	3前 3後	2 2				17
	コース発展科目							地域社会学研究法 行政学 地方自治法 地域共生論 地域共生実践	3前 3・4前 3・4後 3前 3後	2 2 2 2 2	都市と防災	3・4後	2	12
	演習				基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ（国際コミュニケーション学） 基礎ゼミナールⅡ（地域社会学）	2前 2後 2後	2 2 2	専門探究ゼミナールⅠ 専門探究ゼミナールⅡ 専門探究ゼミナールⅢ	3前 3後 3後	2 2 2	専門探究ゼミナールⅣ 知識集約型研究プロジェクトⅠ 知識集約型研究プロジェクトⅡ	4前 4前 4後	2 4 6	24
総単位数				44			40			26			14	124
年間履修登録単位の上限				48			48			48			48	

履修モデル5　サスティナブル工学コース

		1年			2年			3年			4年			
		科目名	配当年次	単位	科目名	配当年次	単位	科目名	配当年次	単位	科目名	配当年次	単位	
一般教育科目	MAST-A	桐蔭キャリアゲート 桐蔭スキルゲート データコミュニケーション入門 英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1前 1後 1前 1後	2 2 2 2 2										10
	MAST-B	地域の科学 ビジネスの科学 異文化の科学 心の科学 地球環境の科学 科学技術の未来 地球と環境 持続可能な開発と法 サステナブル社会学 マーケティング各論 こころの世界 表現とコミュニケーション プロジェクト入門（地球環境）	1前 1前 1前 1前 1前 1前 1前 1後 1後 1後 1前 1後 1後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	アントレプレナーシップ 視覚文化論	1前 1前	2 2							30
	MAST-C （コース基礎科目）				数学Ⅰ 物理Ⅰ 化学 数学Ⅱ 物理Ⅱ 有機化学基礎 物理化学Ⅰ 分析化学 機器分析化学 基礎光学 分野横断型プロジェクト	2前 2前 2前 2後 2後 2後 2後 2後 2後 2後 2後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 3							23
	キャリアプログラム				キャリアトランジション キャリアセミナーⅠ	2前 2前	2 2	リーダーシップ教育	2後	2				6
学環専門科目	専門必修	フィールドスタディⅠ	1前	1	ロジカルライティング ロジカルコミュニケーション デジタルスキル データコミュニケーション	2前 2後 2後 2後	2 2 2 2							9
	コース発展科目							サステナブル工学研究法Ⅰ サステナブル工学研究法Ⅱ 無機化学Ⅰ 無機化学Ⅱ 有機化学Ⅰ 有機化学Ⅱ 高分子化学 物理化学Ⅱ 力学 電気化学 電気工学 電磁気学 界面科学 環境分析学	3前 3後 3前 3後 3前 3後 3後 3後 3前 3前 3前 3後 3後 3後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2				28
	演習							専門探究ゼミナールⅠ 専門探究ゼミナールⅡ 専門探究ゼミナールⅢ	3前 3後 3後	2 2 2	専門探究ゼミナールⅣ 知識集約型研究プロジェクトⅠ 知識集約型研究プロジェクトⅡ	4前 4前 4後	2 4 6	18
総単位数				37			39			36			12	124
年間履修登録単位の上限				48			48			48			48	

○桐蔭横浜大学教員定年規則

（平成 15 年 4 月 1 日制定）
最近改正　平成 19 年 9 月 1 日

（目的）
第１条　桐蔭横浜大学（以下「本学」という。）の教授、准教授、専任講師及び助教（以下「教員」という。）の定年については、この規則の定めるところによる。
（教員の定年）
第２条　本学の教員の定年は、満 63 歳とする。
２　大学設置、大学院設置又は学部・学科新設のため招へいした教員については、満 68 歳まで延長することができる。
３　学部長、研究科長については、別に定める。
４　教員が定年に達したときは、その年度の末日をもって退職するものとする。
（人事評価）
第３条　第 2 条の規定にかかわらず、定年に達する 1 年前に人事評価を行い、2 年の継続雇用の適否を決定する。継続雇用とされた場合、以後 2 年ごとに人事評価を行い満 68 歳まで雇用を継続できるものとする。
（人事評価委員会）
第４条　前条に定める人事評価を行うために、本学に人事評価委員会を置く。人事評価委員会の運営規則は別に定める。
（人事評価委員）
第５条　人事評価委員は、次の各号で構成し委員長には学長が当たる。
（１）学長
（２）学長の指名した者
（その他）
第６条　定年を延長した者に対する給与等処遇については、別に定める。
附　則
１　この規則は、平成 15 年 4 月 1 日から施行する。
２　桐蔭横浜大学教員定年規則（平成 2 年 5 月 17 日施行）は、廃止する。
附　則
この規則は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。
附　則
この規則は、平成 19 年 9 月 1 日から施行する。

○桐蔭横浜大学特任教員内規

（平成 15 年 6 月 1 日制定）

（目的）

第１条　この内規は、桐蔭横浜大学（以下「本学」という。）における教育並びに研究の促進を図ることを目的として、特任教員についての必要な事項を定める。

（職位）

第２条　特任教員の職位は、特任教授、特任准教授、特任専任講師及び特任助教とする。

２　前項の職位は、桐蔭横浜大学教員資格選考基準に準じ、学長が決定する。

（任務）

第３条　特任教員は、原則として一定期間授業を担当する。ただし、学長が認めた場合はこの限りではない。

２　本学が必要とする場合は、特任教員に研究活動並びに講演等への参加を要請することができる。

（手続）

第４条　特任教員の採用は、理事長と協議した学長の要請に基づき、人事委員会の議を経て教授会に報告する。

（条件）

第５条　特任教員の任用期間、授業担当時間及びその他の任務については、当該特任教員の所属する学部長又は研究科長が、あらかじめ学長と協議して決定する。

２　特任教員は、別の定めるところにより教授会又は研究科委員会の構成員とすることができる。

（期間）

第６条　特任教員の任用期間は、1 年を原則とする。ただし、学長が認めた場合はこの限りではない。

（処遇）

第７条　特任教員に、研究室の貸与並びに研究費を支給し、授業担当時間数に関わらず一定の給与を支給する。

（契約）

第８条　特任教員の採用に際して、本学と当該特任教員は、文書により契約するものとする。

（事務の所管）

第９条　特任教員に関する事務は、総務部が所管する。

（改廃）

第１０条　この内規の改廃は、評議会の議を経て学長が行う。

附　則

この内規は、平成 15 年 6 月 1 日から施行する。

附　則

この内規は、令和２年５月１日から施行する。

附　則

この内規は、令和３年４月１日から施行する。

桐蔭横浜大学現代教養学環

学生の確保の見通し等を記載した書類

目　次

（１）学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況.....1
①　学生確保の見通し.....1
ア　定員充足の見込.....1
イ　定員充足の根拠となる客観的なデータの概要.....1
ウ　学生納付金の設定の考え方.....6
②　学生確保に向けた具体的な取組状況.....6
（２）人材需要の動向等社会の要請.....7
①　人材の育成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）.....7
②　上記①が社会的，地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠.....7
資料.....10

（１）学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

①　学生確保の見通し

ア　定員充足の見込

桐蔭横浜大学現代教養学環は，学生が，現代的課題の解決に向けた資質・能力を獲得できるよう，授業においては徹底したアクティブラーニングを実施し，課程においては知識の内化・外化，協働・個の反復を繰り返すカリキュラムとしている。そのため，現代教養学環に関与する教員集団がチームできめ細やかに学生の学修を支援できる人数として，定員を 70 名（収容定員 280 名）と設定した[1]。なお，現代教養学環は学部等連係課程制度を用いて設置するものであり，この人数は大学全体としての定員の範囲内で設定するものであることから，既存施設設備を有効に活用し，教育研究を充実できる規模である。

現代教養学環の設置計画の策定にあたり，本学にリーチの多い１都５県（東京都，神奈川県，埼玉県，千葉県，山梨県，静岡県）の高校生及び高校生の子息がいる保護者に，第三者機関を通じて，本学現代教養学環への進学意向を問うアンケート調査を行った。その結果，高校３年生層からは，「入学を希望する」が 2.7%，「受験する候補の１つとして検討する」が 10.7%という回答を得られた。高校２年生層からは，「入学を希望する」が 2.3%，「受験する候補の１つとして検討する」が 10.3%という回答を得られた。１都５県においては，学校基本調査より推計すると，令和５年度に大学進学を考える高校３年生が約 334,590 名おり，仮に大学進学率を 54%とすると約 180,678 名が潜在的な受験者層となる。行ったアンケート調査は無作為抽出で，2.7%が「入学を希望する」を回答していることから，額面通りとはいかないまでも，十分な数の受験生に訴求できる結果を得られたと言える。②に記述する，学生確保に向けた具体的な取組を着実に実施し，この潜在的な受験者に，本学現代教養学環の情報を確実に届けていくことで定員充足を図っていく。

イ　定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

前述したアンケート調査の概要は次の通りである。

・目的：新学環設置検討のための，高校生の進学ニーズを調査する
・期間：令和４年７月８日～12 日
・対象：１都５県（東京都，神奈川県，埼玉県，千葉県，山梨県，静岡県）の高校生及び高校生の子息がいる保護者
・実施：本学以外の第三者機関に委託

調査対象を，高校３年生に加え，２年生や１年生にも範囲を広げることで，継続的な定員

[1] スポーツ科学部より定員の内数 70 名（収容定員 280 名）を割り当てている。

確保を図るための検討資料とした。対象地域は，本学にリーチの多い１都５県（東京都，神奈川県，埼玉県，千葉県，山梨県，静岡県）とし，無作為抽出で，n を高校３年生層が 300，高校２年生層が 300，高校１年生層が 100 とした。回答は，高校生本人が回答する，又は保護者が高校生の子息と共にアンケート画面を見ながら回答する方式で協力いただいた。

まず，回答者のプロフィールであるが，男女比は，男女別人口に照らせばやや男性に偏りがあるものの，大学進学層を考慮すれば，概ね適正な標本となっている。

≪回答者：男女比≫　　単位：人

	全体	男性	女性
回答数	700	382	318
	100%	54.6%	45.4%
高校３年生	300	157	143
	100%	52.3%	47.7%
高校２年生	300	172	128
	100%	57.3%	42.7%
高校１年生	100	53	47
	100%	53.0%	47.0%

都県別の回答者数は下表の通りである。学校基本調査による，中学校，義務教育学校，中等教育学校における「状況別卒業者数」（令和２年３月時点）より，各都県別の高校３年生は，東京都が 102,315 人（30.6%），神奈川県が 76,182 人（22.8%），埼玉県が 61,960 人（18.6%），千葉県が 53,436 人（16.0%），山梨県が 7,319 人（2.2%），静岡県が 33,395 人（10.0%）と推計することができる。概ね，母集団に近い構成比であると言える。

≪回答者：都道府県≫　　単位：人

	全体	東京都	神奈川県	埼玉県	千葉県	山梨県	静岡県
回答数	700	231	195	108	105	9	52
	100%	33.0%	27.9%	15.4%	15.0%	1.3%	7.4%
高校３年生	300	90	93	41	49	6	21
	100%	30.0%	31.0%	13.7%	16.3%	2.0%	7.0%
高校２年生	300	100	80	48	47	3	22
	100%	33.3%	26.7%	16.0%	15.7%	1.0%	7.3%
高校１年生	100	41	22	19	9	0	9
	100%	41.0%	22.0%	19.0%	9.0%	0%	9.0%

続いて，高校卒業後の進路希望について尋ねている。４年制の大学，６年制の大学への進

学希望が 90%を超えており，大学進学率が 54%程度であることに照らせば，この標本集団は大学進学者層に大きく振れている。本調査が社会調査ではなく本学への進学ニーズ調査であることを踏まえれば，よりデータを取得したい層にアプローチできたと言える。

≪回答者：高校卒業後の進路希望≫　　単位：人

	全体	4 年制の大学	6 年制の大学（医学部等）	海外の大学	短期大学，専修学校等	就職	その他
回答数	700	602	56	23	93	11	3
	100%	86.0%	8.0%	3.3%	12.3%	1.6%	0.4%
高校３年生	300	253	19	4	45	4	0
	100%	84.3%	6.3%	1.3%	15.0%	1.3%	0.0%
高校２年生	300	255	26	16	41	6	3
	100%	85.0%	8.7%	5.3%	13.7%	2.0%	1.0%
高校１年生	100	94	11	3	7	1	0
	100%	94.0%	11.0%	3.0%	7.0%	1.0%	0.0%

本現代教養学環は，マーケティング学コース，心理学コース，国際コミュニケーション学コース，地域社会学コース，サスティナブル工学コースの５コースを擁し，文理双方を扱う教育課程となっているが，コース構成から，どちらかと言えば社会科学に比重が多い。高校生においては，６～７割が文系，３～４割が理系と言われているところ，標本は，理系においてはほぼ世相を反映している。「区別なし」「その他」の動向次第ではあるが，概ね母集団に近い構成比と言ってよい。

≪回答者：高校で選択しているコース≫　　単位：人

	全体	文系	理系	区別なし	その他
回答数	700	343	241	105	11
	100%	49.0%	34.4%	15.0%	1.6%
高校３年生	300	167	98	29	6
	100%	55.7%	32.7%	9.7%	2.0%
高校２年生	300	139	108	48	5
	100%	46.3%	36.0%	16.0%	1.7%
高校１年生	100	37	35	28	0
	100%	37.0%	35.0%	28.0%	0.0%

ここからは，本学現代教養学環について尋ねている。設問は２問で，本現代教養学環の特

色である「レイトスペシャライゼーション」と「プロジェクト型学習」について，パンフレットの情報を閲覧した上で，魅力度について５段階で回答いただいた。

Q．桐蔭横浜大学 CAMPUS GUIDE 2023　P25～28 の現代教養学環の魅力について，「幅広く教養を学んだ後で，専門を決めることができるコース制度」を魅力的だと思いますか。

≪回答者≫　　単位：人

	全体	5 魅力的に 感じる	4	3	2	1 魅力的に 感じない
回答数	700	180	192	230	38	60
	100%	25.7%	27.4%	32.9%	5.4%	8.6%
高校３年生	300	82	78	92	18	30
	100%	27.3%	26.0%	30.7%	6.0%	10.0%
高校２年生	300	68	88	105	16	23
	100%	22.7%	29.3%	35.0%	5.3%	7.7%
高校１年生	100	30	26	33	4	7
	100%	30.0%	26.0%	33.0%	4.0%	7.0%

教養教育段階で，現代教養学環の５コースに連結する５つの科目群を幅広く学んだ後に，自らの専門の学びを決定する「レイトスペシャライゼーション」が現代教養学環の特色である。高校３年生の，27.3%が５段階中「５」と回答，26.0%が「４」と回答している。過半数が，このシステムを魅力的と感じている。

Q．桐蔭横浜大学 CAMPUS GUIDE 2023　P25～28 の現代教養学環の魅力について，「プロジェクト型学習などの協働的な学びを中心とするカリキュラム」を魅力的だと思いますか。

≪回答者≫　　単位：人

	全体	5 魅力的に 感じる	4	3	2	1 魅力的に 感じない
回答数	700	135	201	259	42	63
	100%	19.3%	28.7%	37.0%	6.0%	9.0%
高校３年生	300	61	83	103	18	35
	100%	20.3%	27.7%	34.3%	6.0%	11.7%
高校２年生	300	53	86	123	17	21
	100%	17.7%	28.7%	41.0%	5.7%	7.0%
高校１年生	100	21	32	33	7	7
	100%	21.0%	32.0%	33.0%	7.0%	7.0%

本現代教養学環では，教養教育段階から専門教育段階まで通じて，要所でプロジェクト型学習を取り入れ，学生の資質・能力を最大限伸ばすとともに，その時点で学生の学修成果を把握し，教育課程の PDCA に繋げていく計画である。徹底したアクティブラーニングが本学の強みであり，特に現代教養学環においてそれを体現しようとしている。高校３年生の，20.3%が５段階中「５」と回答，27.7%が「４」と回答している。半数近くの高校３年生が，このシステムを魅力的と感じている。

最後に，本学現代教養学環への進学ニーズを尋ねた。

Q．あなたは「桐蔭横浜大学　現代教養学環」へ入学したいと思いますか。

≪回答者≫　　単位：人

	全体	入学を希望する	受験する候補の１つとして検討する	現時点では受験先を決定していないが，教育内容に興味を持った	教育内容に興味を持ったが，受験する候補ではない	受験する候補ではない
回答数	700	18	72	180	179	251
	100%	2.6%	10.3%	25.7%	25.6%	35.9%
高校３年生	300	8	32	55	80	125
	100%	2.7%	10.7%	18.3%	26.7%	41.7%
高校２年生	300	7	31	90	76	96
	100%	2.3%	10.3%	30.0%	25.3%	32.0%
高校１年生	100	3	9	35	23	90
	100%	3.0%	9.0%	35.0%	23.0%	30.0%

本現代教養学環に「入学を希望する」が 2.7%，「受験する候補の１つとして検討する」が 10.7%となった。１都５県においては，学校基本調査より推計すると，令和５年度に大学進学を考える高校３年生が約 334,590 名おり，仮に大学進学率を 54%とすると約 180,678 名が潜在的な受験者層となる。本調査は，やや大学進学層に偏りがあることを除いては，ほぼ１都５県の母集団を反映できていることを踏まえれば，定員確保の見込としては十分なデータとなったと思料する。この潜在的な受験者層に対して，確実に広報活動を行いリーチしていくことが我々に必要な取組となる。

ウ　学生納付金の設定の考え方

学生納付金については，経営上の財務的な視点と教育サービスの学生への還元などの観点を踏まえ設定した。本学の既設学部の入学金，授業料，施設整備費，実験実習費をベースに，講義科目のST比やアクティブラーニングの度合い，特色あるプロジェクト科目やフィールドワーク等の実習の充実度合いを加味するとともに，近隣他大学におけるリベラルアーツ系，教養系学部における学生納付金の設定状況を勘案したうえで以下の金額に設定した。

入学金（初年次）	200,000円
授業料（年額）	850,000円
施設整備費（年額）	270,000円
実験実習費（年額）	110,000円

②　学生確保に向けた具体的な取組状況

②－１　オープンキャンパス

本学では，高校生・保護者を対象に，本学での学びや教育内容の説明，授業体験，個別相談会，学生による様々な体験企画などを実施するオープンキャンパスを６～９月，月１～２回実施している。現代教養学環においても，理念や教育内容，学修方法などについて詳細かつ丁寧に説明を行う。

②－２　キャンパスガイドの発行

本学の理念，教育内容・方法等をわかりやすく周知するため，キャンパスガイドを毎年発行している。現代教養学環においても，簡潔かつ丁寧な表現で紙面を構成し，受験生等の目に留まるように広報を行う。

②－３　ウェブサイトでの広報活動

本学ホームページへの掲載及び現代教養学環特設ページを作成し，簡潔かつ丁寧な情報発信に努める。

②－４　メディアへの露出

現代教養学環の新しく先進的な取組について，各メディアに取り上げてもらい，広く情報提供を行う。

②－５　高校学校等での説明会

神奈川県を中心に，高等学校や進学フェア等の合同説明会において，説明会を行う。また，進路指導担当教諭のもとに訪問し，資料配布や理念・内容の説明を懇切丁寧に行う。

（２）人材需要の動向等社会の要請

①　人材の育成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

本学の教育資源を結集し，全学として知識集約型社会・SDGs に貢献できる人材育成を目指す現代教養学環は，５つの領域（地域社会学，マーケティング学，国際コミュニケーション学，心理学，サスティナブル工学）から現代的諸課題に対峙し，自ら考え，主体的に行動して，責任を持って社会変革を実現していくことができる人材，確かな専門知識・技術により持続可能な社会づくりに貢献できる人材を養成し，輩出することを目的とする。

この目的を達成するために，現代教養学環では，幅広い教養と確かな専門知識を身につけて，現代社会の構造的課題を理解し，今後の持続的な発展に向けてアイデアを出し，それを具現化し，持続可能で豊かな社会の構築に貢献できる，実践的な能力を修得した以下のような人材を養成する。

１）　現代社会の成り立ちや課題を理解し，多角的な視点と柔軟な発想をもって情報収集や状況判断を行い，問題解決のために行動することができる

２）　他者の意見や考えを傾聴するとともに，自らの意見や考えを表現し，多様な主体と協働することができる

３）　積極的に新しいことに挑戦し，その実現のために必要とされる物事を理解し，それに向けて計画し，実行することができる

４）　地域・都市の持続的な発展に向けて，専門的な知識や技術を他者との協働の中で発揮し，アイデアを具現化し，実行することができる

②　上記①が社会的，地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

中央教育審議会『2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）』（平成 30 年 11 月 26 日）において，「基礎的で普遍的な知識・理解と汎用的な技能を持ち，その知識や技能を活用でき，ジレンマを克服することも含めたコミュニケーション能力を持ち，自律的に責任ある行動をとれる人材」を養成することが求められているとしている。また日本経済団体連合会（以下「経団連」という。）は，『提言「新しい時代に対応した大学教育改革の推進 - 主体的な学修を通じた多様な人材の育成に向けて - 」』（令和４年１月 18 日）を発表し，大学と経団連の代表が対話する「採用と大学教育の未来に関する産学協議会」において，「Society 5.0 の人材には，リテラシー（数理的推論・データ分析力，論理的文章表現力，外国語コミュニケーション力等），論理的思考力と規範的判断力，課題発見・解決能力，未来社会を構想・設計する力，高度専門職に必要な知識・能力が求められる」ことが合意されたことを紹介し，加えて，「失敗を恐れずに挑戦する姿勢や，自己肯定感，多様な背景を持つ集団において高いパフォーマンスを発揮するうえで必要な忍耐力やリーダーシップ，多様な他者と協働して新たな価値を創造できるチームワーク，変化の激しい時代の中でスキ

ル・専門性をアップデートするために必要な学び続ける力などが重要」であるとし，また，「人生 100 年時代に豊かな人生を築くうえでは，知識や専門性，リテラシーとともに，飽くなき探求心やチャレンジ精神，共感を生む対話力といった資質についても，絶えず磨き続けることが肝要」と指摘している。現代教養学環が掲げる人材養成の目的は，まさにこれら社会的要請を踏まえたものとなっている。

また，本学とコネクションのある地域の企業等 36 社に，本現代教養学環の魅力度，及び人材としてのニーズを調査した（調査日：令和４年６月２日～20 日，質問紙調査)。本現代教養学環の「専門的な知識を中心に，隣接する分野に横断する幅広い知識を身につけた人材を育成するカリキュラム」については，魅力度について５段階中，18 社が「５」，14 社が「４」と回答した。また「プロジェクト型学習などの協働的な学びを中心とするカリキュラム」については，魅力度について５段階中，19 社が「５」，14 社が「４」と回答した。このことから，本学の社会的・地域的な位置づけにおいて，本現代教養学環の教育内容・システムが，概ね評価される結果を得られたと言える。さらに，「このような特色を持つカリキュラムで養成された人材を採用したい」と回答した企業は 33 社に上り，まさに社会的，地域的な人材需要の動向を踏まえた，時宜にかなった学位プログラムの設置であると言える。

≪企業調査データ≫

連番	従業員数	新卒採用予定人数	魅力①※	魅力②※	人材採用の意向
1	2,051	60	5	4	はい
2	888	20～30	5	5	はい
3	1,089	20	4	4	はい
4	484	30	4	4	はい
5	24,268	180	5	5	はい
6	294	12	4	4	はい
7	77	4	4	4	はい
8	200	10	4	4	はい
9	4,000	150	5	5	はい
10	3,500	60	5	5	はい
11	45,000	1,000	5	5	はい
12	2,339	5	3	4	いいえ
13	1,000	20～30	5	5	はい
14	481	30	5	5	はい
15	75	5	4	4	はい
16	48,179	750	3	3	はい
17	1,500	15	5	5	はい
18	30	2	5	5	いいえ
19	48	3	4	3	はい
20	1,034	15	5	5	はい
21	300	8	5	5	はい
22	582	35	3	3	はい
23	650	30	5	5	はい
24	500	30～40	4	4	はい
25	17,400	300	5	4	はい
26	－	330	4	4	－
27	1,775	30	5	5	はい
28	1,870	10	4	4	はい
29	831	20	5	5	はい
30	38,444	500	4	4	はい
31	23,000	50	5	5	はい
32	2,000	50	3	5	はい
33	6,000	400	4	4	はい
34	6,000	60	5	5	はい
35	1,300	60	4	5	はい
36	15,037	180	4	5	はい

※魅力①：「専門的な知識を中心に，隣接する分野に横断する幅広い知識を身につけた人材を育成するカリキュラム」について魅力を感じるか。（５段階）

※魅力②：「プロジェクト型学習などの協働的な学びを中心とするカリキュラム」について魅力を感じるか。（５段階）

資料

添付資料１　　新設学環に関するアンケート（高校生向け調査票）
添付資料２　　新設学部学科及び学環に関するアンケート（企業向け調査票）

桐蔭横浜大学　新設学環に関するアンケート

2023 年度より桐蔭横浜大学では、新しい学部の形である**現代教養学環**を開設する予定です。現代教養学環では、マーケティング学、心理学、国際コミュニケーション学、地域社会学、サスティナブル工学の 5 分野を学び、最終的に 1 つのコースを学ぶことにより現代社会の課題の解決ができる人材を育成します。

皆さんには次の内容を読んでいただき、桐蔭横浜大学の新設学環に関するアンケートへ回答をお願いいたします。なお、回答の結果は、本学の社会ニーズ調査の結果として個人名・学校名がわからない形でのみ使用いたします。

※現代教養学環は現在、設置申請中です。設置計画は予定であり、内容に変更が生じる可能性があります。

回答者が親御様の場合、お子様同席のうえ、お子様に意見を伺いながらアンケートを進めてください。

1. あなたの学年を教えてください。※回答者が親御様の場合※【1】現在ご一緒に回答できるお子様の学年をお答えください。【2】複数のお子様がいらっしゃる場合は、最も学年の高いお子様をお答えください。）

□　高校 1 年生（中等 4 年生）　□　高校 2 年生（中等 5 年生）　□　高校 3 年生（中等 6 年生）

2. あなたの高校卒業後の進路希望を教えてください。その他を選んだ場合は、具体的な内容を（）内にコメントしてください。（回答者が親御様の場合、お子様の進路希望をお答えください。）

□　4 年制の大学　□　6 年制の大学（医学部・薬学部等）　□　海外の大学
□　2 年制の短期大学・専門学校／専修学校　□　就職
□　その他（　　）

3. 高校で選択しているコースを教えてください。その他を選んだ場合は、具体的な内容を（）内にコメントしてください。（回答者が親御様の場合、お子様のコースをお答えください。）

□　文系　□　理系　□　区別なし
□　その他（　　）

4. 桐蔭横浜大学 CAMPUS GUIDE 2023 P25～28 の現代教養学環の魅力について伺います。

(1) 「幅広く教養を学んだ後で、専門を決めることができるコース制度」を魅力的だと思いますか。

魅力的に感じる　5　4　3　2　1　魅力的に感じない

(2) 「プロジェクト型学習などの協働的な学びを中心とするカリキュラム」を魅力的だと思いますか。

魅力的に感じる　5　4　3　2　1　魅力的に感じない

(3) あなたは「桐蔭横浜大学 現代教養学環」へ入学したいと思いますか。（回答者が親御様の場合、お子様の希望をお答えください。）

□　入学を希望する　　□　受験する候補の１つとして検討する

□　現時点では受験先を決定していないが、教育内容に興味を持った

□　教育内容に興味を持ったが、受験する候補ではない

□　受験する候補ではない

ご回答ありがとうございました。

桐蔭横浜大学　新設学部学科及び学環に関するアンケート

平素は本学の教育研究にご厚情を賜り、誠にありがとうございます。

本学では、2023 年度より新らたに、**スポーツ科学部スポーツ教育学科**と**スポーツ健康科学科**を開設する予定です。スポーツ科学部では、スポーツを科学的に分析し、スポーツに関する専門職やスポーツによる地域貢献ができる人材を育成します。また、新しい学部の形である**現代教養学環**を開設する予定です。現代教養学環では、マーケティング学、心理学、国際コミュニケーション学、地域社会学、サスティナブル工学の 5 分野を学び、最終的に 1 つのコースを学ぶことにより現代社会の課題の解決ができる人材を育成します。

本学の新設学部学科及び学環に関して、次のアンケートを行っておりますので、何卒ご協力の程よろしくお願い申し上げます。なお、回答の結果は、本学の社会ニーズ調査の結果として企業名・個人名がわからない形でのみ使用いたします。

※スポーツ科学部及び現代教養学環は現在、設置申請中です。設置計画は予定であり、内容に変更が生じる可能性があります。

本アンケートはスマホ･PC からも回答することができます。次の QR コード又は URL からご回答ください。

https://forms.gle/1nXLScymRUD9CtM57

桐蔭横浜大学 CAMPUS GUIDE 2023 は､桐蔭横浜大学ホームページからご覧いただけます。次の QR コード又は URL からご覧ください。

http://toin.ac.jp/ouen-news/news/etc/2022-05-23/2269/

1. 従業員数を教えてください。

（　　）人

※正社員数　（支店、グループ含む）

2. 新規大卒者の採用予定者数を教えてください。

（　　）人（予定）

3. 桐蔭横浜大学 CAMPUS GUIDE 2023　P17～24 のスポーツ科学部について伺います。

3－1. スポーツ教育学科（P21～22）は主に、小学校の教員及び中学校、高等学校の保健体育科教員を養成する課程で、次の特色を有しています。その特色がどの程度魅力的であるかお聞かせください。

(1)「スポーツ教育学科では、スポーツ等の専門知識を持ち、教育実習やボランティア活動を通して実践的な指導力を養う。また、現代社会を読み解く力を身につけ、教育現場が抱える課題について柔軟に対応できる教員を目指す特色」を魅力的だと思いますか。

魅力的に感じる　5　4　3　2　1　魅力的に感じない

(2)「小学校・中学校・高等学校の元校長が客員教授として指導に当たる教職指導室を設置している学修支援体制」を魅力的だと思いますか。

魅力的に感じる　5　4　3　2　1　魅力的に感じない

(3) このような特色を持つカリキュラムで養成された人材を採用したいと思いますか。
また、その場合は何人程度採用したいかお答えください。
□　はい　　（　　）人程度　　□　いいえ

3－2. スポーツ健康科学科（P23~24）では、からだを軸にした科学・健康・文化を学び、スポーツで社会に貢献できる人材を養成する課程で、次の特色を有しています。その特色がどの程度魅力的であるかお聞かせください。

(1) 「スポーツを通じて主体的に現代社会と関わり課題解決に貢献し、新たな価値を生み出すことができる人材を養成する教育目標」を魅力的だと思いますか。

魅力的に感じる　5　4　3　2　1　魅力的に感じない

(2) 「スポーツコーチングコース、スポーツトレーナーコース、スポーツライフコースの 3 コースでそれぞれ専門的な知識を身に着け、スポーツで社会に貢献できる人材を養成するカリキュラム」を魅力的だと思いますか。

魅力的に感じる　5　4　3　2　1　魅力的に感じない

(3) このような特色を持つカリキュラムで養成された人材を採用したいと思いますか。また、その場合は何人程度採用したいかお答えください。
□　はい　　（　　）人程度　　□　いいえ

４．桐蔭横浜大学 CAMPUS GUIDE 2023　P25～28 の現代教養学環について伺います。

現代教養学環は、複数の分野を横断的に学ぶことにより、現代社会の抱える課題をとらえ、より良い未来社会を築く人材を養成する課程で、次の特色を有しています。その特色がどの程度魅力的であるかお聞かせください。

※学環とは、学部相当の教育課程です。現代教養学環の入学試験に合格した学生が、学部と同じように入学できます。

(1)「専門的な知識を中心に、隣接する分野に横断する幅広い知識を身につけた人材を育成するカリキュラム」を魅力的だと思いますか。

魅力的に感じる　5　4　3　2　1　魅力的に感じない

(2)「プロジェクト型学習などの協働的な学びを中心とするカリキュラム」を魅力的だと思いますか。

魅力的に感じる　5　4　3　2　1　魅力的に感じない

(3) このような特色を持つカリキュラムで養成された人材を採用したいと思いますか。

また、その場合は何人程度採用したいかお答えください。

□　はい　　（　　）人程度　　□　いいえ

回答にご協力いただき、誠にありがとうございます。

別記様式第３号（その１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　　員　　名　　簿

学　長　の　氏　名　等						
調書番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	現　職（就任年月）
1	学長	モリ　トモコ 森　朋子 ＜令和4年4月1日＞		博士（言語文化学）		桐蔭横浜大学学長（令和4年4月1日）

（注）　高等専門学校にあっては校長について記入すること。

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（現代教養学環）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
1	専	教授（課程長）	ナミキ　コウイチ 並木　浩一 ＜令和5年4月＞		博士（学術）		視覚文化論	1前	2	1	スポーツ健康政策学部教授（平24.4）	5日
							MAST特別実習	1前・後	1	2		
							MAST特別講義	1前・後	2	2		
							ウェブ・コミュニケーション	2前	2	1		
							ビジネスアイデアデザイン	2後	2	1		
							ファッション文化論	2前	2	1		
							現代社会と学術研究	3後	2	1		
							広告論	3・4後	2	1		
							言語文化交流論	3前	2	1		
							国際観光論	3後	2	1		
							基礎ゼミナールⅠ	2前	2	1		
							基礎ゼミナールⅡ	2後	2	1		
							専門探究ゼミナールⅠ	3前	2	1		
							専門探究ゼミナールⅡ	3後	2	1		
							専門探究ゼミナールⅢ	3後	2	1		
							専門探究ゼミナールⅣ	4前	2	1		
							知識集約型研究プロジェクトⅠ	4前	4	1		
							知識集約型研究プロジェクトⅡ	4後	6	1		
2	専	教授	カタヤマ　フミヨ 片山　富美代 ＜令和5年4月＞		博士（学術）		健康と心理学	1前	2	1	スポーツ健康政策学部教授（平16.7）	5日
							集団と心理学	2前	1	1		
							幸せと心理学	2前	2	1		
							意思決定と心理学	2後	2	1		
							自己調整と心理学	2後	1	1		
							キャリアセミナーⅠ	2前	2	1		
							キャリアセミナーⅡ	2後	2	1		
							キャリアセミナーⅢ	3前	2	1		
							インターンシップ	3前	2	1		
							ロジカルライティング	2前	2	1		
							ロジカルコミュニケーション	2後	2	1		
							心理学研究法	3前	2	1		
							基礎ゼミナールⅠ	2前	2	1		
							基礎ゼミナールⅡ	2後	2	1		
							専門探究ゼミナールⅠ	3前	2	1		
							専門探究ゼミナールⅡ	3後	2	1		
							専門探究ゼミナールⅢ	3後	2	1		
							専門探究ゼミナールⅣ	4前	2	1		
							知識集約型研究プロジェクトⅠ	4前	4	1		
							知識集約型研究プロジェクトⅡ	4後	6	1		
3	専	教授	タケダ　ヨシコ 武田　佳子 ＜令和5年4月＞		修士（教育学）		キャリアトランジション	2前	2	1	教育研究開発機構教授（令和3.4）	5日
							キャリアセミナーⅠ	2前	2	1		
							キャリアセミナーⅡ	2後	2	1		
							キャリアセミナーⅢ	3前	2	1		
							インターンシップ	3前	2	1		
							ソーシャル・コミュニケーション	1後	2	1		
4	専	教授	ハヤシダ　ハルミ 林田　はるみ ＜令和5年4月＞		博士（スポーツ科学）		地域における健康課題	1前	2	1	スポーツ健康政策学部教授（平30.4）	5日
							コミュニティ・ノアンリアーンョン	1後	2	1		
							地域政治論	2前	2	1		
							地域観光事業論	2前	2	1		
							フィールドスタディⅠ	1前	1	1		
							フィールドスタディⅡ	1後	1	1		
							フィールドスタディⅢ	2前	2	1		
							フィールドスタディⅣ	2後	1	1		
							現代社会の科学	3前	2	1		
							地域社会学研究法	3前	2	1		
							地域共生論	3前	2	1		
							地域共生実践	3後	2	1		
							基礎ゼミナールⅠ	2前	2	1		
							基礎ゼミナールⅡ	2後	2	1		
							専門探究ゼミナールⅠ	3前	2	1		
							専門探究ゼミナールⅡ	3後	2	1		
							専門探究ゼミナールⅢ	3後	2	1		
							専門探究ゼミナールⅣ	4前	2	1		
							知識集約型研究プロジェクトⅠ	4前	4	1		
							知識集約型研究プロジェクトⅡ	4後	6	1		

5	専	教授	イケガミ　マサシ 池上　和志 ＜令和5年4月＞		博士 （理学）		科学技術の未来	1前	1	1	医用工学部 教授 （平18.4）	5日
							地球環境の科学	1前	0.7	1		
							数学Ⅰ	2前	2	1		
							数学Ⅱ	2後	2	1		
							専門探究ゼミナールⅠ	3前	2	1		
							専門探究ゼミナールⅡ	3後	2	1		
							専門探究ゼミナールⅢ	3後	2	1		
							専門探究ゼミナールⅣ	4前	2	1		
							知識集約型研究プロジェクトⅠ	4前	4	1		
							知識集約型研究プロジェクトⅡ	4後	6	1		
6	専	教授	ミヤサカ　ツトム 宮坂　力 ＜令和5年4月＞		工学博士		科学技術の未来	1前	1	1	医用工学部 教授 （平13.12）	5日
							地球環境の科学	1前	0.7	1		
							専門探究ゼミナールⅠ	3前	2	1		
							専門探究ゼミナールⅡ	3後	2	1		
							専門探究ゼミナールⅢ	3後	2	1		
							専門探究ゼミナールⅣ	4前	2	1		
							知識集約型研究プロジェクトⅠ	4前	4	1		
							知識集約型研究プロジェクトⅡ	4後	6	1		
7	専	教授	オカダ　トシエ 岡田　俊恵 ＜令和5年4月＞		文学修士		言語文化論	1前	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 （平17.4）	5日
							表現とコミュニケーション	1後	2	1		
8	専	准教授	サイトウ　レイ 齋藤　れい ＜令和5年4月＞		博士 （スポーツ科学）		ビジネスの科学	1前	2	2	スポーツ健康政策学部 准教授 （平31.4）	5日
							マーケティング各論	1後	2	1		
							アントレプレナーシップ	1前	2	1		
							プロジェクト入門	1後	2	1		
							マーケティング・リサーチ	2前	2	1		
							現代ビジネス論	2後	2	1		
							分野横断型プロジェクト	2後	3	1		
							マーケティング学研究法	3前	2	1		
							スポーツマーケティング論	3・4前	2	1		
							スポーツマネジメント論	3・4前	2	1		
							基礎ゼミナールⅠ	2前	2	1		
							基礎ゼミナールⅡ	2後	2	1		
							専門探究ゼミナールⅠ	3前	2	1		
							専門探究ゼミナールⅡ	3後	2	1		
							専門探究ゼミナールⅢ	3後	2	1		
							専門探究ゼミナールⅣ	4前	2	1		
							知識集約型研究プロジェクトⅠ	4前	4	1		
							知識集約型研究プロジェクトⅡ	4後	6	1		
9	専	准教授	ウエハタ　ヨウスケ 上畠　洋佑 ＜令和5年4月＞		修士 （教育学）		異文化の科学	1前	2	1	教育研究開発機構 准教授 （令和3.4）	5日
							プロジェクト入門	1後	2	1		
							異文化リサーチ	2前	2	1		
							フード文化論	2後	2	1		
							若者文化論	2後	2	1		
							分野横断型プロジェクト	2後	3	1		
							ことばのスキル	1後	2	1		
							国際コミュニケーション学研究法	3前	2	1		
							基礎ゼミナールⅠ	2前	2	1		
							基礎ゼミナールⅡ	2後	2	1		
							専門探究ゼミナールⅠ	3前	2	1		
							専門探究ゼミナールⅡ	3後	2	1		
							専門探究ゼミナールⅢ	3後	2	1		
							専門探究ゼミナールⅣ	4前	2	1		
							知識集約型研究プロジェクトⅠ	4前	4	1		
							知識集約型研究プロジェクトⅡ	4後	6	1		
10	専	准教授	タカセ　タケシ 髙瀬　武志 ＜令和5年4月＞		体育学修士		桐蔭キャリアゲート	1前	2	1	法学部 准教授 （平26.4）	5日
							体育実技Ⅰ	1前	1	1		
							体育実技Ⅱ	1後	1	1		
							アスリートの科学	1前	2	1		
							アスリートキャリア	1後	2	1		
							アスリート・クロス	2前	2	1		
							リーダーシップ教育	2後	2	1		
							ライフスキル	2前	2	1		
							基礎ゼミナールⅠ	2前	2	1		
							基礎ゼミナールⅡ	2後	2	1		
							専門探究ゼミナールⅠ	3前	2	1		
							専門探究ゼミナールⅡ	3後	2	1		
							専門探究ゼミナールⅢ	3後	2	1		
							専門探究ゼミナールⅣ	4前	2	1		
							知識集約型研究プロジェクトⅠ	4前	4	1		
							知識集約型研究プロジェクトⅡ	4後	6	1		

11	専	講師	シバヤマ　ナオユキ 柴山　直之 ＜令和5年4月＞		博士（工学）		地球環境の科学	1前	0.7	1	医用工学部 講師 （令和3.4）	5日
							プロジェクト入門	1後	2	1		
							分野横断型プロジェクト	2後	3	1		
							専門探究ゼミナールⅠ	3前	2	1		
							専門探究ゼミナールⅡ	3後	2	1		
							専門探究ゼミナールⅢ	3後	2	1		
							専門探究ゼミナールⅣ	4前	2	1		
							知識集約型研究プロジェクトⅠ	4前	4	1		
							知識集約型研究プロジェクトⅡ	4後	6	1		
12	専	講師	マツイ　シンサク 松井　晋作 ＜令和5年4月＞		修士（文学）		桐蔭キャリアゲート	1前	2	1	教育研究開発機構 講師 （令和3.4）	5日
							地域の科学	1前	2	2		
							サステナブル社会学	1後		1		
							プロジェクト入門	1後	2	1		
							横浜地域学	2後	2	1		
							実践地域創成学	2後	2	1		
							分野横断型プロジェクト	2後	3	1		
							基礎ゼミナールⅠ	2前	2	1		
							基礎ゼミナールⅡ	2後	2	1		
							専門探究ゼミナールⅠ	3前	2	1		
							専門探究ゼミナールⅡ	3後	2	1		
							専門探究ゼミナールⅢ	3後	2	1		
							専門探究ゼミナールⅣ	4前	2	1		
							知識集約型研究プロジェクトⅠ	4前	4	1		
							知識集約型研究プロジェクトⅡ	4後	6	1		
13	専	講師	ミゾグチ　ユウ 溝口　侑 ＜令和5年4月＞		修士（教育学）		桐蔭スキルゲート	1前	2	1	教育研究開発機構 講師 （令和3.4）	5日
							データコミュニケーション入門	1後	2	1		
							心の科学	1前	2	2		
							こころの世界	1前	2	1		
							青年と心理学	1後	2	1		
							プロジェクト入門	1後	2	1		
							集団と心理学	2前	1	1		
							意思決定と心理学	2後	2	1		
							自己調整と心理学	2後	1	1		
							分野横断型プロジェクト	2後	3	1		
							デジタルスキル	2後	2	1		
							データコミュニケーション	2後	2	1		
							心理統計解析	3前	2	1		
							社会・文化と心理学	3後	2	1		
							基礎ゼミナールⅠ	2前	2	1		
							基礎ゼミナールⅡ	2後	2	1		
							専門探究ゼミナールⅠ	3前	2	1		
							専門探究ゼミナールⅡ	3後	2	1		
							専門探究ゼミナールⅢ	3後	2	1		
							専門探究ゼミナールⅣ	4前	2	1		
							知識集約型研究プロジェクトⅠ	4前	4	1		
							知識集約型研究プロジェクトⅡ	4後	6	1		
14	兼担	教授	フクイ　コウスケ 福井　康佐 ＜令和5年4月＞		博士（法学）		租税法	3・4前	2	1	法学部 教授 （平24.4）	5日
15	兼担	教授	ハラ　チサコ 原　千砂子 ＜令和5年4月＞		法学修士		比較政治制度論	3・4前	2	1	法学部 教授 （平5.4）	5日
							英語コミュニケーションⅠ	1前	2	1		
							英語コミュニケーションⅡ	1後	2	1		
16	兼担	教授	アベ　ケンジ 阿部　憲二 ＜平成19年9月＞		教育学博士		英語コミュニケーションⅠ	1前	2	3	法学部 教授 （平14.9）	5日
							英語コミュニケーションⅡ	1後	2	3		
17	兼担	教授	ナカノ　ヒデユキ 中野　英之 ＜令和5年4月＞		博士（地球環境科学）		地球と環境	1前	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 平31.4	5日
18	兼担	教授	マス　ノブオ 升　信夫 ＜令和5年4月＞		法学博士		持続可能な開発と法	1後	2	1	法学部 教授 （平9.4）	5日
							政治学	3・4前	2	1		
19	兼担	教授	ミヤヅ　タイゾウ 宮津　大蔵 ＜令和5年4月＞		教育学士		ボランティア論	1後	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 （平21.4）	5日
							ボランティア実習	1後	2	1		

20	兼担	教授	ヒビノ　ノブコ 日比野　暢子 ＜令和5年4月＞		博士（スポーツ政策学・スポーツマネジメント学）		海外実習 国際交流論	2前 3・4後	2 2	1 1	スポーツ健康政策学部 教授 （平25.4）	5日
21	兼担	教授	タケウチ　アキヨ 竹内　明世 ＜令和5年4月＞		修士（法学）		キャリアセミナーⅠ キャリアセミナーⅡ キャリアセミナーⅢ インターンシップ	2前 2後 3前 3前	2 2 2 2	1 1 1 1	法学部 教授 （平10.4）	5日
22	兼担	教授	トクオカ　ヨシカズ 徳岡　由一 ＜令和5年4月＞		博士（工学）		化学 分析化学 機器分析化学 基礎光学 サステナブル工学研究法Ⅰ サステナブル工学研究法Ⅱ 無機化学Ⅰ 無機化学Ⅱ 電気化学 界面科学	2前 2後 2後 2後 3前 3後 3前 3後 3前 3後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	医用工学部 教授 （平13.4）	5日
23	兼担	教授	サトウ　ユタカ 佐藤　豊 ＜令和5年4月＞		教育学修士		教師論 ICT活用スキルの理論と実際	1前 3前	2 2	1 1	スポーツ健康政策学部 教授 （平28.1）	5日
24	兼担	教授	カメオカ　セイロウ 亀岡　聖朗 ＜令和5年4月＞		博士（心理学）		教育心理学 教育相談・キャリア教育指導論	1後 2後	2 2	1 1	スポーツ健康政策学部 教授 （平31.4）	5日
25	兼担	教授	デグチ　ユウイチ 出口　雄一 ＜令和5年4月＞		博士（法学）		法哲学	3・4後	2	1	法学部 教授 （平16.4）	5日
26	兼担	准教授	イ　ヒスン 李　禧承 ＜令和5年4月＞		博士（教育学）		教育学 ICT活用スキルの理論と実際 教育方法論	1前 3前 2後	2 2 2	1 1 1	スポーツ健康政策学部 准教授 （平24.4）	5日
27	兼担	准教授	ナガハマ　ヒロフミ 長濱　博文 ＜令和5年4月＞		博士（教育学）		教育原理・教育課程論 市民形成論	2前 3・4前	2 2	1 1	法学部 准教授 （平29.4）	5日
28	兼担	准教授	クリヤマ　ユタカ 栗山　裕 ＜令和5年4月＞		学術博士		デジタル産業論	1後	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 （平3.4）	5日
29	兼担	准教授	オオタ　エイスケ 太田　英輔 ＜令和5年4月＞		博士（理学）		有機化学基礎 有機化学Ⅰ 有機化学Ⅱ 高分子化学	2後 3前 3後 3後	2 2 2 2	1 1 1 1	医用工学部 准教授 （令4.4）	5日
30	兼担	准教授	サトウ　クニマサ 佐藤　国正 ＜令和5年4月＞		修士（体育科学）		キャリアセミナーⅠ キャリアセミナーⅡ キャリアセミナーⅢ インターンシップ	2前 2後 3前 3前	2 2 2 2	1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 准教授 （平24.4）	5日
31	兼担	講師	オオヌマ　ケンタロウ 大沼　健太郎 ＜令和5年4月＞		博士（工学）		物理Ⅰ 物理Ⅱ 力学 電磁気学 電気工学	2前 2後 3前 3後 3前	2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	医用工学部 講師 （平28.4）	5日
32	兼担	講師	ヤマグチ　トモコ 山口　智子 ＜令和5年4月＞		博士（理工学）		物理化学Ⅰ 物理化学Ⅱ 環境分析学	2後 3後 3後	2 2 2	1 1 1	医用工学部 講師 （令4.4）	5日

33	兼担	講師	ヤマウチ　シノブ 山内　忍 ＜令和5年4月＞		博士 （工学）		キャリアセミナーⅠ キャリアセミナーⅡ キャリアセミナーⅢ インターンシップ	2前 2後 3前 3前	2 2 2 2	1 1 1 1	医用工学部 准教授 （平24.4）	5日
34	兼担	助教	アサオカ　ケイタ 浅岡　慶太 ＜令和5年4月＞		修士 （法学）		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	1 1	法学部 助教 （平13.4）	5日
35	兼担	助教	オオツジ　コウタ 大辻　康太 ＜令和5年4月＞		修士 （教育学）		体育実技Ⅰ 体育実技Ⅱ	1前 1後	1 1	1 1	法学部 助教 （平31.4）	5日
36	兼任	客員教授	ﾖｼﾊﾗ　ｼｮｳｺ 吉原　晶子 ＜令和5年4月＞		学士 （教育学）		特別活動・総合的な学習の時間指導法	3後	2	1	桐蔭横浜大学 客員教授 （平29.4）	
37	兼任	客員教授	ペマ・ギャルポ ＜令和5年4月＞		学士 （法学）		国際政治論	3・4前	2	1	桐蔭横浜大学 客員教授 （平16.4）	
38	兼任	講師	イケダ　アツコ 池田　敦子 ＜令和5年4月＞		修士 （教育学）		特別支援教育指導論	2後	2	1	東海学院大学 教授 （令2.4）	
39	兼任	講師	ヤマグチ　アキコ 山口　晶子 ＜令和5年4月＞		修士 （教育学）		教育社会論（学校安全を含む）	2前	2	1	東京学芸大学 共同研究員 （平27.7）	
40	兼任	講師	ヤハギ　ノブユキ 矢作　信行 ＜令和5年4月＞		修士 （学術）		道徳教育指導論	2前	2	1	帝京平成大学 教授 （令2.4）	
41	兼任	講師	マエダ　ヨシヒト 前田　善仁 ＜令和5年4月＞		修士 （教育学）		生徒指導論	3前	2	1	東海大学 教授 （平26.4）	
42	兼任	講師	オカザキ　リカ 岡崎　理香 ＜令和5年4月＞		修士 （法学）		行政学	3・4前	2	1	一般社団法人 Global Issues Forum Tokyo 事務局長 （平26.1）	
43	兼任	講師	ヤナギ　アヤコ 柳　綾子 ＜令和5年4月＞		博士 （経営学）		会計学	3・4前	2	1	税理士法人恒輝 （榎本税務会計事務所） （平25.9～平29.3）	
44	兼任	講師	オチアイ　アキラ 落合　晃 ＜令和5年4月＞		博士 （医学）		統合医療学概論	3・4前	2	1	日本医療科学大学 教授 （平29.4）	
45	兼任	講師	ﾄｸﾓﾄ　ﾋﾛﾀｶ 徳本　宏孝 ＜令和5年4月＞		修士 （法学）		地方自治法	3・4後	2	1	中央大学 法学部 教授 （平29.4）	
46	兼任	講師	オカダ　アキト 岡田　昭人 ＜令和5年4月＞		修士 （工学）		都市と防災	3・4後	2	1	住まい・まちづくりデザインワークス　代表社員 （平20.7）	
47	兼任	講師	スダ　カズヒト 須田　和人 ＜令和5年4月＞		修士 （体育学）		大学スポーツ論	1前	2	1	一般社団法人 菜の花AC 理事長 （令2.10）	
48	兼任	講師	フジモト　ケンタロウ 藤本　健太朗 ＜令和5年4月＞		博士 （文学）		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	桐蔭横浜大学 非常勤講師 （令3.4）	
49	兼任	講師	スズキ　シンジ 鈴木　眞二 ＜令和5年4月＞		学士 （フランス文学）		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	6 6	ファブリス株式会社 代表取締役 （平18.11）	
50	兼任	講師	カガミ　ナオコ 加賀美　直子 ＜令和5年4月＞		学士 （外国文化）		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	2 2 1 1	自営業	
51	兼任	講師	ヒガシヤマ　シホ 東山　志帆 ＜令和5年4月＞		修士 （学術）		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	6 6	湘南工科大学付属高等学校 講師 （令2.4）	
52	兼任	講師	スギシタ　アヤコ 杉下　文子 ＜令和5年4月＞		修士 （教育学）		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	1 1	学校法人河合塾 英語科 （平成4.4）	
53	兼任	講師	ﾗﾐﾚｽﾞ　ﾌﾗﾝｼｽ　ｸﾛｴ ＜令和5年4月＞		MA English and British Literature		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	桐蔭横浜大学 非常勤講師 （令4.4）	

54	兼任	講師	ﾏｰｸｽ ｹﾋﾞﾝ ﾀﾞｸﾞﾗｽ ＜令和5年4月＞		Master of Arts in TESOL		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	7 7	San Diego State University, California English Teacher (平31.4-令3.12)	
55	兼任	講師	ﾃﾞｼｲﾝ ｼﾞｭﾘｰ ｳﾞｨｰﾏﾉﾝｿﾝ ＜令和5年4月＞		Masters in Education with specialization in English Language		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	ISA English Teacher (平31.3)	
56	兼任	講師	ｽﾄｰｸｽ ｼﾞｪｰﾑｽﾞ ﾌﾞﾗｯﾄﾞﾘｰ ＜令和5年4月＞		Master of Arts (TESOL)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	東京モード学園 講師 (令3.3)	
57	兼任	講師	スズキ　ナギ 鈴木　凪 ＜令和5年4月＞		Master of Arts in Chemistry		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	フリーランス	
58	兼任	講師	ｱｰﾈｯﾄ ﾀﾞﾆｴﾙ ｼﾞｪｰﾑｽﾞ ＜令和5年4月＞		MA in Education		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	5 5	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (令4.4)	
59	兼任	講師	ｸﾞﾗｰﾙ ｸﾘｽﾄﾌｧｰ ﾏｲｹｰﾙ ＜令和5年4月＞		Masters degree in Applied language studies for TESOL		英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	2前 2後	2 2	1 1	Kanda Institute of Foreign Languages Instructor (平27.4)	
60	兼任	講師	ｶｰﾝ ﾌｧｲｱｰｽﾞ ＜令和5年4月＞		MSc SEM (Sport & Exercise Medicine) PGCert.(Anatomical Sciences)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	杏林大学 講師 (平27.4)	

（注）
1　教員の数に応じ，適宜枠を増やして記入すること。
2　私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合又は大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合は，この書類を作成する必要はない。
3　「申請に係る学部等に従事する週当たりの平均日数」の欄は，専任教員のみ記載すること。

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（法学部法律学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
1	専	教授	アベ　ケンジ 阿部　憲二 ＜平成14年9月＞		教育学博士		時事英語Ⅰ	3前	2	1	法学部教授(平14.9)	5日
							英語コミュニケーションⅠ	1前	2	3		
							英語コミュニケーションⅡ	1後	2	3		
2	専	教授	カワイ　ミキオ 河合　幹雄 ＜平成5年4月＞		法学修士		法学入門ゼミⅠ	1前	2	1	法学部教授(平5.4)	5日
							法学入門ゼミⅡ	1後	2	1		
							専門基礎演習Ⅰ	2前	2	1		
							専門基礎演習Ⅱ	2後	2	1		
							法社会学	1後	2	1		
							フランス法	3後	2	1		
							法律演習Ⅰ	3前	2	1		
							法律演習Ⅱ	3後	2	1		
							法律演習Ⅲ	4前	2	1		
							法律演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	3通	2	1		
3	専	教授	ウチガサキ　ヒデヨシ 内ヶ崎　善英 ＜平成5年4月＞		法学修士		法学入門ゼミⅠ	1前	2	1	法学部教授(平5.4)	5日
							法学入門ゼミⅡ	1後	2	1		
							専門基礎演習Ⅰ	2前	2	1		
							専門基礎演習Ⅱ	2後	2	1		
							国際法Ⅰ	2前	2	1		
							国際法Ⅱ	3後	2	1		
							政治経済特別講義Ⅰ	2前	2	1		
							政治経済特別講義Ⅱ	2後	2	1		
							法律演習Ⅰ	3前	2	1		
							法律演習Ⅱ	3後	2	1		
							法律演習Ⅲ	4前	2	1		
							法律演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	3通	2	1		
4	専	教授	マス　ノブオ 升　信夫 ＜平成9年4月＞		法学博士		フレッシュマンゼミⅠ	1前	2	1	法学部教授(平9.4)	5日
							専門基礎演習Ⅰ	2前	2	1		
							専門基礎演習Ⅱ	2後	2	1		
							現代社会への視座Ⅰ	1前	2	1		
							現代社会への視座Ⅱ	1後	2	1		
							簿記論Ⅰ	2前	2	1		
							簿記論Ⅱ	2後	2	1		
							政治学Ⅰ	2前	2	1		
							政治学Ⅱ	2後	2	1		
							政治思想史	2後	2	1		
							法律演習Ⅰ	3前	2	1		
							法律演習Ⅱ	3後	2	1		
							法律演習Ⅲ	4前	2	1		
							法律演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	3通	2	1		
							持続可能な開発と法	1後	2	1		
							知的財産権法	3前	2	1		
							英米法	3後	2	1		
							法律外国語講読Ⅰ	3前	2	1		
							法律外国語講読Ⅱ	3後	2	1		
							法律外国語講読Ⅲ	3前	2	1		
							法律外国語講読Ⅳ	3後	2	1		
							外国法特別講義Ⅰ	2前	2	1		
							外国法特別講義Ⅱ	2後	2	1		
							公共政策演習Ⅰ	2前	2	1		
							公共政策演習Ⅱ	2後	2	1		
5	専	教授	ハラ　チサコ 原　千砂子 ＜平成5年4月＞		法学修士		フレッシュマンゼミⅠ	1前	2	1	法学部教授(平5.4)	5日
							英語コミュニケーションⅠ	1前	2	1		
							英語コミュニケーションⅡ	1後	2	1		
							専門基礎演習Ⅰ	2前	2	1		
							専門基礎演習Ⅱ	2後	2	1		
							ジェンダー論	2後	2	1		
							比較政治制度論Ⅰ	1前	2	1		
							法律演習Ⅰ	3前	2	1		
							法律演習Ⅱ	3後	2	1		
							法律演習Ⅲ	4前	2	1		
							法律演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	3通	2	1		

6	専	教授	カサハラ　タケヒコ 笠原　毅彦 ＜平成5年4月＞		法学修士		法学入門ゼミⅠ 法学入門ゼミⅡ 専門基礎演習Ⅰ 専門基礎演習Ⅱ 法情報学Ⅰ 法情報学Ⅱ 電子商取引法 民事法特別講義Ⅰ 法律演習Ⅰ 法律演習Ⅱ 法律演習Ⅲ 法律演習Ⅳ 卒業研究	1前 1後 2前 2後 2前 2後 3前 2後 3前 3後 4前 4後 3通	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	法学部 教授 (平5.4)	5日
7	専	教授	タケムラ　ノリヨシ 竹村　典良 ＜平成5年4月＞		法学修士		専門基礎演習Ⅰ 専門基礎演習Ⅱ SDGｓと法 環境法 刑事政策Ⅰ 刑事政策Ⅱ 犯罪学Ⅰ 犯罪学Ⅱ 法律演習Ⅰ 法律演習Ⅱ 法律演習Ⅲ 法律演習Ⅳ 卒業研究	2前 2後 1前 1後 2前 2後 1前 1後 3前 3後 4前 4後 3通	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	法学部 教授 (平5.4)	5日
8	専	教授	モリ　ヤスノリ 森　保憲 ＜平成15年4月＞		法学修士		法学入門ゼミⅠ 法学入門ゼミⅡ 専門基礎演習Ⅰ 専門基礎演習Ⅱ 憲法Ⅰ 憲法Ⅱ 比較憲法 憲法基礎演習 法律演習Ⅰ 法律演習Ⅱ 法律演習Ⅲ 法律演習Ⅳ 卒業研究	1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 1後 3前 3後 4前 4後 3通	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	法学部 教授 (平15.4)	5日
9	専	教授	タケウチ　アキヨ 竹内　明世 ＜平成10年4月＞		修士 (法学)		経済法 商法Ⅳ 模擬裁判Ⅱ キャリア・デザインⅠ キャリア・デザインⅡ 法律演習Ⅰ 法律演習Ⅱ 法律演習Ⅲ 法律演習Ⅳ 卒業研究 アクティヴ・ラーニングⅠ アクティヴ・ラーニングⅡ	3後 3前 1後 3前 3後 3前 3後 4前 4後 3通 2前 2後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	法学部 教授 (平10.4)	5日
10	専	教授	デグチ　ユウイチ 出口　雄一 ＜平成16年4月＞		博士 (法学)		法学入門ゼミⅠ 法学入門ゼミⅡ 専門基礎演習Ⅰ 専門基礎演習Ⅱ 法哲学 法史学Ⅱ 法律入門演習 法律演習Ⅰ 法律演習Ⅱ 法律演習Ⅲ 法律演習Ⅳ 卒業研究	1前 1後 2前 2後 2後 1後 1前 3前 3後 4前 4後 3通	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	法学部 教授 (平16.4)	5日
11	専	教授	カツマタ　ヒロフミ 勝亦　啓文 ＜平成17年4月＞		修士 (法学)		法学入門ゼミⅠ 法学入門ゼミⅡ 専門基礎演習Ⅰ 専門基礎演習Ⅱ 社会保障法 労働法Ⅰ 労働法Ⅱ 法律演習Ⅰ 法律演習Ⅱ 法律演習Ⅲ 法律演習Ⅳ 卒業研究	1前 1後 2前 2後 2後 3前 3後 3前 3後 4前 4後 3通	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	法学部 教授 (平17.4)	5日

12	専	教授 (学部長)	アサヅマ　カズヒト 麻妻　和人 ＜平成17年4月＞		修士 (法学)		法学入門ゼミⅠ 法学入門ゼミⅡ 専門基礎演習Ⅰ 専門基礎演習Ⅱ 基礎法特別講義Ⅰ 裁判法Ⅱ 刑事訴訟法 刑事法特別講義Ⅱ 法律演習Ⅰ 法律演習Ⅱ 法律演習Ⅲ 法律演習Ⅳ 卒業研究	1前 1後 2前 2後 2前 2後 3前 2後 3前 3後 4前 4後 3通	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	法学部 教授 (平17.4)	5日
13	専	教授	エグチ　マキコ 江口　眞樹子 ＜平成19年4月＞		法学修士		専門基礎演習Ⅰ 専門基礎演習Ⅱ 商法Ⅰ 商法Ⅱ 商法Ⅲ 金融商品取引法 会社法務 法律演習Ⅰ 法律演習Ⅱ 法律演習Ⅲ 法律演習Ⅳ 卒業研究	2前 2後 2前 3後 2後 3後 3後 3前 3後 4前 4後 3通	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	法学部 教授 (平19.4)	5日
14	専	教授	カン　ネイ 韓　寧 ＜平成19年4月＞		博士 (法学)		フレッシュマンゼミⅠ フレッシュマンゼミⅡ 民事紛争処理法Ⅰ 民事紛争処理法Ⅱ 中国法Ⅰ 中国法Ⅱ 法律演習Ⅰ 法律演習Ⅱ 法律演習Ⅲ 法律演習Ⅳ 卒業研究	1前 1後 3前 3後 3前 3後 3前 3後 4前 4後 3通	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	法学部 教授 (平19.4)	5日
15	専	教授 (学科長)	タニワキ　マサト 谷脇　真渡 ＜平成17年4月＞		修士 (法学)		法学入門ゼミⅠ 法学入門ゼミⅡ 専門基礎演習Ⅰ 専門基礎演習Ⅱ 刑法Ⅰ 刑法Ⅱ 刑法Ⅲ 刑法基礎演習 地方公共団体の実務Ⅰ 地方公共団体の実務Ⅱ 法律演習Ⅰ 法律演習Ⅱ 法律演習Ⅲ 法律演習Ⅳ 卒業研究	1前 1後 2前 2後 1後 2前 2前 1後 3前 3後 3前 3後 4前 4後 3通	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	法学部 教授 (平17.4)	5日
16	専	教授	ヤタベ　レイオ 谷田部　玲生 ＜平成21年4月＞		教育学修士		フレッシュマンゼミⅠ フレッシュマンゼミⅡ 専門基礎演習Ⅰ 専門基礎演習Ⅱ 法律演習Ⅰ 法律演習Ⅱ 卒業研究 社会科教育法Ⅰ 社会科教育法Ⅱ 社会科教育法Ⅲ 社会科教育法Ⅳ 公民科教育法Ⅰ 公民科教育法Ⅱ 事前・事後指導（中・高） 教育実習（中学校） 教育実習（高校） 教育実践演習（中・高）	1前 1後 2前 2後 3前 3後 3通 2前 2後 3前 3後 3前 3後 4前 4前 4前 4後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	法学部 教授 (平21.4)	5日
17	専	教授	フクイ　コウスケ 福井　康佐 ＜平成24年4月＞		博士 (法学)		法学入門ゼミⅠ 法学入門ゼミⅡ 憲法Ⅰ 憲法Ⅱ 租税法Ⅰ 租税法Ⅱ 公法特別講義Ⅰ 公法特別講義Ⅱ 法律演習Ⅰ 法律演習Ⅱ 法律演習Ⅲ 法律演習Ⅳ 卒業研究	1前 1後 1前 1後 3前 3後 2前 2後 3前 3後 4前 4後 3通	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	法学部 教授 (平24.4)	5日

18	専	教授	ナカノ　クニヤス 中野　邦保 ＜平成17年4月＞		修士 （法 学）		専門基礎演習Ⅰ 専門基礎演習Ⅱ 民法Ⅱ 民法Ⅲ 債権法 民事法特別講義Ⅰ 民事法特別講義Ⅱ ドイツ法 法律演習Ⅰ 法律演習Ⅱ 法律演習Ⅲ 法律演習Ⅳ 卒業研究	2前 2後 1後 2前 2前 2後 2後 3前 3前 3後 4前 4後 3通	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	法学部 教授 （平17.4）	5日
19	専	准教授	アキタ　トモコ 秋田　知子 ＜平成17年4月＞		修士 （法 学）		法学入門ゼミⅠ 法学入門ゼミⅡ 専門基礎演習Ⅰ 専門基礎演習Ⅱ 裁判法Ⅰ 民事訴訟法 民事執行保全法 法律日本語 ミディエイション交渉 法律演習Ⅰ 法律演習Ⅱ 法律演習Ⅲ 法律演習Ⅳ 卒業研究	1前 1後 2前 2後 2前 3前 3後 1前 2前 3前 3後 4前 4後 3通	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	法学部 准教授 （平17.4）	5日
20	専	准教授	モギ　ヨウヘイ 茂木　洋平 ＜平成24年4月＞		博士 （法 学）		法学入門ゼミⅠ 法学入門ゼミⅡ 専門基礎演習Ⅰ 専門基礎演習Ⅱ 憲法Ⅰ 憲法Ⅱ 行政法Ⅰ 行政法Ⅱ 法律演習Ⅰ 法律演習Ⅱ 法律演習Ⅲ 法律演習Ⅳ 卒業研究	1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後 3通	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	法学部 准教授 （平24.4）	5日
21	専	准教授	ナガハマ　ヒロフミ 長濱　博文 ＜平成29年4月＞		博士 （教育 学）		専門基礎演習Ⅰ 専門基礎演習Ⅱ 市民形成論 市民教育論 教育原理・教育課程論	2前 2後 2前 2後 2前	2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	法学部 准教授 （平29.4）	5日
22	専	准教授	タカセ　タケシ 髙瀬　武志 ＜平成26年4月＞		修士 （体育 学）		国際武道研修 フレッシュマンゼミⅠ フレッシュマンゼミⅡ 専門基礎演習Ⅰ 専門基礎演習Ⅱ スポーツ法学 桐蔭キャリアゲート 体育実技Ⅰ 体育実技Ⅱ アスリートの科学 アスリートキャリア アスリート・クロス リーダーシップ教育 ライフスキル	2後 1前 1後 2前 2後 2前 1前 1前 1後 1前 1後 2前 2前 2後	2 2 2 2 2 2 2 1 1 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	法学部 准教授 （平26.4）	5日
23	専	准教授	ヤノ　ショウゴロウ 箭野　章五郎 ＜平成27年4月＞		博士 （法 学）		法学入門ゼミⅠ 法学入門ゼミⅡ 専門基礎演習Ⅰ 専門基礎演習Ⅱ 刑法Ⅰ 刑法Ⅱ 刑事法特別講義Ⅰ 模擬裁判Ⅰ 法律演習Ⅰ 法律演習Ⅱ 法律演習Ⅲ 法律演習Ⅳ 卒業研究	1前 1後 2前 2後 1後 2前 2前 1後 3前 3後 4前 4後 3通	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	法学部 准教授 （平27.4）	5日

24	専	講師	ヨシダ　イサオ 吉田　功 ＜令和2年4月＞		学士 （経済学）		フレッシュマンゼミⅠ 専門基礎演習Ⅰ 専門基礎演習Ⅱ 情報社会論Ⅰ 情報社会論Ⅱ 近現代の政治・経済・社会Ⅰ 近現代の政治・経済・社会Ⅱ 現代社会への視座Ⅰ 現代社会への視座Ⅱ 公共政策演習Ⅰ 公共政策演習Ⅱ	1前 2前 2後 2前 2後 2前 2後 1前 1後 2前 2後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	法学部 講師 （令2.4）	5日
25	専	講師	アオキ　ヒトミ 青木　仁美 ＜平成31年4月＞		博士 （法学）		法学入門ゼミⅠ 法学入門ゼミⅡ 専門基礎演習Ⅰ 専門基礎演習Ⅱ 民法Ⅰ 民法Ⅲ 家族法 法律演習Ⅰ 法律演習Ⅱ 法律演習Ⅲ 法律演習Ⅳ 卒業研究	1前 1後 2前 2後 1前 2前 2後 3前 3後 4前 4後 3通	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	法学部 講師 （平31.4）	5日
26	専	助教	アサオカ　ケイタ 浅岡　慶太 ＜平成13年4月＞		修士 （法学）		法学入門ゼミⅠ 法学入門ゼミⅡ 英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 法史学Ⅰ 基礎法特別講義Ⅱ 法律演習Ⅰ 法律演習Ⅱ 法律演習Ⅲ 法律演習Ⅳ 卒業研究	1前 1後 1前 1後 1前 2後 3前 3後 4前 4後 3通	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	法学部 助教 （平13.4）	5日
27	専	助教	オオツジ　コウタ 大辻　康太 ＜平成31年4月＞		修士 （教育学）		体育実技Ⅰ 体育実技Ⅱ フレッシュマンゼミⅠ フレッシュマンゼミⅡ 専門基礎演習Ⅰ 専門基礎演習Ⅱ スポーツ法学	1前 1後 1前 1後 2前 2後 2前	1 1 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	法学部 助教 （平31.4）	5日
28	兼担	教授	カメオカ　セイロウ 亀岡　聖朗 ＜平成31年4月＞		博士 （心理学）		教育心理学 教育相談・キャリア教育指導論	1前 2後	2 2	1 1	スポーツ健康政策学部 教授 （平31.4）	5日
29	兼担	教授	イマイズミ　タカユキ 今泉　隆之 ＜平20年4月＞		修士 （文学）		宗教学概論	3後	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 （平20.4）	5日
30	兼担	教授	サトウ　ユタカ 佐藤　豊 ＜平成28年1月＞		教育学修士		教師論	1前	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 （平28.1）	5日
31	兼担	教授	ナミキ　コウイチ 並木　浩一 ＜平成24年4月＞		博士 （学術）		視覚文化論 MAST特別実習 MAST特別講義 ウェブ・コミュニケーション ビジネスアイデアデザイン ファッション文化論	1前 1前・後 1前・後 2前 2後 2前	2 1 2 2 2 2	1 2 2 1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 （平24.4）	5日
32	兼担	教授	カタヤマ　フミヨ 片山　富美代 ＜平成16年4月＞		博士 （学術）		健康と心理学 集団と心理学 幸せと心理学 意思決定と心理学 自己調整と心理学	1前 2前 2前 2後 2後	2 1 2 2 1	1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 （平16.7）	5日

33	兼担	教授	ハヤシダ　ハルミ 林田　はるみ ＜平成30年4月＞		博士 （スポーツ科学）		地域における健康課題 コミュニティ・ファシリテーション 地域政治論 地域観光事業論	1前 1後 2前 2前	2 2 2 2	1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 （平30.4）	5日
34	兼担	教授	イケガミ　マサシ 池上　和志 ＜平成18年4月＞		博士 （理学）		地球環境の科学 科学技術の未来 プロジェクト入門	1前 1後 1後	0.7 2 2	1 1 1	医用工学部 教授 （平18.4）	5日
35	兼担	教授	ミヤサカ　ツトム 宮坂　力 ＜平成13年12月＞		工学博士		地球環境の科学	1前	0.7	1	医用工学部 教授 （平13.12）	5日
36	兼担	教授	オカダ　トシエ 岡田　俊恵 ＜平成17年4月＞		文学修士		言語文化論 表現とコミュニケーション	1前 1後	2 2	1 1	スポーツ健康政策学部 教授 平17.4	5日
37	兼担	教授	ナカノ　ヒデユキ 中野　英之 ＜平成31年4月＞		博士 （地球環境科学）		地球と環境	1後	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 平31.4	5日
38	兼担	教授	タケダ　ヨシコ 武田　佳子 ＜令和3年4月＞		修士 （教育学）		ソーシャル・コミュニケーション	1後	2	1	教育研究開発機構 教授 （令和3.4）	5日
39	兼担	准教授	イ　ヒスン 李　禧承 ＜平24年4月＞		博士 （教育学）		教育方法論 ICT活用スキルの理論と実際	2後 3前	2 2	1 1	スポーツ健康政策学部 准教授 平24.4	5日
40	兼担	准教授	クリヤマ　ユタカ 栗山　裕 ＜平成3年4月＞		学術博士		情報処理Ⅰ デジタル産業論	1前 1後	2 2	1 1	スポーツ健康政策学部 教授 平3.4	5日
41	兼担	准教授	サイトウ　レイ 齋藤　れい ＜平成31年4月＞		博士 （スポーツ科学）		ビジネスの科学 マーケティング各論 アントレプレナーシップ プロジェクト入門 マーケティング・リサーチ 現代ビジネス論 分野横断型プロジェクト	1前 1後 1前 1後 2前 2後 2後	2 2 2 2 2 2 3	2 1 1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 准教授 （平31.4）	5日
42	兼担	准教授	ウエハタ　ヨウスケ 上畠　洋佑 ＜令和3年4月＞		修士 （教育学）		異文化の科学 プロジェクト入門 異文化リサーチ フード文化論 若者文化論 分野横断型プロジェクト ことばのスキル	1前 1後 2前 2後 2後 2後 1後	2 2 2 2 2 3 2	1 1 1 1 1 1 1	教育研究開発機構 准教授 （令和3.4）	5日
43	兼担	講師	ミゾグチ　ユウ 溝口　侑 ＜令和3年4月＞		修士 （教育学）		桐蔭スキルゲート データコミュニケーション入門 心の科学 こころの世界 青年と心理学 集団と心理学 意思決定と心理学 自己調整と心理学 プロジェクト入門 分野横断型プロジェクト	1前 1後 1前 1前 1・2後 2前 2後 2後 1後 2後	2 2 2 2 2 1 2 1 2 3	1 1 2 1 1 1 1 1 1 1	教育研究開発機構 講師 （令和3.4）	5日
44	兼担	講師	マツイ　シンサク 松井　晋作 ＜令和3年4月＞		修士 （文学）		桐蔭キャリアゲート 地域の科学 サスティナブル社会学 プロジェクト入門 横浜地域学 実践地域創成学 分野横断型プロジェクト	1前 1前 1後 1後 2後 2後 2後	2 2 2 2 2 2 3	1 2 1 1 1 1 1	教育研究開発機構 講師 （令和3.4）	5日
45	兼担	講師	シバヤマ　ナオユキ 柴山　直之 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		地球環境の科学 分野横断型プロジェクト	1前 2後	0.7 3	1 1	医用工学部 講師 （令和3.4）	5日

46	兼任	客員教授	ナカジマ　ハジメ 中島　肇 ＜平成19年4月＞		学士 (法学)		消費者と法 倒産法	2後 3前	2 2	1 1	桐蔭横浜大学 客員教授 (平19.4)	
47	兼任	講師	スダ　カズヒト 須田　和人 ＜平成26年4月＞		修士 (体育学)		大学スポーツ論	1前	2	1	一般社団法人 菜の花AC 理事長 (令2.10)	
48	兼任	講師	ﾌｼﾞﾓﾄ　ｹﾝﾀﾛｳ 藤本　健太朗 ＜令和3年4月＞		博士 (文学)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (令3.4)	
49	兼任	講師	スズキ　シンジ 鈴木　眞二 ＜令和4年4月＞		学士 (フランス文学)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	6 6	ファブリス株式会社 代表取締役 (平18.11)	
50	兼任	講師	カガミ　ナオコ 加賀美　直子 ＜令和4年4月＞		学士 (外国文化)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	2 2 1 1	自営業	
51	兼任	講師	ヒガシヤマ　シホ 東山　志帆 ＜令和4年4月＞		修士 (学術)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	6 6	湘南工科大学付属高等学校 講師 (令2.4)	
52	兼任	講師	スギシタ　アヤコ 杉下　文子 ＜令和4年4月＞		修士 (教育学)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	1 1	学校法人河合塾 英語科 (平成4.4)	
53	兼任	講師	ﾗﾐﾚｽﾞ ﾌﾗﾝｼｽ ｸﾛｴ ＜令和4年4月＞		MA English and British Literature		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (令4.4)	
54	兼任	講師	ﾏｰｸｽ ｹﾋﾞﾝ ﾀﾞｸﾞﾗｽ ＜令和4年4月＞		Master of Arts in TESOL		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	7 7	San Diego State University, California English Teacher (平31.4-令3.12)	
55	兼任	講師	ﾃﾞｼｲﾝ ｼﾞｭﾘｰ ｳﾞｨｰ ﾏﾉﾝｿﾝ ＜令和4年4月＞		Masters in Education with specialization in English Language		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	ISA English Teacher (平31.3)	
56	兼任	講師	ｽﾄｰｸｽ ｼﾞｪｰﾑｽﾞ ﾌﾞﾗｯﾄﾞﾘｰ ＜令和4年4月＞		Master of Arts (TESOL)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	東京モード学園 講師 (令3.3)	
57	兼任	講師	スズキ　ナギ 鈴木　凪 ＜令和4年4月＞		Master of Arts in Chemistry		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	フリーランス	
58	兼任	講師	ｱｰﾈｯﾄ ﾀﾞﾆｴﾙ ｼﾞｪｰﾑｽﾞ ＜令和4年4月＞		MA in Education		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	5 5	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (令4.4)	
59	兼任	講師	ｸﾞﾗｰﾙ ｸﾘｽﾄﾌｧｰ ﾏｲｹｰﾙ ＜令和4年4月＞		Masters degree in Applied language studies for TESOL		英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	2前 2後	2 2	1 1	Kanda Institute of Foreign Languages Instructor (平27.4)	
60	兼任	講師	ｶｰﾝ ﾌｧｲｱｰｽﾞ ＜令和4年4月＞		MSc SEM (Sport & Exercise Medicine) PGCert.(Anatomical Sciences)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	杏林大学 講師 (平27.4)	
61	兼任	講師	タナカ　ヒロシ 田中　比呂志 ＜平成29年4月＞		博士 (社会学)		東洋史概論	2後	2	1	東京学芸大学 教授 (平21.4)	

62	兼任	講師	カミタ　セイジ 上田　誠二 ＜平成30年4月＞		博士 (史学)		日本史概論	2後	2	1	日本女子大学 准教授 (令2.4)	
63	兼任	講師	アスマ　カズタカ 飛鳥馬　一峰 ＜令和3年4月＞		博士 (史学)		西洋史概論	2前	2	1	中央大学 客員研究員 (平31.4)	
64	兼任	講師	タカダ　ハルノリ 高田　明宣 ＜平成26年4月＞		博士 (学術)		哲学概論 倫理学概論	3後 3前	2 2	1 1	TAC(株)公務員 試験講座 講師 (平20.10)	
65	兼任	講師	マツキ　ユウマ 松木　祐馬 ＜令和2年4月＞		修士 (文学)		心理学概論	3後	2	1	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (令2.4)	
66	兼任	講師	サトウ　ヤスヒデ 佐藤　康秀 ＜平成27年4月＞		音声学 修士		日本語ⅠA 日本語ⅡA 日本語ⅢA	1前 1前 1後	2 2 2	1 1 1	神田日本語教育 アカデミー 主任講師 (平15.4)	
67	兼任	講師	イワツキ　エミコ 岩附　英美子 ＜平成27年4月＞		経済 学士		日本語ⅠB 日本語ⅡB 日本語ⅢB	1前 1前 1後	2 2 2	1 1 1	神田日本語教育 アカデミー 代表取締役 (平15.4)	
68	兼任	講師	トミタ　ヨウスケ 冨田　洋介 ＜平成27年4月＞		博士 (金融 学)		日本経済論 経済学Ⅰ 経済学Ⅱ	3前 1前 1後	2 2 2	1 1 1	東洋学園大学 講師 (平31.6)	
69	兼任	講師	カワゾエ　ワタル 川添　航 ＜令和2年4月＞		博士 (理 学)		地理学概論 地誌学	1後 3前	2 2	1 1	立正大学 助教 (令4.4)	
69	兼任	講師	コバヤシ　マミ 小林　麻美 ＜令和4年4月＞		博士 (経営 学)		国際経済論	3後	2	1	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (令4.4)	
70	兼任	講師	ヤマグチ　アキコ 山口　晶子 ＜平成30年4月＞		修士 (教育 学)		社会学Ⅰ 社会学Ⅱ 教育社会論(学校安全を含む)	2前 2後 2前	2 2 2	1 1 1	東京学芸大学 共同研究員 (平27.7)	
71	兼任	講師	ﾄｸﾓﾄ　ﾋﾛﾀｶ 徳本　宏孝 ＜令和4年4月＞		修士 (法学)		行政法Ⅲ 地方自治法	3前 3後	2 2	1 1	中央大学 法学部 教授 (平29.4)	
72	兼任	講師	オカダ　アキト 岡田　昭人 ＜平成26年4月＞		修士 (工学)		都市と防災	2後	2	1	住まい・まちづくりデザインワークス　代表社員 (平20.7)	
73	兼任	客員 教授	サトウ　エイイチ 佐藤　榮一 ＜平成26年4月＞		高等学 校 卒業		消防学	2前	2	1	桐蔭横浜大学 客員教授 (平26.4)	
74	兼任	講師	ミヤサカ　トモゾウ 宮坂　友造 ＜平成30年4月＞		修士 (法学)		民法Ⅰ 民法Ⅱ 物権法 民法基礎演習	1前 1後 2前 1後	2 2 2 2	1 1 1 1	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (平30.4)	
75	兼任	講師	ボ　ヤント 宝　音図 ＜平成29年4月＞		博士 (法学)		比較政治制度論Ⅱ	1後	2	2	欧米・アジア語 学センター (平28.4)	
76	兼任	講師	アルガ　マナブ 有賀　学 ＜平成27年4月＞		学士 (法学)		不動産法Ⅰ 不動産法Ⅱ	3前 3後	2 2	1 1	新綜合事務所 所属 (平成18.6)	
77	兼任	講師	キム　ミワ 金　美和 ＜平成29年4月＞		修士 (法学)		国際私法	3後	2	1	青森中央学院大学 准教授 (平21.4)	

78	兼任	講師	オカザキ　リカ 岡崎　理香 ＜平成28年4月＞		修士 (法学)		行政学Ⅰ 行政学Ⅱ	2前 2後	2 2	1 1	一般社団法人 Global Issues Forum Tokyo 事務局長 (平26.1)	
79	兼任	講師	ヤナギ　アヤコ 柳　綾子 ＜平成30年4月＞		博士 (経営学)		会計学Ⅰ 会計学Ⅱ	2前 3前	2 2	1 1	税理士法人恒輝 (榎本税務会計事務所) (平25.9～平29.3)	
80	兼任	講師	ノジ　モモ 野地　もも ＜平成29年4月＞		修士 (商学)		財政学Ⅰ 財政学Ⅱ	2後 2後	2 2	1 1	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (平29.4)	
81	兼任	講師	ソン　ヨンジン 孫　榮振 ＜令和2年4月＞		博士 (商学)		社会経営論 経営学	3後 2前	2 2	1 1	日本マテリオ(株) 共同代表取締役 (平24.4)	
82	兼任	客員教授	ペマ・ギャルポ ＜平成16年4月＞		学士 (法学)		外交史 国際政治論	2後 2前	2 2	1 1	桐蔭横浜大学 客員教授 (平16.4)	
83	兼任	講師	イケダ　アツコ 池田　敦子 ＜令和3年4月＞		修士 (教育学)		特別支援教育指導論	2後	2	1	東海学院大学 教授 (令2.4)	
84	兼任	講師	ヤハギ　ノブユキ 矢作　信行 ＜令和29年4月＞		修士 (学術)		道徳教育指導論	2前	2	1	帝京平成大学 教授 (令2.4)	
85	兼任	客員教授	ﾖｼﾊﾗ　ｼｮｳｺ 吉原　晶子 ＜平成29年4月＞		学士 (教育学)		特別活動・総合的な学習の時間指導論	3後	2	1	桐蔭横浜大学 客員教授 (平29.4)	
86	兼任	講師	マエダ　ヨシヒト 前田　善仁 ＜平成30年4月＞		修士 (教育学)		生徒指導論	3前	2	1	東海大学 教授 (平26.4)	
87	兼任	講師	スズキ　ジュンコ 鈴木　敦子 ＜令和2年4月＞		博士 (ヒューマン・ケア科学)		教育相談・キャリア教育指導論	2後	2	1	白百合女子大学 生涯発達研究教育センター研究員 (平31.4)	

(注)
1　教員の数に応じ，適宜枠を増やして記入すること。
2　私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合又は大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合は，この書類を作成する必要はない。
3　「申請に係る学部等に従事する週当たりの平均日数」の欄は，専任教員のみ記載すること。

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（医用工学部生命医工学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
1	専	教授	ヨネサカ　トモアキ 米坂　知昭 ＜平成21年1月＞		博士（工学）		公衆衛生学	1前	1	1	医用工学部教授（平21.1）	5日
							医学概論	1前	1	1		
							生命医工学実験Ⅳ	3後	0.18	1		
							生命医工学セミナⅡ	3後	0.18	1		
							プロジェクト研究Ⅰ	1前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅱ	1後	2	2		
							プロジェクト研究Ⅲ	2前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅳ	2後	2	1		
							プロジェクト研究Ⅴ	3前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅵ	3後	2	1		
							コロキウムⅠ	4前	0.14	1		
							コロキウムⅡ	4後	0.14	1		
							卒業研究	4通	8	1		
							インターンシップ	3後	1	1		
							キャリア研究	3後	2	1		
							臨床検査学総論Ⅰ	2前	2	1		
							臨床検査学総論Ⅱ	2後	2	1		
							関係法規	3前	2	1		
							臨地実習	4通	0.56	1		
2	専	教授（学科長）	コデラ　ヨウ 小寺　洋 ＜昭和63年4月＞		理学博士		生物学	1前	2	1	医用工学部教授（昭63.4）	5日
							健康の科学	1前	2	1		
							分子生物学Ⅰ	3前	2	1		
							生命医工学実験Ⅱ	2後	0.5	1		
							生命医工学実験Ⅳ	3後	0.18	1		
							生命医工学セミナⅠ	3前	0.4	1		
							生命医工学セミナⅡ	3後	0.18	1		
							プロジェクト研究Ⅰ	1前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅱ	1後	2	2		
							プロジェクト研究Ⅲ	2前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅳ	2後	2	1		
							プロジェクト研究Ⅴ	3前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅵ	3後	2	1		
							コロキウムⅠ	4前	0.14	1		
							コロキウムⅡ	4後	0.14	1		
							卒業研究	4通	8	1		
							臨地実習	4通	0.56	1		
3	専	教授（学部長）	トクオカ　ヨシカズ 徳岡　由一 ＜平成13年4月＞		博士（工学）		化学	1前	2	1	医用工学部教授（平13.4）	5日
							フレッシュマンセミナⅠ	1前	2	1		
							フレッシュマンセミナⅡ	1後	2	1		
							応用数学	1後	2	1		
							バイオマテリアル学	3前	2	1		
							バイオサイエンスⅠ	1前	2	1		
							バイオサイエンスⅡ	1後	2	1		
							生命医工学実験Ⅲ	3前	0.4	1		
							生命医工学実験Ⅳ	3後	0.18	1		
							生命医工学セミナⅠ	3前	0.4	1		
							生命医工学セミナⅡ	3後	0.66	1		
							プロジェクト研究Ⅰ	1前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅱ	1後	2	2		
							プロジェクト研究Ⅲ	2前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅳ	2後	2	1		
							プロジェクト研究Ⅴ	3前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅵ	3後	2	1		
							コロキウムⅠ	4前	0.14	1		
							コロキウムⅡ	4後	0.14	1		
							卒業研究	4通	8	1		
							バイオサイエンスⅢ	2前	2	1		
							バイオサイエンスⅣ	2後	2	1		
							臨地実習	4通	0.56	1		

4	専	教授	ヨシダ　カオル 吉田　薫 ＜平成16年4月＞		博士 （理学）		分子生物学Ⅱ	3後	2	1	医用工学部 教授 （平16.6）	5日
							再生工学	3後	2	1		
							人の構造及び機能Ⅱ	1前	2	1		
							工学ワークショップⅡ	1後	4	1		
							生命医工学実験Ⅰ	2前	0.5	1		
							生命医工学実験Ⅱ	2後	0.5	1		
							生命医工学実験Ⅳ	3後	0.18	1		
							生命医工学セミナⅡ	3後	0.18	1		
							プロジェクト研究Ⅰ	1前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅱ	1後	2	2		
							プロジェクト研究Ⅲ	2前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅳ	2後	2	1		
							プロジェクト研究Ⅴ	3前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅵ	3後	2	1		
							コロキウムⅠ	4前	0.14	1		
							コロキウムⅡ	4後	0.14	1		
							卒業研究	4通	8	1		
							臨地実習	4通	0.56	1		
5	専	教授	ハギワラ　ヒロミ 萩原　啓実 ＜平成16年4月＞		理学博士		生化学Ⅰ	1後	2	1	医用工学部 教授 （平16.4）	5日
							生化学Ⅱ	2後	2	1		
							発生工学	3前	2	1		
							人の構造及び機能Ⅱ	1前	2	1		
							工学ワークショップⅡ	1後	4	1		
							生命医工学実験Ⅲ	3前	0.4	1		
							生命医工学実験Ⅳ	3後	0.18	1		
							生命医工学セミナⅠ	3前	0.4	1		
							生命医工学セミナⅡ	3後	0.18	1		
							プロジェクト研究Ⅰ	1前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅱ	1後	2	2		
							プロジェクト研究Ⅲ	2前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅳ	2後	2	1		
							プロジェクト研究Ⅴ	3前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅵ	3後	2	1		
							コロキウムⅠ	4前	0.14	1		
							コロキウムⅡ	4後	0.14	1		
							卒業研究	4通	8	1		
							臨地実習	4通	0.56	1		
6	専	教授	ニシムラ　ヒロユキ 西村　裕之 ＜平成6年4月＞		理学博士		生物情報学	3後	2	1	医用工学部 教授 （平6.4）	5日
							臨床免疫学Ⅰ	2前	2	1		
							臨床免疫学Ⅱ	2後	2	1		
							生命医工学実験Ⅰ	2前	0.5	1		
							生命医工学実験Ⅱ	2後	0.5	1		
							生命医工学実験Ⅳ	3後	0.18	1		
							生命医工学セミナⅠ	3前	0.5	1		
							生命医工学セミナⅡ	3後	0.18	1		
							プロジェクト研究Ⅰ	1前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅱ	1後	2	2		
							プロジェクト研究Ⅲ	2前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅳ	2後	2	1		
							プロジェクト研究Ⅴ	3前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅵ	3後	2	1		
							コロキウムⅠ	4前	0.14	1		
							コロキウムⅡ	4後	0.14	1		
							卒業研究	4通	8	1		
							臨地実習	4通	0.56	1		
7	専	准教授	オオタ　エイスケ 太田　英輔 ＜令和4年4月＞		博士 （理学）		有機化学基礎	1後	2	1	医用工学部 准教授 （令4.4）	5日
							有機化学Ⅰ	2前	2	1		
							有機化学Ⅱ	2後	2	1		
							高分子化学	2後	2	1		
							生命医工学実験Ⅰ	2前	0.5	1		
							生命医工学実験Ⅲ	3前	0.4	1		
							生命医工学実験Ⅳ	3後	0.18	1		
							生命医工学セミナⅠ	3前	0.4	1		
							生命医工学セミナⅡ	3後	0.18	1		
							プロジェクト研究Ⅰ	1前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅱ	1後	2	2		
							プロジェクト研究Ⅲ	2前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅳ	2後	2	1		
							プロジェクト研究Ⅴ	3前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅵ	3後	2	1		
							コロキウムⅠ	4前	0.14	1		
							コロキウムⅡ	4後	0.14	1		
							卒業研究	4通	8	1		
							インターンシップ	3後	1	1		
							臨地実習	4通	0.56	1		

8	専	准教授	オオツジ　マレキ 大辻　希樹 ＜平成21年4月＞		博士 （医 学）		病理学Ⅰ	3前	2	1	医用工学部 准教授 （平21.4）	5日
							病理学Ⅱ	3後	2	1		
							臨床病理学Ⅰ	3前	2	1		
							臨床病理学Ⅱ	3後	2	1		
							生命医工学実験Ⅰ	2前	0.5	1		
							生命医工学実験Ⅱ	2後	0.66	1		
							生命医工学実験Ⅲ	3前	0.66	1		
							生命医工学実験Ⅳ	3後	0.66	1		
							生命医工学セミナⅠ	3前	0.5	1		
							生命医工学セミナⅡ	3後	0.18	1		
							プロジェクト研究Ⅰ	1前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅱ	1後	2	2		
							プロジェクト研究Ⅲ	2前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅳ	2後	2	1		
							プロジェクト研究Ⅴ	3前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅵ	3後	2	1		
							コロキウムⅠ	4前	0.14	1		
							コロキウムⅡ	4後	0.14	1		
							卒業研究	4通	8	1		
							臨床医学総論Ⅰ	3前	2	1		
							一般検査学実験	3後	0.5	1		
							臨地実習	4通	0.56	1		
9	専	准教授	シミズ　トモミ 清水　智美 ＜平成22年4月＞		博士 （医 学）		臨床生理学Ⅱ	3前	2	1	医用工学部 准教授 （平22.4）	5日
							生命医工学実験Ⅰ	2前	0.5	1		
							生命医工学実験Ⅱ	2後	0.66	1		
							生命医工学実験Ⅲ	3前	0.66	1		
							生命医工学実験Ⅳ	3後	0.66	1		
							生命医工学セミナⅡ	3後	0.66	1		
							プロジェクト研究Ⅰ	1前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅱ	1後	2	2		
							プロジェクト研究Ⅲ	2前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅳ	2後	2	1		
							プロジェクト研究Ⅴ	3前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅵ	3後	2	1		
							コロキウムⅠ	4前	0.14	1		
							コロキウムⅡ	4後	0.14	1		
							卒業研究	4通	8	1		
							臨床検査学総論Ⅲ	4後	2	1		
							一般検査学実験	3後	0.5	1		
							臨地実習	4通	0.56	1		
10	専	講師	オオヌマ　ケンタロウ 大沼　健太郎 ＜平成28年4月＞		博士 （工 学）		物理Ⅰ	1前	2	1	医用工学部 講師 （平28.4）	5日
							物理Ⅱ	1後	2	1		
							力学	2前	2	1		
							電磁気学	2後	2	1		
							医用工学概論	1後	2	1		
							電気工学	2前	2	1		
							工学ワークショップⅡ	1後	4	1		
							生命医工学実験Ⅱ	2後	0.5	1		
							生命医工学実験Ⅳ	3後	0.18	1		
							生命医工学セミナⅡ	3後	0.18	1		
							プロジェクト研究Ⅰ	1前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅱ	1後	2	2		
							プロジェクト研究Ⅲ	2前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅳ	2後	2	1		
							プロジェクト研究Ⅴ	3前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅵ	3後	2	1		
							コロキウムⅠ	4前	0.14	1		
							コロキウムⅡ	4後	0.14	1		
							卒業研究	4通	8	1		
							臨地実習	4通	0.56	1		
11	専	講師	サワグチ　ヨシカズ 澤口　能一 ＜平成30年4月＞		博士 （薬 学）		薬理学	2後	2	1	医用工学部 講師 （平30.4）	5日
							衛生科学	2後	2	1		
							工学ワークショップⅠ	1前	4	1		
							生命医工学実験Ⅲ	3前	0.4	1		
							生命医工学実験Ⅳ	3後	0.18	1		
							生命医工学セミナⅠ	3前	0.4	1		
							生命医工学セミナⅡ	3後	0.18	1		
							プロジェクト研究Ⅰ	1前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅱ	1後	2	2		
							プロジェクト研究Ⅲ	2前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅳ	2後	2	1		
							プロジェクト研究Ⅴ	3前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅵ	3後	2	1		
							コロキウムⅠ	4前	0.14	1		
							コロキウムⅡ	4後	0.14	1		
							卒業研究	4通	8	1		
							臨地実習	4通	0.56	1		

12	専	講師	ハスヌマ　ユウヤ 蓮沼　裕也 ＜平成24年4月＞		博士 （工学）		遺伝子工学 システム安全工学 工学ワークショップⅠ 生命医工学実験Ⅰ 生命医工学実験Ⅱ 生命医工学実験Ⅳ 生命医工学セミナⅠ 生命医工学セミナⅡ プロジェクト研究Ⅰ プロジェクト研究Ⅱ プロジェクト研究Ⅲ プロジェクト研究Ⅳ プロジェクト研究Ⅴ プロジェクト研究Ⅵ コロキウムⅠ コロキウムⅡ 卒業研究 微生物学Ⅰ 微生物学Ⅱ 一般検査学実験 臨地実習	3後 3前 1前 2前 2後 3後 3前 3後 1前 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後 4通 2前 2後 3後 4通	2 2 4 0.5 0.66 0.18 0.5 0.66 2 2 2 2 2 2 0.14 0.14 8 2 2 0.5 0.56	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	医用工学部 講師 （平24.4）	5日
13	専	講師	ヤマグチ　トモコ 山口　智子 ＜令和4年4月＞		博士 （理工学）		工学へのステップ 物理化学Ⅰ 物理化学Ⅱ 機器分析学 環境分析学 工学ワークショップⅠ 工学ワークショップⅡ 生命医工学実験Ⅰ 生命医工学実験Ⅲ 生命医工学実験Ⅳ 生命医工学セミナⅡ プロジェクト研究Ⅰ プロジェクト研究Ⅱ プロジェクト研究Ⅲ プロジェクト研究Ⅳ プロジェクト研究Ⅴ プロジェクト研究Ⅵ コロキウムⅠ コロキウムⅡ 卒業研究 臨地実習	1前 1後 2後 2前 2後 1前 1後 2前 3前 3後 3後 1前 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後 4通 4通	2 2 2 2 2 4 4 0.5 0.4 0.18 0.18 2 2 2 2 2 2 0.14 0.14 8 0.56	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1	医用工学部 講師 （令4.4）	5日
14	専	助教	ナミカワ　ユイ 濤川　唯 ＜平成23年4月＞		学士 （外国文化）		医用超音波工学 生命医工学実験Ⅰ 生命医工学実験Ⅲ 生命医工学実験Ⅳ 生命医工学セミナⅠ 生命医工学セミナⅡ プロジェクト研究Ⅰ プロジェクト研究Ⅱ プロジェクト研究Ⅲ プロジェクト研究Ⅳ プロジェクト研究Ⅴ プロジェクト研究Ⅵ コロキウムⅠ コロキウムⅡ 卒業研究 一般検査学実験 臨地実習	3前 2前 3前 3後 3前 3後 1前 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後 4通 3後 4通	2 0.5 0.66 0.66 0.5 0.18 2 2 2 2 2 2 0.14 0.14 8 0.5 0.56	1 1 1 1 1 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1	医用工学部 助教 （平23.4）	5日
15	兼担	教授	サノ　モトアキ 佐野　元昭 ＜平成11年4月＞		理学博士		物理Ⅰ 物理Ⅱ コンピュータリテラシ 医療情報処理入門 システム工学 医用統計学	1前 1後 1前 1後 2前 3後	2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	医用工学部 教授 （平11.4）	5日
16	兼担	教授	モリシタ　タケシ 森下　武志 ＜平成20年4月＞		博士 （工学）		福祉工学 工学ワークショップⅡ	3後 1後	2 4	1 1	医用工学部 教授 （平20.4）	5日
17	兼担	教授	イケガミ　マサシ 池上　和志 ＜平成18年4月＞		博士 （理学）		数学Ⅰ 数学Ⅱ 微分積分学Ⅰ 微分積分学Ⅱ 医用レーザ工学 地球環境の科学 科学技術の未来 プロジェクト入門	1前 1後 2前 2後 1後 1前 1後 1後	2 2 2 2 2 0.7 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	医用工学部 教授 （平18.4）	5日
18	兼担	教授	ミヤサカ　ツトム 宮坂　力 ＜平成13年12月＞		工学博士		地球環境の科学	1前	0.7	1	医用工学部 教授 （平13.12）	5日
19	兼担	教授	ハラ　チサコ 原　千砂子 ＜平成5年4月＞		法学修士		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	1 1	法学部 教授 （平5.4）	5日

20	兼担	教授	アベ　ケンジ 阿部　憲二 ＜平成14年9月＞		教育学博士		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	3 3	法学部 教授 (平14.9)	5日
21	兼担	教授	ナカノ　ヒデユキ 中野　英之 ＜平成31年4月＞		博士(地球環境科学)		地球と環境	1後	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 (平31.4)	5日
22	兼担	教授	マス　ノブオ 升　信夫 ＜平成9年4月＞		法学博士		持続可能な開発と法	1後	2	1	法学部 教授 (平9.4)	5日
23	兼担	教授	タケダ　ヨシコ 武田　佳子 ＜令和3年4月＞		修士(教育学)		ソーシャル・コミュニケーション	1後	2	1	教育研究開発機構 教授 (令和3.4)	5日
24	兼担	教授	オカダ　トシエ 岡田　俊恵 ＜平成17年4月＞		文学修士		言語文化論 表現とコミュニケーション	1前 1後	2 2	1 1	スポーツ健康政策学部 教授 (平17.4)	5日
25	兼担	教授	ナミキ　コウイチ 並木　浩一 ＜平成24年4月＞		博士(学術)		視覚文化論 MAST特別実習 MAST特別講義 ウェブ・コミュニケーション ビジネスアイデアデザイン ファッション文化論	1前 1前・後 1前・後 2前 2後 2前	2 1 2 2 2 2	1 2 2 1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 (平24.4)	5日
26	兼担	教授	カタヤマ　フミヨ 片山　富美代 ＜平成16年4月＞		博士(学術)		健康と心理学 集団と心理学 幸せと心理学 意思決定と心理学 自己調整と心理学 臨床心理学	1前 2前 2前 2後 2後 3後	2 1 2 2 1 2	1 1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 (平16.7)	5日
27	兼担	教授	ハヤシダ　ハルミ 林田　はるみ ＜平成30年4月＞		博士(スポーツ科学)		地域における健康課題 コミュニティ・ツアンリアーンョン 地域政治論 地域観光事業論	1前 1後 2前 2前	2 2 2 2	1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 (平30.4)	5日
28	兼担	准教授	ミナミ　ジュンコ 南　順子 ＜令和3年4月＞		博士(医学)		人間生物学	2前	2	1	医用工学部 准教授 (令3.4)	
29	兼担	准教授	タカセ　タケシ 髙瀬　武志 ＜平成27年4月＞		体育学修士		桐蔭キャリアゲート 体育実技Ⅰ 体育実技Ⅱ アスリートの科学 アスリートキャリア アスリート・クロス リーダーシップ教育 ライフスキル	1前 1前 1後 1前 1後 2前 2前 2後	2 1 1 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	法学部 准教授 (平27.4)	5日
30	兼担	准教授	サイトウ　レイ 齋藤　れい ＜平成31年4月＞		博士(スポーツ科学)		ビジネスの科学 マーケティング各論 アントレプレナーシップ プロジェクト入門 マーケティング・リサーチ 現代ビジネス論 分野横断型プロジェクト	1前 1後 1前 1後 2前 2後 2後	2 2 2 2 2 2 3	2 1 1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 准教授 (平31.4)	5日
31	兼担	准教授	ウエハタ　ヨウスケ 上畠　洋佑 ＜令和3年4月＞		修士(教育学)		異文化の科学 プロジェクト入門 異文化リサーチ フード文化論 若者文化論 分野横断型プロジェクト ことばのスキル	1前 1後 2前 2後 2後 2後 1後	2 2 2 2 2 3 2	1 1 1 1 1 1 1	教育研究開発機構 准教授 (令和3.4)	5日
32	兼担	准教授	クリヤマ　ユタカ 栗山　裕 ＜令和5年4月＞		学術博士		デジタル産業論	1後	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 (平3.4)	5日

33	兼担	講師	イシカワ　ムツオ 石河　睦生 ＜平成23年4月＞		博士 （工学）		数学Ⅰ 数学Ⅱ 微分積分学Ⅰ 微分積分学Ⅱ	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	医用工学部 講師 （平23.4）	5日
34	兼担	講師	ミゾグチ　ユウ 溝口　侑 ＜令和3年4月＞		修士 （教育学）		桐蔭スキルゲート データコミュニケーション入門 心の科学 こころの世界 青年と心理学 集団と心理学 意思決定と心理学 自己調整と心理学 プロジェクト入門 分野横断型プロジェクト	1前 1後 1前 1前 1・2後 2前 2後 2後 1後 2後	2 2 2 2 2 1 2 1 2 3	1 1 2 1 1 1 1 1 1 1	教育研究開発機構 講師 （令和3.4）	5日
35	兼担	講師	マツイ　シンサク 松井　晋作 ＜令和3年4月＞		修士 （文学）		桐蔭キャリアゲート 地域の科学 サステナブル社会学 プロジェクト入門 横浜地域学 実践地域創成学 分野横断型プロジェクト	1前 1前 1後 1後 2後 2後 2後	2 2 2 2 2 2 3	1 2 1 1 1 1 1	教育研究開発機構 講師 （令和3.4）	5日
36	兼担	講師	シバヤマ　ナオユキ 柴山　直之 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		地球環境の科学 分野横断型プロジェクト	1前 2後	0.7 3	1 1	医用工学部 講師 （令和3.4）	5日
37	兼担	助教	アサオカ　ケイタ 浅岡　慶太 ＜平成13年4月＞		修士 （法学）		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	1 1	法学部 助教 （平13.4）	5日
38	兼担	助教	オオツジ　コウタ 大辻　康太 ＜平成31年4月＞		修士 （教育学）		体育実技Ⅰ 体育実技Ⅱ	1前 1後	1 1	1 1	法学部 助教 （平31.4）	5日
39	兼任	講師	エリザベス　オノデラ ＜平成19年4月＞		Bachelor of Science Bachelor of Arts		英語Ⅲ 英語Ⅳ	2前 2後	2 2	1 1	桐蔭横浜大学 非常勤講師 （平19.4）	
40	兼任	講師	イナダ　マサノリ 稲田　政則 ＜平成30年4月＞		博士 （システムズ・マネジメント）		放射線工学概論	1後	2	1	つくば国際大学 准教授 平27.4	
41	兼任	講師	イワツキ　エミコ 岩附　英美子 ＜平成27年4月＞		経済学士		日本語ⅠB 日本語ⅡB 日本語ⅢB	1前 1前 1後	2 2 2	1 1 1	神田日本語教育アカデミー 代表取締役 （平15.4）	
42	兼任	講師	オチアイ　アキラ 落合　晃 ＜令和3年4月＞		博士 （医学）		統合医療学概論	2前	2	1	日本医療科学大学 教授 （平29.4）	
43	兼任	講師	コバヤシ　タカシ 小林　貴 ＜平成28年4月＞		理学修士		工学ワークショップⅡ	1後	4	1	桐蔭横浜大学 特任准教授 （平26.4～平28.3）	
44	兼任	講師	ササキ　マイコ 佐々木　舞子 ＜平成30年4月＞		学士 （社会福祉学）		看護学概論	2後	2	1	昭和大学藤が丘病院 （平23.4）	
45	兼任	講師	サトウ　ヤスヒデ 佐藤　康秀 ＜平成27年4月＞		音声学修士		日本語ⅠA 日本語ⅡA 日本語ⅢA	1前 1前 1後	2 2 2	1 1 1	神田日本語教育アカデミー 主任講師 （平15.4）	
46	兼任	講師	ﾌｼﾞﾓﾄ　ｹﾝﾀﾛｳ 藤本 健太郎 ＜令和3年4月＞		博士 （文学）		英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後 1前 1後	2 2 2 2	2 2 2 2	桐蔭横浜大学 非常勤講師 （令3.4）	
47	兼任	講師	ﾐｷﾞﾀｶ　ｼﾞｭﾝｺ 右高　潤子 ＜平成24年4月＞		博士 （理学）		人の構造及び機能Ⅰ	1前	2	1	聖マリアンナ医科大学 講師 （平22.11）	

48	兼任	講師	ミツイ　ケンイチ 三井　健一 ＜平成15年4月＞		博士 (医学)		臨床医学総論Ⅱ	3後	2	1	東京大学 特任研究員 (平18年4月)	
49	兼任	講師	ヤナセ　スミノ 梁瀬　澄乃 ＜令和4年4月＞		博士 (医学)		医動物学	3前	2	1	大東文化大学 准教授 (平17.4)	
50	兼任	講師	オクハシ　ユウキ 奥橋　祐基 ＜令和4年9月＞		博士 (医学)		臨床血液学Ⅰ	1後	2	1	東京工科大学 助教 (平成26年4月)	
51	兼任	講師	スダ　カズヒト 須田　和人 ＜平成26年4月＞		修士 (体育学)		大学スポーツ論	1前	2	1	一般社団法人 菜の花AC 理事長 (令2.10)	
52	兼任	講師	スズキ　シンジ 鈴木　眞二 ＜令和4年4月＞		学士 (フランス文学)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	6 6	ファブリス株式会社 代表取締役 (平18.11)	
53	兼任	講師	カガミ　ナオコ 加賀美　直子 ＜令和4年4月＞		学士 (外国文化)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	2 2 1 1	自営業	
54	兼任	講師	ヒガシヤマ　シホ 東山　志帆 ＜令和4年4月＞		修士 (学術)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	6 6	湘南工科大学付属高等学校 講師 (令2.4)	
55	兼任	講師	スギシタ　アヤコ 杉下　文子 ＜令和4年4月＞		修士 (教育学)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	1 1	学校法人河合塾 英語科 (平成4.4)	
56	兼任	講師	ﾗﾐﾚｽﾞ ﾌﾗﾝｼﾝ ｸﾛｴ ＜令和4年4月＞		MA English and British Literature		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (令4.4)	
57	兼任	講師	ﾏｰｸｽ ｹﾋﾞﾝ ﾀﾞｸﾞﾗｽ ＜令和4年4月＞		Master of Arts in TESOL		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	7 7	San Diego State University, California English Teacher (平31.4-令3.12)	
58	兼任	講師	ﾃﾞｼｲﾝ ｼﾞｭﾘｰ ｳﾞｨｰ ﾏﾝｿﾝ ＜令和4年4月＞		Masters in Education with specialization in English Language		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	ISA English Teacher (平31.3)	
59	兼任	講師	ｽﾄｰｸｽ ｼﾞｪｰﾑｽﾞ ﾌﾞﾗｯﾄﾞﾘｰ ＜令和4年4月＞		Master of Arts (TESOL)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	東京モード学園 講師 (令3.3)	
60	兼任	講師	スズキ　ナギ 鈴木　凪 ＜令和4年4月＞		Master of Arts in Chemistry		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	フリーランス	
61	兼任	講師	ｱｰﾈｯﾄ ﾀﾞﾆｴﾙ ｼﾞｪｰﾑｽﾞ ＜令和4年4月＞		MA in Education		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	5 5	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (令4.4)	
62	兼任	講師	ｸﾞﾗｰﾙ ｸﾘｽﾄﾌｧｰ ﾏｲｹｰﾙ ＜令和4年4月＞		Masters degree in Applied language studies for TESOL		英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	2前 2後	2 2	1 1	Kanda Institute of Foreign Languages Instructor (平27.4)	

63	兼任	講師	ｶｰﾝ ﾌｧｲｱｰｽﾞ ＜令和4年4月＞		MSc SEM (Sport & Exercise Medicine) PGCert.(Anatomical Sciences)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	杏林大学 講師 (平27.4)	

（注）
1　教員の数に応じ，適宜枠を増やして記入すること。
2　私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合又は大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合は，この書類を作成する必要はない。
3　「申請に係る学部等に従事する週当たりの平均日数」の欄は，専任教員のみ記載すること。

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（スポーツ健康政策学部スポーツ教育学科(旧)）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
1	専	教授(学科長)	タニモト　ナオミ 谷本　直美 ＜平成21年4月＞		教育学修士		専門演習Ⅰ	3前	2	1	スポーツ健康政策学部教授(平21.4)	5日
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							学校体験実習（小学校）	2前	1	1		
							学校体験実習（中・高）	2前	1	1		
							学校インターンシップ実習	4前	1	1		
							音楽概論	2前・後	2	2		
							教科指導法（音楽）	3前・後	2	2		
							教育実習（初等）	4前	4	1		
							教育実習（中学校）	4前	4	1		
							教育実習（高校）	4前	2	1		
							事前・事後指導（初等）	4前	1	1		
							事前・事後指導（中・高）	4前	1	1		
							教職実践演習（初等を含む）	4前	2	1		
							音楽演習	3前	2	1		
							教職演習Ⅰ	2前	2	1		
							教職演習Ⅱ	3前	2	1		
							教職演習Ⅲ	3前	2	1		
2	専	教授	サトウ　ユタカ 佐藤　豊 ＜平成28年1月＞		教育学修士		専門演習Ⅰ	3前	2	1	スポーツ健康政策学部教授(平28.1)	5日
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							インターンシップ実習Ⅰ	1前	2	1		
							インターンシップ実習Ⅱ	1前	2	1		
							教師論（初等を含む）	1後	2	1		
							ICT活用スキルの理論と実際	3前	2	1		
							保健科教育法	2後	2	1		
							保健体育授業演習Ⅰ	2後	0.7	1		
							保健体育授業演習Ⅱ	3前	2	1		
							保健体育授業演習Ⅲ	3後	2	1		
3	専	教授	ミヤヅ　タイゾウ 宮津　大蔵 ＜平成21年4月＞		教育学士		専門演習Ⅰ	3前	2	1	スポーツ健康政策学部教授(平21.4)	5日
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							文学Ⅰ	1前	2	2		
							学科基礎セミナーⅠ	1前	1	1		
							学科基礎セミナーⅡ	1後	1	1		
							社会貢献論	1後	2	1		
							サービスラーニング実習Ⅰ	1前	2	1		
							サービスラーニング実習Ⅱ	1前	2	1		
							人文科学系教科総論	2前	2	1		
							国語概論（書写を含む）	3前	1	1		
							教科指導法（国語）	3後	1	1		
							文章表現論	3前	2	1		
4	専	教授	ナカノ　ヒデユキ 中野　英之 ＜平成31年4月＞		博士(地球環境科学)		専門演習Ⅰ	3前	2	1	スポーツ健康政策学部教授(平31.4)	5日
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							学科基礎セミナーⅠ	1前	1	1		
							学科基礎セミナーⅡ	1後	1	1		
							地球と環境	1後	2	1		
							科学とスポーツ	3後	2	1		
							自然科学系教科総論	2前	1	1		
							理科概論	3前	1	1		
							生活概論	3後	1	1		
							教科指導法（理科）	3前	1	1		
							教科指導法（生活）	3後	1	1		
							自然科学系教科総論	1後	2	1		
							自然科学	1後	2	1		

5	専	教授	オカダ　トシエ 岡田　俊恵 ＜平成17年4月＞		文学修士		言語文化論 表現とコミュニケーション 英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語Ⅲ 英語Ⅳ	1前 1後 1前 1後 2前 2後	2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 (平17.4)	5日
6	専	教授	ハヤシダ　ハルミ 林田　はるみ ＜平成30年4月＞		博士（スポーツ科学）		地域における健康課題 ダンス ダンス指導法・コーチング論 コミュニティ・ファシリテーション 地域政治論 地域観光事業論	1前 1前・後 3後 1後 2前 2前	2 1 2 2 2 2	1 2 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 (平30.4)	5日
7	専	教授	カメオカ　セイロウ 亀岡　聖朗 ＜平成31年4月＞		博士（心理学）		専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ 専門演習Ⅲ 専門演習Ⅳ 卒業研究 教育心理学（初等を含む） 教育相談・キャリア教育指導論（初等を含む）	3前 3後 4前 4後 4通 1前 2前	2 2 2 2 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 (平31.4)	5日
8	専	准教授	イグチ　ナリアキ 井口　成明 ＜平成30年4月＞		スポーツ科学修士		専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ 専門演習Ⅲ 専門演習Ⅳ 卒業研究 自然活動論Ⅰ（実習を含む） 学校保健・学校安全 保健体育授業演習Ⅰ 保健体育授業演習Ⅱ 保健体育授業演習Ⅲ 自然活動論Ⅱ（実習を含む） 「スポーツ人物史」の研究	3前 3後 4前 4後 4通 1前 3前 2後 3前 3後 2前 3前	2 2 2 2 4 2 2 0.7 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 准教授 (平30.4)	5日
9	専	准教授	シミズ　ユウ 清水　由 ＜令和3年4月＞		修士（体育学）		専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ 専門演習Ⅲ 専門演習Ⅳ 卒業研究 スポーツ開発・指導論Ⅱ（実習を含む） 小学体育Ⅱ 小学体育Ⅲ 教科指導法（体育） 体育科教育法	3前 3後 4前 4後 4通 3前 1後 2後 3前 2前	2 2 2 2 4 2 1 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 准教授 (令3.4)	5日
10	専	准教授	イ　ヒスン 李　禧承 ＜平成24年4月＞		博士（教育学）		専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ 専門演習Ⅲ 専門演習Ⅳ 卒業研究 韓国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ1 韓国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ2 韓国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ3 韓国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ4 教育学 教育方法論（初等を含む） ICT活用スキルの理論と実際	3前 3後 4前 4後 4通 1前 1後 2前 2後 1前 2前 3前	2 2 2 2 4 1 1 1 1 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 准教授 (平24.4)	5日
11	専	准教授	キムラ　カズヒロ 木村　和宏 ＜平成20年4月＞		修士（体育科学）		バスケットボール 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ 専門演習Ⅲ 専門演習Ⅳ 卒業研究 ゴール型球技指導法・コーチング論	1前・後 3前 3後 4前 4後 4通 3後	1 2 2 2 2 4 2	1 1 1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 准教授 (平20.4)	5日

12	専	講師	キハラ　ヨウイチ 木原　洋一 ＜平成20年4月＞		修士（体育学） 修士（教育学）		専門演習Ⅰ	3前	2	1	スポーツ健康政策学部 講師 （平20.4）	5日
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							小学体育Ⅰ	1前	1	1		
							スポーツ教育学	2前	2	1		
							身体表現教育論Ⅰ（実習を含む）	2後	2	1		
							身体表現教育論Ⅱ（実習を含む）	3前	2	1		
							スポーツ開発・指導論Ⅰ（実習を含む）	2後	2	1		
							保健体育授業演習Ⅰ	2後	0.7	1		
							保健体育授業演習Ⅱ	3前	2	1		
							保健体育授業演習Ⅲ	3後	2	1		
							幼児スポーツ論（実習を含む）	2後	2	1		
13	専	講師	ミネノ　コウスケ 峰野　宏祐 ＜令和4年4月＞		修士（教育学）		専門演習Ⅰ	3前	2	1	スポーツ健康政策学部 講師 （令4.4）	5日
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							数学概論Ⅰ	1前	2	1		
							数学概論Ⅱ	2前	2	1		
							自然科学系教科総論	2前	1	1		
							算数概論	3前	1	1		
							教科指導法（算数）	3前	1	1		
							身近な数学	3前	2	1		
14	兼担	教授（学部長）	ヨシタカ　ユキハル 吉鷹　幸春 ＜平成7年4月＞		体育学修士		柔道	1前・後	1	2	スポーツ健康政策学部 教授 （平7.4）	5日
							武道指導法・コーチング論	3前	2	1		
15	兼担	教授	ナリタ　タカヤ 成田　崇矢 ＜平成24年4月＞		博士（スポーツ科学）		機能解剖学Ⅰ	1前	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 （平24.4）	5日
16	兼担	教授	ハラ　チサコ 原　千砂子 ＜平成5年4月＞		法学修士		英語コミュニケーションⅠ	1前	2	1	法学部 教授 （平5.4）	5日
							英語コミュニケーションⅡ	1後	2	1		
17	兼担	教授	アベ　ケンジ 阿部　憲二 ＜平成14年9月＞		教育学博士		英語コミュニケーションⅠ	1前	2	3	法学部 教授 （平14.9）	5日
							英語コミュニケーションⅡ	1後	2	3		
							英語コミュニケーションⅤ	3前	2	1		
							英語コミュニケーションⅥ	3後	2	1		
18	兼担	教授	ヤタベ　レイオ 谷田部　玲生 ＜平成21年4月＞		教育学修士		社会科学系教科総論	2後	2	1	法学部 教授 （平21.4）	5日
							社会科概論	3前	1	1		
							教科指導法（社会）	3前	1	1		
19	兼担	教授	カワサキ　ケンゾウ 河崎　賢三 ＜平成16年4月＞		医学博士		発育発達老化論	1後	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 （平16.4）	5日
							スポーツ医学Ⅰ	2前	2	1		
20	兼担	教授	ヒビノ　ノブコ 日比野　暢子 ＜平成25年4月＞		博士（スポーツ政策学・スポーツマネジメント学）		障害者スポーツ論	2後	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 （平25.4）	5日
							国際コミュニケーション実習Ⅰ	1前	4	1		
							国際コミュニケーション実習Ⅱ	1前	4	1		
							国際コミュニケーション実習Ⅲ	1前	4	1		
							スポーツと政治	3後	2	1		
							スポーツ政策論	2前	2	1		
21	兼担	教授	ナミキ　コウイチ 並木　浩一 ＜平成24年4月＞		博士（学術）		視覚文化論	1前	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 （平24.4）	5日
							MAST特別実習	1前・後	1	2		
							MAST特別講義	1前・後	2	2		
							ウェブ・コミュニケーション	2前	2	1		
							ビジネスアイデアデザイン	2後	2	1		
							ファッション文化論	2前	2	1		
22	兼担	教授	カタヤマ　フミヨ 片山　富美代 ＜平成16年7月＞		博士（学術）		健康と心理学	1前	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 （平16.7）	5日
							集団と心理学	2前	1	1		
							幸せと心理学	2前	2	1		
							意思決定と心理学	2後	2	1		
							自己調整と心理学	2後	1	1		
							心理学	1前	2	1		
							身体の仕組みと働き	1後	2	1		
							ヘルスプロモーション論	2前	2	1		
							臨床心理学	3前	2	1		

23	兼担	教授	イケガミ　マサシ 池上　和志 ＜平成18年4月＞		博士 （理学）		地球環境の科学 科学技術の未来 プロジェクト入門	1前 1後 1後	0.7 2 2	1 1 1	医用工学部 教授 （平18.4）	5日
24	兼担	教授	ミヤサカ　ツトム 宮坂　力 ＜平成13年12月＞		工学博士		地球環境の科学	1前	0.7	1	医用工学部 教授 （平13.12）	5日
25	兼担	教授	カン　ネイ 韓　寧 ＜平成19年4月＞		博士 （法学）		中国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ1 中国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ2 中国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ3 中国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ4	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	法学部 教授 （平19.4）	5日
26	兼担	教授	マス　ノブオ 升　信夫 ＜平成9年4月＞		法学博士		持続可能な開発と法	1後	2	1	法学部 教授 （平9.4）	5日
27	兼担	教授	タケダ　ヨシコ 武田　佳子 ＜令和3年4月＞		修士 （教育学）		ソーシャル・コミュニケーション	1後	2	1	教育研究開発機構 教授 （令和3.4）	5日
28	兼担	教授	イマイズミ　タカユキ 今泉　隆之 ＜平成20年4月＞		修士 （文学）		宗教学概論 文学Ⅱ 身体と文化 スポーツ史 公務員演習Ⅰ(1)(2) 公務員演習Ⅱ(1)(2) 公務員演習Ⅲ(1)(2)	1後 1後 1前 1前 2後 3前 3後	2 2 2 2 4 4 4	1 1 1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 （平20.4）	5日
29	兼担	教授	ウエタ　トモコ 殖田　知子 ＜平成26年4月＞		修士 （経営学）		統計入門 栄養学	1後 2前	2 2	1 1	スポーツ健康政策学部 教授 （平26.4）	5日
30	兼担	教授	シブクラ　タカユキ 澁倉　崇行 ＜平成26年4月＞		博士 （心理学）		スポーツ心理学	2前	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 （平26.4）	5日
31	兼担	教授	ホシ　アキオ 星　秋夫 ＜平成20年4月＞		医学博士		衛生学・公衆衛生学	1後	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 （平20.4）	5日
32	兼担	教授	サクライ　トモノブ 櫻井　智野風 ＜平成26年4月＞		博士 （運動生理学）		トレーニング論（実習を含む）	1前	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 （平26.4）	5日
33	兼担	教授	カツマタ　ヒロフミ 勝亀　啓文 ＜平成17年4月＞		法学修士		法学	1前	2	1	法学部 教授 （平17.4）	5日
34	兼担	教授	デグチ　ユウイチ 出口　雄一 ＜平成16年4月＞		博士 （法学）		歴史学Ⅰ 歴史学Ⅱ	1前 1前	2 2	1 1	法学部 教授 （平16.4）	5日
35	兼担	准教授	ナガハマ　ヒロフミ 長濱　博文 ＜平成29年4月＞		博士 （教育学）		教育原理・教育課程論 （初等を含む）	2後	2	1	法学部 准教授 （平29.4）	5日
36	兼担	准教授	コヤマ　ケイジ 小山　桂二 ＜平成24年4月＞		博士 （スポーツ健康科学）		スポーツバイオメカニクス 陸上競技指導法・コーチング論	2後 3後	2 2	1 1	スポーツ健康政策学部 准教授 （平24.4）	5日
37	兼担	准教授	ヒロセ　タツロウ 廣瀬　立朗 ＜平成21年4月＞		博士 （学術）		陸上競技	1前・後	1	1	スポーツ健康政策学部 准教授 （平21.4）	5日
38	兼担	准教授	フクウラ　カズオ 福浦　一男 ＜平成29年4月＞		博士 （文学）		現代社会とスポーツ	1前	2	1	スポーツ健康政策学部 准教授 （平29.4）	5日
39	兼担	准教授	サトウ　クニマサ 佐藤　国正 ＜平成24年4月＞		修士 （体育科学）		学部キャリアセミナーⅠ 学部キャリアセミナーⅡ スポーツ哲学 バレーボール ネット型球技指導法・コーチング論	2後 3前 2後 1前・後 3前	2 2 2 1 2	1 1 1 2 1	スポーツ健康政策学部 准教授 （平24.4）	5日

40	兼担	准教授	ヒロカワ　ミツシ 廣川　充志 ＜平成18年4月＞		修士 （体育学）		柔道 運動処方論 武道指導法・コーチング論	1 前・後 1後 3前	1 2 2	2 1 1	スポーツ健康政策学部 准教授 （平18.4）	5日
41	兼担	准教授	タカセ　タケシ 髙瀬　武志 ＜平成26年4月＞		体育学修士		桐蔭キャリアゲート 剣道 武道指導法・コーチング論 体育実技Ⅰ 体育実技Ⅱ アスリートの科学 アスリートキャリア アスリート・クロス リーダーシップ教育 ライフスキル	1前 1前 3前 1前 1後 1前 1後 2前 2前 2後	2 2 2 1 1 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	法学部 准教授 （平26.4）	5日
42	兼担	准教授	クリヤマ　ユタカ 栗山　裕 ＜平成3年4月＞		学術博士		デジタル産業論 情報リテラシーⅠ（情報機器の操作）	1前 1前	2 2	1 1	スポーツ健康政策学部 教授 （平3.4）	5日
43	兼担	准教授	サイトウ　レイ 齋藤　れい ＜平成31年4月＞		博士（スポーツ科学）		ビジネスの科学 スポーツ施設・用具論 スポーツマーケティング論 マーケティング各論 アントレプレナーシップ プロジェクト入門 マーケティング・リサーチ 現代ビジネス論 分野横断型プロジェクト	1前 1後 2前 1後 1前 1後 2前 2後 2後	2 2 2 2 2 2 2 2 3	2 1 1 1 1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 准教授 （平31.4）	5日
44	兼担	准教授	ウエハタ　ヨウスケ 上畠　洋佑 ＜令和3年4月＞		修士（教育学）		異文化の科学 プロジェクト入門 異文化リサーチ フード文化論 若者文化論 分野横断型プロジェクト ことばのスキル	1前 1後 2前 2後 2後 2後 1後	2 2 2 2 2 3 2	1 1 1 1 1 1 1	教育研究開発機構 准教授 （令和3.4）	5日
45	兼担	講師	ミゾグチ　ユウ 溝口　侑 ＜令和3年4月＞		修士（教育学）		桐蔭スキルゲート データコミュニケーション入門 心の科学 こころの世界 青年と心理学 集団と心理学 意思決定と心理学 自己調整と心理学 プロジェクト入門 分野横断型プロジェクト	1前 1後 1前 1前 1・2後 2前 2後 2後 1後 2後	2 2 2 2 2 1 2 1 2 3	1 1 2 1 1 1 1 1 1 1	教育研究開発機構 講師 （令和3.4）	5日
46	兼担	講師	マツイ　シンサク 松井　晋作 ＜令和3年4月＞		修士（文学）		桐蔭キャリアゲート 地域の科学 サステナブル社会学 プロジェクト入門 横浜地域学 実践地域創成学 分野横断型プロジェクト	1前 1前 1後 1後 2後 2後 2後	2 2 2 2 2 3	1 2 1 1 1 1 1	教育研究開発機構 講師 （令和3.4）	5日
47	兼担	講師	シバヤマ　ナオユキ 柴山　直之 ＜令和3年4月＞		博士（工学）		地球環境の科学 分野横断型プロジェクト	1前 2後	0.7 3	1 1	医用工学部 講師 （令和3.4）	5日
48	兼担	講師	オヤマ　ユウスケ 尾山　裕介 ＜平成30年4月＞		博士（学術）		高齢者活動支援論（実習を含む）	3後	2	1	スポーツ健康政策学部 講師 （平30.4）	5日
49	兼担	講師	オカモト　ダイ 岡本　大 ＜平成20年4月＞		修士（武道・スポーツ）		ハンドボール ゴール型球技指導法・コーチング論	2前・後 3後	1 2	1 1	スポーツ健康政策学部 講師 （平20.4）	5日
50	兼担	講師	オガサワラ　カズアキ 小笠原　一彰 ＜平成7年4月＞		修士（教育学）		水泳 水泳指導法・コーチング論 コーチング学	1 前・後 3後 3後	1 2 2	1 1 1	スポーツ健康政策学部 講師 （平7.4）	5日

51	兼担	助教	アサオカ　ケイタ 浅岡　慶太 ＜平成13年4月＞		修士 （法学）		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅦ 英語コミュニケーションⅧ	1前 1後 4前 4後	2 2 2 2	1 1 2 2	法学部 助教 （平13.4）	5日
52	兼担	助教	オオツジ　コウタ 大辻　康太 ＜平成31年4月＞		修士 （教育学）		体育実技Ⅰ 体育実技Ⅱ	1前 1後	1 1	1 1	法学部 助教 （平31.4）	5日
53	兼任	客員教授	オオイシ　ススム 大石　進 ＜令和2年4月＞		体育学士		運動部活動論	2前	2	1	スポーツ健康政策学部 客員教授 （令2.4）	
54	兼任	客員教授	ﾖｼﾊﾗ　ｼｮｳｺ 吉原　晶子 ＜平成29年4月＞		学士 （教育学）		特別活動・総合的な学習の時間指導法（初等を含む）	3前	2	1	桐蔭横浜大学 客員教授 （平29.4）	
55	兼任	講師	スダ　カズヒト 須田　和人 ＜平成26年4月＞		修士 （体育学）		大学スポーツ論	1前	2	1	一般社団法人 菜の花AC 理事長 （令2.10）	
56	兼任	講師	フジモト　ケンタロウ 藤本　健太朗 ＜令和3年4月＞		博士 （文学）		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	桐蔭横浜大学 非常勤講師 （令3.4）	
57	兼任	講師	スズキ　シンジ 鈴木　眞二 ＜令和4年4月＞		学士 （フランス文学）		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	6 6	ファブリス株式会社 代表取締役 （平18.11）	
58	兼任	講師	カガミ　ナオコ 加賀美　直子 ＜令和4年4月＞		学士 （外国文化）		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	2 2 1 1	自営業	
59	兼任	講師	ヒガシヤマ　シホ 東山　志帆 ＜令和4年4月＞		修士 （学術）		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	6 6	湘南工科大学付属高等学校 講師 （令2.4）	
60	兼任	講師	スギシタ　アヤコ 杉下　文子 ＜令和4年4月＞		修士 （教育学）		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	1 1	学校法人河合塾 英語科 （平成4.4）	
61	兼任	講師	ﾗﾐﾚｽﾞ ﾌﾗﾝｼｼﾝ ｸﾛｴ ＜令和4年4月＞		MA English and British Literature		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	桐蔭横浜大学 非常勤講師 （令4.4）	
62	兼任	講師	ﾏｰｸｽ ｹﾋﾞﾝ ﾀﾞｸﾞﾗｽ ＜令和4年4月＞		Master of Arts in TESOL		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	7 7	San Diego State University, California English Teacher （平31.4-令3.12）	
63	兼任	講師	ﾃﾞｼｲﾝ ｼﾞｭﾘｰ ｳﾞｨｰ ﾏﾝｿﾝ ＜令和4年4月＞		Masters in Education with specialization in English Language		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	ISA English Teacher （平31.3）	
64	兼任	講師	ｽﾄｰｸｽ ｼﾞｴｰﾑｽﾞ ﾌﾞﾗｳﾄﾞﾘｰ ＜令和4年4月＞		Master of Arts (TESOL)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	東京モード学園 講師 （令3.3）	
65	兼任	講師	スズキ　ナギ 鈴木　凪 ＜令和4年4月＞		Master of Arts in Chemistry		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	フリーランス	
66	兼任	講師	ｱｰﾈｯﾄ ﾀﾞﾆｴﾙ ｼﾞｪｰﾑｽﾞ ＜令和4年4月＞		MA in Education		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	5 5	桐蔭横浜大学 非常勤講師 （令4.4）	
67	兼任	講師	ｸﾞﾗｰﾙ ｸﾘｽﾄﾌｧｰ ﾏｲｹｰﾙ ＜令和4年4月＞		Masters degree in Applied language studies for TESOL		英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	2前 2後	2 2	1 1	Kanda Institute of Foreign Languages Instructor （平27.4）	

68	兼任	講師	ｶｰﾝ ﾌｧｲｱｰｽﾞ ＜令和4年4月＞		MSc SEM (Sport & Exercise Medicine) PGCert.(Anatomical Sciences)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	杏林大学 講師 (平27.4)	
69	兼任	講師	タカダ　ハルノリ 高田　明宣 ＜平成26年4月＞		博士 (学術)		倫理学Ⅰ 倫理学Ⅱ 哲学Ⅰ 哲学Ⅱ	1前 1後 1前 1後	2 2 2 2	1 1 1 1	TAC(株)公務員 試験講座 講師 (平20.10)	
70	兼任	講師	ヤマグチ　アキコ 山口　晶子 ＜平成30年4月＞		修士 (教育学)		社会学 教育社会論（初等および学校安全を含む）	1前 2後	2 2	1 1	東京学芸大学 共同研究員 (平27.7)	
71	兼任	講師	アスマ　カズタカ 飛鳥馬　一峰 ＜令和3年4月＞		博士 (史学)		西洋史概論	1前	2	1	中央大学人文科学研究所客員研究員 (平31.4) 東洋大学人間科学研究所　客員研究員（平26.4）	
72	兼任	講師	タナカ　ヒロシ 田中　比呂志 ＜平成29年4月＞		博士 (社会学)		東洋史概論	1後	2	1	東京学芸大学 教授 (平21.4)	
73	兼任	講師	カミタ　セイジ 上田　誠二 ＜平成30年4月＞		博士 (史学)		日本史概論	1後	2	1	日本女子大学 准教授 (令2.4)	
74	兼任	講師	カワゾエ　ワタル 川添　航 ＜令和2年4月＞		博士 (理学)		地理学概論	1後	2	1	立正大学 助教 (令4.4)	
75	兼任	講師	キシ 岸　エヴェリン ＜令和3年4月＞		博士 (人文学)		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ ドイツ語Ⅲ ドイツ語Ⅳ	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (令3.4)	
76	兼任	講師	シロイシ　アツコ 城石　敦子 ＜平成27年4月＞		修士 (ﾌﾗﾝｽ文学)		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ フランス語Ⅲ フランス語Ⅳ	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	日本女子大学附属高等学校 非常勤講師 (平26.4)	
77	兼任	講師	サトウ　ヤスヒデ 佐藤　康秀 ＜平成27年4月＞		音声学 修士		日本語ⅠA 日本語ⅡA 日本語ⅢA	1前 1前 1後	2 2 2	1 1 1	神田日本語教育アカデミー 主任講師 (平15.4)	
78	兼任	講師	イワツキ　エミコ 岩附　英美子 ＜平成27年4月＞		経済 学士		日本語ⅠB 日本語ⅡB 日本語ⅢB	1前 1前 1後	2 2 2	1 1 1	神田日本語教育アカデミー 代表取締役 (平15.4)	
79	兼任	講師	オキタ　ユウゾウ 沖田　祐蔵 ＜令和4年4月＞		修士 (体育学)		ボディーワークⅠ ボディーワークⅡ （体操：体つくり運動、集団行動）	1 前・後 1前	1 1	2 2	日本Gボール協会 (平22.4)	
80	兼任	講師	ワタヌキ　ヨシノリ 綿貫　慶徳 ＜令和3年4月＞		博士 (体育科学)		生涯スポーツ論	1後	2	1	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (令3.4)	
81	兼任	講師	ゴトウ　ヨウイチ 後藤　洋一 ＜平成20年4月＞		体育学 修士		器械運動 [illegible]	1前・後 3後	1 2	4 1	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (平20.4)	
82	兼任	講師	ヤハギ　ノブユキ 矢作　信行 ＜平成29年4月＞		修士 (学術)		道徳教育指導論（初等を含む）	2後	2	1	帝京平成大学 教授 (令2.4)	
83	兼任	講師	マエダ　ヨシヒト 前田　善仁 ＜平成30年4月＞		修士 (教育学)		児童生徒指導論	2前	2	1	東海大学 教授 (平26.4)	
84	兼任	講師	イケダ　アツコ 池田　敦子 ＜令和3年4月＞		修士 (教育学)		特別支援教育指導論（初等を含む）	2後	2	1	東海学院大学 教授 (令2.4)	

85	兼任	講師	オオツキ　シゲヒサ 大槻　茂久 ＜平成25年4月＞		修士 (体育学)		サッカー	2前・後	1	3	日本体育大学 サッカー部監督 (令3.4)	
86	兼任	講師	ヨネチ　トオル 米地　徹 ＜平成26年4月＞		修士 (体育学)		ラグビー	2前	1	1	日本体育大学 教授 (平26.4)	
87	兼任	講師	カナモリ　ジュン 金森　純 ＜平成29年4月＞		修士 (体育学)		ソフトボール・野球 ベースボール型球技指導法・コーチング論	2前 3前	1 2	2 1	神奈川工科大学 非常勤講師 (平23.4)	
88	兼任	講師	イソベ　カオル 磯辺　薫 ＜令和2年4月＞		修士 (体育学)		テニス	2 前・後	1	2	フリーランス	
89	兼任	講師	フルカワ　アキヤ 古川　暁也 ＜平成22年4月＞		体育学 修士		バドミントン	2 前・後	1	3	日本体育大学 教授 (平18.4)	
90	兼任	講師	マスダ　ケイコ 増田　敬子 ＜平成22年4月＞		学士 (体育学)		体つくり運動指導法	3後	2	1	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (平22.4)	
91	兼任	講師	ナダチ　ヒデアキ 名達　英詔 ＜令和5年4月＞		修士 (芸術学)		図画工作概論 教科指導法（図画工作）	3前 3前	1 1	1 1	十文字学園女子大学 教授 (平29.4)	
92	兼任	講師	スズキ　マユミ 鈴木　真優美 ＜令和5年4月＞		学士 (教育学)		家庭概論 教科指導法（家庭）	3後 3後	1 1	1 1	川崎市立東橘中学校 非常勤講師 (平30.4)	
93	兼任	講師	オクムラ　コウイチ 奥村　耕一 ＜令和5年4月＞		修士 (教育学)		人文科学系教科総論 外国語概論 教科指導法（外国語）	2前 3前 3後	1 1 2	1 1 1	情報経営イノベーション専門職大学 講師 (令2.4)	

（注）
1　教員の数に応じ，適宜枠を増やして記入すること。
2　私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合又は大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合は，この書類を作成する必要はない。
3　「申請に係る学部等に従事する週当たりの平均日数」の欄は，専任教員のみ記載すること。

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（医用工学部臨床工学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
1	専	教授	サノ　モトアキ 佐野　元昭 ＜平成11年4月＞		理学博士		力学	2前	2	1	医用工学部教授 (平11.4)	5日
							電磁気学	2後	2	1		
							インターンシップ	3前	1	1		
							コンピュータリテラシ	1前	2	1		
							フレッシュマンセミナⅠ	1前	2	1		
							フレッシュマンセミナⅡ	1後	2	1		
							工学ワークショップⅠ	1前	4	1		
							工学ワークショップⅡ	1後	4	1		
							医用情報処理入門	1後	2	1		
							プロジェクト研究Ⅰ	1前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅱ	1後	2	1		
							システム工学	2前	2	1		
							基礎工学実験	2前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅲ	2前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅳ	2後	2	1		
							プロジェクト研究Ⅴ	3前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅵ	3後	2	1		
							医用工学セミナⅠ	3通	2	1		
							医用工学実験Ⅱ	3前	2	1		
							医用工学セミナⅡ	3通	2	1		
							医用工学専門実験	3通	2	1		
							医用工学総論Ⅰ	4通	2	1		
							医用工学総論Ⅱ	4通	2	1		
							臨床実習	4前	4	1		
							卒業研究	4通	8	1		
2	専	教授 (学科長)	サトウ　トシオ 佐藤　敏夫 ＜平成9年12月＞		博士(医学) 博士(工学)		インターンシップ	3前	1	1	医用工学部教授 (平9.12)	5日
							プロジェクト研究Ⅰ	1前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅱ	1後	2	1		
							医用機械工学	2前	2	1		
							基礎医学実習	2後	2	1		
							プロジェクト研究Ⅲ	2前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅳ	2後	2	1		
							生体計測装置学	2後	2	1		
							医用機器安全管理学	2後	2	1		
							医用工学実験Ⅰ	2後	2	1		
							プロジェクト研究Ⅴ	3前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅵ	3後	2	1		
							医用治療機器工学	3前	2	1		
							医用工学セミナⅠ	3通	2	1		
							医用工学実験Ⅱ	3前	2	1		
							医用工学セミナⅡ	3通	2	1		
							医用工学専門実験	3通	2	1		
							関係法規	3後	1	1		
							医用工学総論Ⅰ	4通	2	1		
							医用工学総論Ⅱ	4通	2	1		
							臨床実習	4前	4	1		
							卒業研究	4通	8	1		
3	専	教授	モリシタ　タケシ 森下　武志 ＜平成20年4月＞		博士(工学)		インターンシップ	3前	1	1	医用工学部教授 (平20.4)	5日
							工学へのステップ	1前	2	1		
							工学ワークショップⅠ	1前	4	1		
							工学ワークショップⅡ	1後	4	1		
							医用電磁気学	1後	2	1		
							プロジェクト研究Ⅰ	1前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅱ	1後	2	1		
							電気工学	2前	2	1		
							基礎工学実験	2前	2	1		
							電子工学	2前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅲ	2前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅳ	2後	2	1		
							福祉工学	3後	2	1		
							プロジェクト研究Ⅴ	3前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅵ	3後	2	1		
							医用工学セミナⅠ	3通	2	1		
							医用工学セミナⅡ	3通	2	1		
							医用工学専門実験	3通	2	1		
							医用工学総論Ⅰ	4通	2	1		
							医用工学総論Ⅱ	4通	2	1		
							臨床実習	4前	4	1		
							卒業研究	4通	8	1		

4	専	教授	イケガミ　マサシ 池上　和志 ＜平成18年4月＞		博士 （理学）		数学Ⅰ	1前	2	1	医用工学部 教授 （平18.4）	5日
							数学Ⅱ	1後	2	1		
							微分積分学Ⅰ	2前	2	1		
							微分積分学Ⅱ	2後	2	1		
							インターンシップ	3前	1	1		
							基礎化学	1前	2	1		
							工学ワークショップⅠ	1前	4	1		
							工学ワークショップⅡ	1後	4	1		
							材料工学	1後	2	1		
							プロジェクト研究Ⅰ	1前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅱ	1後	2	1		
							医用レーザ工学	1後	2	1		
							基礎医学実習	2後	2	1		
							基礎工学実験	2前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅲ	2前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅳ	2後	2	1		
							プロジェクト研究Ⅴ	3前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅵ	3後	2	1		
							医用工学セミナⅠ	3通	2	1		
							システム安全工学	3後	2	1		
							医用工学セミナⅡ	3通	2	1		
							医用工学専門実験	3通	2	1		
							医用工学総論Ⅰ	4通	2	1		
							医用工学総論Ⅱ	4通	2	1		
							臨床実習	4前	4	1		
							地球環境の科学	1前	0.7	1		
							科学技術の未来	1後	2	1		
							プロジェクト入門	1後	2	1		
5	専	教授	ミヤサカ　ツトム 宮坂　力 ＜平成13年4月＞		工学博士		地球環境の科学	1前	0.7	1	医用工学部 教授 （平13.12）	5日
6	専	准教授	ミナミ　ジュンコ 南　順子 ＜令和3年4月＞		博士 （医学）		インターンシップ	3前	1	1	医用工学部 准教授 （令3.4）	5日
							プロジェクト研究Ⅰ	1前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅱ	1後	2	1		
							臨床生理学	2後	2	1		
							臨床医学総論Ⅰ	3前	2	1		
							臨床医学総論Ⅱ	3後	2	1		
							人の構造及び機能	1後	2	1		
							基礎医学実習	2後	2	1		
							プロジェクト研究Ⅲ	2前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅳ	2後	2	1		
							医用工学実験Ⅰ	2後	2	1		
							病理学概論	3前	2	1		
							人間生物学	2前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅴ	3前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅵ	3後	2	1		
							医用工学セミナⅠ	3通	2	1		
							医用工学実験Ⅱ	3前	2	1		
							医用工学セミナⅡ	3通	2	1		
							医用工学専門実験	3通	2	1		
							医用工学総論Ⅰ	4通	2	1		
							医用工学総論Ⅱ	4通	2	1		
							臨床実習	4前	4	1		
							卒業研究	4通	8	1		
7	専	講師	イシカワ　ムツオ 石河　睦生 ＜平成23年4月＞		博士 （工学）		数学Ⅰ	1前	2	1	医用工学部 講師 （平23.4）	5日
							数学Ⅱ	1後	2	1		
							物理Ⅰ	1前	2	1		
							物理Ⅱ	1後	2	1		
							微分積分学Ⅰ	2前	2	1		
							微分積分学Ⅱ	2後	2	1		
							インターンシップ	3前	1	1		
							工学ワークショップⅠ	1前	4	1		
							工学ワークショップⅡ	1後	4	1		
							プロジェクト研究Ⅰ	1前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅱ	1後	2	1		
							基礎医学実習	2後	2	1		
							基礎工学実験	2前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅲ	2前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅳ	2後	2	1		
							医用超音波工学	3前	2	1		
							人間工学	3後	2	1		
							プロジェクト研究Ⅴ	3前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅵ	3後	2	1		
							医用工学セミナⅠ	3通	2	1		
							医用工学セミナⅡ	3通	2	1		
							医用工学専門実験	3通	2	1		
							医用工学総論Ⅰ	4通	2	1		
							医用工学総論Ⅱ	4通	2	1		
							臨床実習	4前	4	1		
							卒業研究	4通	8	1		

8	専	講師	モトハシ　ユカ 本橋　由香 ＜平成21年4月＞		博士 （工 学）		インターンシップ	3前	1	1	医用工学部 講師 （平21.4）	5日
							医用工学概論	1前	2	1		
							応用数学	1後	2	1		
							プロジェクト研究Ⅰ	1前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅱ	1後	2	1		
							基礎医学実習	2後	2	1		
							計測工学	2前	2	1		
							生体物性工学	2後	2	1		
							プロジェクト研究Ⅲ	2前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅳ	2後	2	1		
							医用工学実験Ⅰ	2後	2	1		
							プロジェクト研究Ⅴ	3前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅵ	3後	2	1		
							医用工学セミナⅠ	3通	2	1		
							医用工学実験Ⅱ	3前	2	1		
							医用工学セミナⅡ	3通	2	1		
							医用工学専門実験	3通	2	1		
							医用工学総論Ⅰ	4通	2	1		
							医用工学総論Ⅱ	4通	2	1		
							臨床実習	4前	4	1		
							卒業研究	4通	8	1		
9	専	講師	ヤマウチ　シノブ 山内　忍 ＜平成24年4月＞		博士 （工 学）		キャリア研究Ⅰ	3前	2	1	医用工学部 准教授 （平24.4）	5日
							キャリア研究Ⅱ	3後	2	1		
							インターンシップ	3前	1	1		
							プロジェクト研究Ⅰ	1前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅱ	1後	2	1		
							基礎医学実習	2後	2	1		
							臨床生化学	2後	2	1		
							プロジェクト研究Ⅲ	2前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅳ	2後	2	1		
							医用工学実験Ⅰ	2後	2	1		
							プロジェクト研究Ⅴ	3前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅵ	3後	2	1		
							生体機能代行装置学Ⅱ	3前	2	1		
							医用工学セミナⅠ	3通	2	1		
							医用工学実験Ⅱ	3前	2	1		
							医用工学セミナⅡ	3通	2	1		
							医用工学専門実験	3通	2	1		
							医用工学総論Ⅰ	4通	2	1		
							医用工学総論Ⅱ	4通	2	1		
							臨床実習	4前	4	1		
							卒業研究	4通	8	1		
10	専	講師	オク　トモコ 奥　知子 ＜平成30年4月＞		修士 （工 学）		健康の科学	1前	2	1	医用工学部 講師 （平30.4）	5日
							インターンシップ	3前	1	1		
							医学概論	1前	1	1		
							公衆衛生学	1前	1	1		
							放射線工学概論	2前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅰ	1前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅱ	1後	2	1		
							生体機能代行装置学Ⅰ	2後	2	1		
							基礎医学実習	2後	2	1		
							プロジェクト研究Ⅲ	2前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅳ	2後	2	1		
							医用工学実験Ⅰ	2後	2	1		
							プロジェクト研究Ⅴ	3前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅵ	3後	2	1		
							医用工学セミナⅠ	3通	2	1		
							医用工学実験Ⅱ	3前	2	1		
							医用工学セミナⅡ	3通	2	1		
							医用工学専門実験	3通	2	1		
							医用工学総論Ⅰ	4通	2	1		
							医用工学総論Ⅱ	4通	2	1		
							臨床実習	4前	4	1		
							卒業研究	4通	8	1		
11	専	講師	シバヤマ　ナオユキ 柴山　直之 ＜令和3年4月＞		博士 （工 学）		物理Ⅰ	1前	2	1	医用工学部 講師 （令3.4）	5日
							物理Ⅱ	1後	2	1		
							インターンシップ	3前	1	1		
							工学ワークショップⅠ	1前	4	1		
							プロジェクト研究Ⅰ	1前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅱ	1後	2	1		
							基礎工学実験	2前	2	1		
							電子回路学	1後	2	1		
							プロジェクト研究Ⅲ	2前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅳ	2後	2	1		
							プロジェクト研究Ⅴ	3前	2	1		
							プロジェクト研究Ⅵ	3後	2	1		
							医用工学セミナⅠ	3通	2	1		
							医用工学セミナⅡ	3通	2	1		
							医用工学専門実験	3通	2	1		
							医用工学総論Ⅰ	4通	2	1		
							医用工学総論Ⅱ	4通	2	1		
							臨床実習	4前	4	1		
							卒業研究	4通	8	1		
							地球環境の科学	1前	0.7	1		
							分野横断型プロジェクト	2後	3	1		

12	兼担	教授	コデラ　ヨウ 小寺　洋 ＜昭和63年4月＞		理学博士		工学ワークショップⅡ	1後	4	1	医用工学部 教授 (昭63.4)	5日
13	兼担	教授	ヨシダ　カオル 吉田　薫 ＜平成16年6月＞		博士 (理 学)		基礎医学実習 臨床免疫学	2後 3前	2 2	1 1	医用工学部 教授 (平16.6)	5日
14	兼担	教授	ニシムラ　ヒロユキ 西村　裕之 ＜平成6年4月＞		理学博 士		基礎医学実習	2後	2	1	医用工学部 教授 (平6.4)	5日
15	兼担	教授	ハラ　チサコ 原　千砂子 ＜平成5年4月＞		法学修 士		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	1 1	法学部 教授 (平5.4)	5日
16	兼担	教授	アベ　ケンジ 阿部　憲二 ＜平成14年9月＞		教育学 博士		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	3 3	法学部 教授 (平14.9)	5日
17	兼担	教授	ナカノ　ヒデユキ 中野　英之 ＜平成31年4月＞		博士 (地球 環境科 学)		地球と環境	1後	2	1	スポーツ健康政 策学部 教授 平31.4	5日
18	兼担	教授	オカダ　トシエ 岡田　俊恵 ＜平成17年4月＞		文学修 士		言語文化論 表現とコミュニケーション	1前 1後	2 2	1 1	スポーツ健康政 策学部 教授 平17.4	
19	兼担	教授	マス　ノブオ 升　信夫 ＜平成9年4月＞		法学博 士		持続可能な開発と法	1後	2	1	法学部 教授 (平9.4)	
20	兼担	教授	タケダ　ヨシコ 武田　佳子 ＜令和3年4月＞		修士 (教育 学)		ソーシャル・コミュニケーション	1後	2	1	教育研究開発機 構 教授 (令和3.4)	5日
21	兼担	教授	ナミキ　コウイチ 並木　浩一 ＜平成24年4月＞		博士 (学 術)		視覚文化論 MAST特別実習 MAST特別講義 ウェブ・コミュニケーション ビジネスアイデアデザイン ファッション文化論	1前 1前・ 後 1前・ 後 2前 2後 2前	2 1 2 2 2 2	1 2 2 1 1 1	スポーツ健康政 策学部 教授 (平24.4)	5日
22	兼担	教授	カタヤマ　フミヨ 片山　富美代 ＜平成16年7月＞		博士 (学 術)		健康と心理学 集団と心理学 幸せと心理学 意思決定と心理学 自己調整と心理学 臨床心理学	1前 2前 2前 2後 2後 3後	2 1 2 2 1 2	1 1 1 1 1 1	スポーツ健康政 策学部 教授 (平16.7)	5日
23	兼担	教授	ハヤシダ　ハルミ 林田　はるみ ＜平成30年4月＞		博士 (ス ポーツ 科学)		地域における健康課題 コミュニティ・ファシリテーション 地域政治論 地域観光事業論	1前 1後 2前 2前	2 2 2 2	1 1 1 1	スポーツ健康政 策学部 教授 (平30.4)	5日
24	兼担	准教授	タカセ　タケシ 髙瀬　武志 ＜平成27年4月＞		体育学 修士		桐蔭キャリアゲート 体育実技Ⅰ 体育実技Ⅱ アスリートの科学 アスリートキャリア アスリート・クロス リーダーシップ教育 ライフスキル	1前 1前 1後 1前 1後 2前 2前 2後	2 1 1 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	法学部 准教授 (平27.4)	5日
25	兼担	准教授	サイトウ　レイ 齋藤　れい ＜平成31年4月＞		博士 (ス ポーツ 科学)		ビジネスの科学 マーケティング各論 アントレプレナーシップ プロジェクト入門 マーケティング・リサーチ 現代ビジネス論 分野横断型プロジェクト	1前 1後 1前 1後 2前 2後 2後	2 2 2 2 2 2 3	2 1 1 1 1 1 1	スポーツ健康政 策学部 准教授 (平31.4)	5日

26	兼担	准教授	ウエハタ　ヨウスケ 上畠　洋佑 ＜令和3年4月＞		修士 (教育学)		異文化の科学 プロジェクト入門 異文化リサーチ フード文化論 若者文化論 分野横断型プロジェクト ことばのスキル	1前 1後 2前 2後 2後 2後 1後	2 2 2 2 2 3 2	1 1 1 1 1 1 1	教育研究開発機構 准教授 (令和3.4)	5日
27	兼担	准教授	クリヤマ　ユタカ 栗山　裕 ＜令和5年4月＞		学術博士		デジタル産業論	1後	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 (平3.4)	5日
28	兼担	講師	サワグチ　ヨシカズ 澤口　能一 ＜平成30年4月＞		博士 (薬学)		臨床薬理学	3後	2	1	医用工学部 講師 (平30.4)	5日
29	兼担	講師	ヤマグチ　トモコ 山口　智子 ＜令和4年4月＞		博士 (理工学)		工学ワークショップⅡ	1後	4	1	医用工学部 講師 (令4.4)	5日
30	兼担	講師	ミゾグチ　ユウ 溝口　侑 ＜令和3年4月＞		修士 (教育学)		桐蔭スキルゲート データコミュニケーション入門 心の科学 こころの世界 青年と心理学 集団と心理学 意思決定と心理学 自己調整と心理学 プロジェクト入門 分野横断型プロジェクト	1前 1後 1前 1前 1・2後 2前 2後 2後 1後 2後	2 2 2 2 2 1 2 1 2 3	1 1 2 1 1 1 1 1 1 1	教育研究開発機構 講師 (令和3.4)	5日
31	兼担	講師	マツイ　シンサク 松井　晋作 ＜令和3年4月＞		修士 (文学)		桐蔭キャリアゲート 地域の科学 サステナブル社会学 プロジェクト入門 横浜地域学 実践地域創成学 分野横断型プロジェクト	1前 1前 1後 1後 2後 2後 2後	2 2 2 2 2 2 3	1 2 1 1 1 1 1	教育研究開発機構 講師 (令和3.4)	5日
32	兼担	助教	アサオカ　ケイタ 浅岡　慶太 ＜平成13年4月＞		修士 (法学)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	1 1	法学部 助教 (平13.4)	5日
33	兼担	助教	オオツジ　コウタ 大辻　康太 ＜平成31年4月＞		修士 (教育学)		体育実技Ⅰ 体育実技Ⅱ	1前 1後	1 1	1 1	法学部 助教 (平31.4)	5日
34	兼任	講師	エリザベス　オノデラ ＜平成19年4月＞		Bachelor of Science Bachelor of Arts		英語Ⅲ 英語Ⅳ	2前 2後	2 2	1 1	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (平19.4)	
35	兼任	講師	イトウ　テツロウ 伊藤　徹郎 ＜平成27年4月＞		学士 (工学)		医用工学セミナⅠ 医用工学セミナⅡ 医用工学専門実験	3通 3通 3通	2 2 2	1 1 1	済生会 横浜市東部病院 臨床工学技士 (平19.4)	
36	兼任	講師	イワツキ　エミコ 岩附　英美子 ＜平成27年4月＞		経済学士		日本語ⅠB 日本語ⅡB 日本語ⅢB	1前 1前 1後	2 2 2	1 1 1	神田日本語教育アカデミー 代表取締役 (平15.4)	
37	兼任	講師	オカモト　ヒロミ 岡本　裕美 ＜令和2年4月＞		専門学校卒		生体機能代行装置学Ⅲ	3後	2	1	東邦大学医療センター大橋病院 (平14.10)	
38	兼任	講師	カネオカ　ブンジ 金岡　文志 ＜平成23年4月＞		学士 (医学)		臨床医学総論Ⅲ	4前	2	1	ベルファミリークリニック 院長 (平26.3)	
39	兼任	講師	ササキ　マイコ 佐々木　舞子 ＜平成30年4月＞		学士 (社会福祉学)		看護学概論	2後	2	1	昭和大学藤が丘病院 (平23.4)	

40	兼任	講師	サトウ　ヤスヒデ 佐藤　康秀 ＜平成27年4月＞		音声学 修士		日本語ⅠA 日本語ⅡA 日本語ⅢA	1前 1前 1後	2 2 2	1 1 1	神田日本語教育アカデミー 主任講師 (平15.4)	
41	兼任	講師	サノ　エリカ 佐野　恵里佳 ＜平成31年4月＞		学士 (臨床工学)		医用工学セミナⅠ 医用工学セミナⅡ 医用工学専門実験	3通 3通 3通	2 2 2	1 1 1	済生会 横浜市東部病院 (平27.4)	
42	兼任	講師	サトウ　ユリ 佐藤　友理 ＜平成28年4月＞		修士 (医療科学)		医用工学セミナⅠ 医用工学セミナⅡ 医用工学専門実験	3通 3通 3通	2 2 2	1 1 1	済生会 横浜市東部病院 臨床工部　勤務 (平24.4)	
43	兼任	講師	ﾌｼﾞﾓﾄ　ｹﾝﾀﾛｳ 藤本 健太郎 ＜令和3年4月＞		博士 (文学)		英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後 1前 1後	2 2 2 2	2 2 2 2	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (令3.4)	
44	兼任	講師	ベッショ　イクオ 別所　郁夫 ＜令和2年4月＞		専門学校卒		生体機能代行装置学Ⅲ	3後	2	1	東邦大学医療センター大橋病院 (平2.4)	
45	兼任	講師	スダ　カズヒト 須田　和人 ＜平成26年4月＞		修士 (体育学)		大学スポーツ論	1前	2	1	一般社団法人 菜の花AC 理事長 (令2.10)	
46	兼任	講師	スズキ　シンジ 鈴木　眞二 ＜令和4年4月＞		学士 (フランス文学)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	6 6	ファブリス株式会社 代表取締役 (平18.11)	
47	兼任	講師	カガミ　ナオコ 加賀美　直子 ＜令和4年4月＞		学士 (外国文化)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	2 2 1 1	自営業	
48	兼任	講師	ヒガシヤマ　シホ 東山　志帆 ＜令和4年4月＞		修士 (学術)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	6 6	湘南工科大学付属高等学校 講師 (令2.4)	
49	兼任	講師	スギシタ　アヤコ 杉下　文子 ＜令和4年4月＞		修士 (教育学)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	1 1	学校法人河合塾 英語科 (平成4.4)	
50	兼任	講師	ﾗﾐﾚｽﾞ ﾌﾗﾝｼｼﾝ ｸﾛｴ ＜令和4年4月＞		MA English and British Literature		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (令4.4)	
51	兼任	講師	ﾏｰｸｽ ｹﾋﾞﾝ ﾀﾞｸﾞﾗｽ ＜令和4年4月＞		Master of Arts in TESOL		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	7 7	San Diego State University, California English Teacher (平31.4-令3.12)	
52	兼任	講師	ﾃﾞｼｲﾝ ｼﾞｭﾘｰ ｳﾞｨｰ ﾏﾉﾝｿﾝ ＜令和4年4月＞		Masters in Education with specialization in English Language		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	ISA English Teacher (平31.3)	
53	兼任	講師	ｽﾄｰｸｽ ｼﾞｪｰﾑｽﾞ ﾌﾞﾗｯﾄﾞﾘｰ ＜令和4年4月＞		Master of Arts (TESOL)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	東京モード学園 講師 (令3.3)	
54	兼任	講師	スズキ　ナギ 鈴木　凪 ＜令和4年4月＞		Master of Arts in Chemistry		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	フリーランス	
55	兼任	講師	ｱｰﾈｯﾄ ﾀﾞﾆｴﾙ ｼﾞｪｰﾑｽﾞ ＜令和4年4月＞		MA in Education		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	5 5	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (令4.4)	

56	兼任	講師	ｸﾞﾗｰﾙ ｸﾘｽﾄﾌｧｰ ﾏｲｹｰﾙ ＜令和4年4月＞		Masters degree in Applied language studies for TESOL		英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	2前 2後	2 2	1 1	Kanda Institute of Foreign Languages Instructor (平27.4)	
57	兼任	講師	ｶｰﾝ ﾌｧｲｱｰｽﾞ ＜令和4年4月＞		MSc SEM (Sport & Exercise Medicine) PGCert.(Anatomical Sciences)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	杏林大学 講師 (平27.4)	

（注）
1　教員の数に応じ，適宜枠を増やして記入すること。
2　私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合又は大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合は，この書類を作成する必要はない。
3　「申請に係る学部等に従事する週当たりの平均日数」の欄は，専任教員のみ記載すること。

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（スポーツ健康政策学部スポーツテクノロジー学科（旧））

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
1	専	教授（学部長）	ヨシタカ　ユキハル 吉鷹　幸春 ＜平成7年4月＞		体育学修士		専門演習Ⅰ	3前	2	1	スポーツ健康政策学部教授平7.4	5日
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							柔道	1後	1	1		
							武道指導法・コーチング論	3前	2	1		
							スポーツコーチング実習Ⅱ	3後	1	1		
							スポーツ指導者論	1前	2	1		
2	専	教授（学科長）	カトウ　トモオ 加藤　知生 ＜平成21年4月＞		体育学士		専門演習Ⅰ	3前	2	1	スポーツ健康政策学部教授平21.4	5日
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							インターンシップ実習Ⅰ	1前	2	1		
							インターンシップ実習Ⅱ	1前	2	1		
							学科基礎セミナー	1前	2	1		
							テーピング論（実習を含む）	1前	2	1		
							アスレティックリハビリテーションⅠ（実習を含む）	2前	2	1		
							アスレティックリハビリテーションⅡ（実習を含む）	3後	2	1		
							アスレティックトレーナーの役割	1前	2	1		
							アスレティックリハビリテーションⅢ（実習を含む）	4前	2	1		
							スポーツ現場実習Ⅰ	1前	1	1		
							スポーツ現場実習Ⅳ	3後	1	1		
							スポーツ現場実習Ⅴ	4前	2	1		
3	専	教授	ナリタ　タカヤ 成田　崇矢 ＜平成24年4月＞		博士（スポーツ科学）		専門演習Ⅰ	3前	2	1	スポーツ健康政策学部教授平24.4	5日
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							機能解剖学Ⅰ	1前	2	1		
							予防とコンディショニングⅠ（実習を含む）	1前	2	1		
							機能解剖学Ⅱ	2後	2	1		
							検査・測定と評価	3前	2	1		
							予防とコンディショニングⅡ（実習を含む）	2後	2	1		
							予防とコンディショニングⅢ（実習を含む）	3前	2	1		
							スポーツ現場実習Ⅰ	1前	1	1		
							スポーツ現場実習Ⅱ	2後	1	1		
							スポーツ現場実習Ⅲ	3前	1	1		
4	専	教授	カワサキ　ケンゾウ 河崎　賢三 ＜平成16年4月＞		医学博士		専門演習Ⅰ	3前	2	1	スポーツ健康政策学部教授平16.4	5日
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							発育発達老化論	1後	2	1		
							スポーツ医学Ⅰ	2前	2	1		
							救急処置論（実習を含む）	1後	1	1		
							スポーツ医学Ⅱ	3前	2	1		
							スポーツ現場実習Ⅰ	1前	1	1		
5	専	教授	ウエタ　トモコ 殖田　知子 ＜平成26年4月＞		修士（経営学）		専門演習Ⅰ	3前	2	1	スポーツ健康政策学部教授平26.4	5日
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							統計入門	1後	2	1		
							評価測定学（実習を含む）	3前	2	1		
							栄養学	2前	2	1		
							スポーツ栄養学	2後	2	1		

6	専	教授	サクライ　トモノブ 櫻井　智野風 ＜平成26年4月＞		博士 (運動生理学)		専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ 専門演習Ⅲ 専門演習Ⅳ 卒業研究 トレーニング論（実習を含む） 運動生理学 スキー・スノーボード実習	3前 3後 4前 4後 4通 1前 2前 2前	2 2 2 2 4 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 平26.4	5日
7	専	教授	ホシ　アキオ 星　秋夫 ＜平成20年4月＞		医学博士		衛生学・公衆衛生学 健康教育学	1後 2前	2 2	1 1	スポーツ健康政策学部 教授 平20.4	5日
8	専	教授	シブクラ　タカユキ 澁倉　崇行 ＜平成26年4月＞		博士 (心理学)		スポーツ心理学 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ 専門演習Ⅲ 専門演習Ⅳ 卒業研究 メンタルトレーニング論 ジュニアスポーツコーチング論 スポーツコーチング実習Ⅱ	2前 3前 3後 4前 4後 4通 3前 3前 3後	2 2 2 2 2 4 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 平26.4	5日
9	専	准教授	ヒロセ　タツロウ 廣瀬　立朗 ＜平成21年4月＞		博士 (学術)		専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ 専門演習Ⅲ 専門演習Ⅳ 卒業研究 陸上競技 トレーニング学（実習を含む） スポーツイングリッシュ 測定機器の操作	3前 3後 4前 4後 4通 1前・後 3前 3前 2前	2 2 2 2 4 1 2 2 2	1 1 1 1 1 2 1 1 1	スポーツ健康政策学部 准教授 平21.4	5日
10	専	准教授	コヤマ　ケイジ 小山　桂二 ＜平成24年4月＞		博士 (スポーツ健康科学)		スポーツバイオメカニクス 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ 専門演習Ⅲ 専門演習Ⅳ 卒業研究 陸上競技指導法・コーチング論 評価測定学（実習を含む） 動作分析論	2後 3前 3後 4前 4後 4通 3後 3前 3前	2 2 2 2 2 4 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 准教授 平24.4	5日
11	専	准教授	ヒロカワ　ミツシ 廣川　充志 ＜平成18年4月＞		修士 (体育学)		柔道 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ 専門演習Ⅲ 専門演習Ⅳ 卒業研究 武道指導法・コーチング論 運動処方論 スポーツコーチング実習Ⅰ	1後 3前 3後 4前 4後 4通 3前 1後 3前	1 2 2 2 2 4 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 准教授 平18.4	5日
12	専	准教授	クリヤマ　ユタカ 栗山　裕 ＜平成3年4月＞		学術博士		デジタル産業論 情報リテラシーⅠ（情報機器の操作） 情報リテラシーⅡ スポーツ情報処理論	1後 1前 1後 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 平3.4	5日
13	専	講師	オカモト　ダイ 岡本　大 ＜平成20年4月＞		修士 (武道・スポーツ)		ハンドボール ゴール型球技指導法・コーチング論 スポーツコーチング実習Ⅰ 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ 専門演習Ⅲ 専門演習Ⅳ 卒業研究 チャンピオンシップスポーツコーチング論	2前・後 3後 3前 3前 3後 4前 4後 4通 3前	1 2 1 2 2 2 2 4 2	2 1 1 1 1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 講師 平20.4	5日

14	専	講師	ミゾカミ　ヒロシ 溝上　拓志 ＜令和4年4月＞		修士（スポーツ科学）		専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ 専門演習Ⅲ 専門演習Ⅳ 卒業研究 スポーツ映像分析論 スポーツデータ解析 スポーツ情報戦略論 スポーツ技術・戦術論	3前 3後 4前 4後 4通 2後 3後 2前 3前	2 2 2 2 4 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 講師 令4.4	5日
15	兼担	教授	ナカノ　ヒデユキ 中野　英之 ＜平成31年4月＞		博士（地球環境科学）		地球と環境 自然科学	1後 1後	2 2	1 1	スポーツ健康政策学部 教授 平31.4	5日
16	兼担	教授	マス　ノブオ 升　信夫 ＜平成9年4月＞		法学博士		持続可能な開発と法	1後	2	1	法学部 教授 (平9.4)	5日
17	兼担	教授	タニモト　ナオミ 谷本　直美 ＜平成21年4月＞		教育学修士		教育実習（中学校） 教育実習（高校） 学校体験実習（中・高） 学校インターンシップ実習 事前・事後指導（中・高） 教職実践演習（中・高）	4前 4前 2前 4前 4前 4前	4 2 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 平21.4	5日
18	兼担	教授	タケダ　ヨシコ 武田　佳子 ＜令和3年4月＞		修士（教育学）		ソーシャル・コミュニケーション	1後	2	1	教育研究開発機構 教授 (令和3.4)	5日
19	兼担	教授	セトグチ　ヤスヒロ 瀬戸口　靖弘 ＜平成30年4月＞		医学博士		健康管理とスポーツ医学	3前	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 平30.4	5日
20	兼担	教授	ヒビノ　ノブコ 日比野　暢子 ＜平成25年4月＞		博士（スポーツ政策学・スポーツマネジメント学）		国際コミュニケーション実習Ⅰ 国際コミュニケーション実習Ⅱ 国際コミュニケーション実習Ⅲ 障害者スポーツ論	1前 1前 1前 2後	4 4 4 2	1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 平25.4	5日
21	兼担	教授	オカダ　トシエ 岡田　俊恵 ＜平成17年4月＞		文学修士		言語文化論 表現とコミュニケーション 英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語Ⅲ 英語Ⅳ	1前 1後 1前 1後 2前 2後	2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 平17.4	5日
22	兼担	教授	ハヤシダ　ハルミ 林田　はるみ ＜平成30年4月＞		博士（スポーツ科学）		地域における健康課題 ダンス ダンス指導法・コーチング論 コミュニティ・ファシリテーション 地域政治論 地域観光事業論	1前 1後 3後 1後 2前 2前	2 1 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 (平30.4)	5日
23	兼担	教授	ハラ　チサコ 原　千砂子 ＜平成5年4月＞		法学修士		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	1 1	法学部 教授 (平5.4)	5日
24	兼担	教授	アベ　ケンジ 阿部　憲二 ＜平成14年9月＞		教育学博士		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅤ 英語コミュニケーションⅥ	1前 1後 3前 3後	2 2 2 2	3 3 1 1	法学部 教授 (平14.9)	5日
25	兼担	教授	カツマタ　ヒロフミ 勝亦　啓文 ＜平成17年4月＞		法学修士		法学	1前	2	1	法学部 教授 (平17.4)	5日
26	兼担	教授	デグチ　ユウイチ 出口　雄一 ＜平成16年4月＞		博士（法学）		歴史学Ⅰ 歴史学Ⅱ	1前 1前	2 2	1 1	法学部 教授 (平16.4)	5日

27	兼担	教授	ナミキ　コウイチ 並木　浩一 ＜平成24年4月＞		博士 （学術）		視覚文化論	1前	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 （平24.4）	5日
							MAST特別実習	1前・後	1	2		
							MAST特別講義	1前・後	2	2		
							ウェブ・コミュニケーション	2前	2	1		
							ビジネスアイデアデザイン	2後	2	1		
							ファッション文化論	2前	2	1		
28	兼担	教授	カタヤマ　フミヨ 片山　富美代 ＜平成16年7月＞		博士 （学術）		健康と心理学	1前	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 （平16.7）	5日
							身体の仕組みと働き	1後	2	1		
							ヘルスプロモーション論	2前	2	1		
							救急処置論（実習を含む）	1後	1	1		
							心理学	1前	2	1		
							集団と心理学	2前	1	1		
							幸せと心理学	2前	2	1		
							意思決定と心理学	2後	2	1		
							自己調整と心理学	2後	1	1		
29	兼担	教授	イケガミ　マサシ 池上　和志 ＜平成18年4月＞		博士 （理学）		地球環境の科学	1前	0.7	1	医用工学部 教授 （平18.4）	5日
							科学技術の未来	1後	2	1		
							プロジェクト入門	1後	2	1		
30	兼担	教授	カン　ネイ 韓　寧 ＜平成19年4月＞		博士 （法学）		中国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ1	1前	1	1	法学部 教授 （平19.4）	5日
							中国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ2	1後	1	1		
							中国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ3	2前	1	1		
							中国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ4	2後	1	1		
31	兼担	教授	ミヤサカ　ツトム 宮坂　力 ＜平成13年12月＞		工学博士		地球環境の科学	1前	0.7	1	医用工学部 教授 （平13.12）	5日
32	兼担	教授	サトウ　ユタカ 佐藤　豊 ＜平成28年1月＞		教育学修士		教師論	1前	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 平28.1	5日
							ICT活用スキルの理論と実際	3前	2	1		
							保健科教育法	2後	2	1		
							保健体育授業演習Ⅰ	2後	0.7	1		
							保健体育授業演習Ⅱ	3前	2	1		
							保健体育授業演習Ⅲ	3後	2	1		
33	兼担	教授	ミヤヅ　タイゾウ 宮津　大蔵 ＜平成21年4月＞		教育学士		文学Ⅰ	1前	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 平21.4	5日
							社会貢献論	1後	2	1		
							サービスラーニング実習Ⅰ	1前	2	1		
							サービスラーニング実習Ⅱ	1前	2	1		
34	兼担	教授	カメオカ　セイロウ 亀岡　聖朗 ＜平成31年4月＞		博士 （心理学）		教育心理学	1後	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 平31.4	5日
							教育相談・キャリア教育指導論	2後	2	1		
35	兼担	教授	イマイズミ　タカユキ 今泉　隆之 ＜平成20年4月＞		修士 （文学）		宗教学概論	1後	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 平20.4	5日
							文学Ⅱ	1後	2	1		
							身体と文化	1前	2	1		
							スポーツ史	1前	2	1		
							公務員演習Ⅰ(1)(2)	2後	4	1		
							公務員演習Ⅱ(1)(2)	3前	4	1		
							公務員演習Ⅲ(1)(2)	3後	4	1		
36	兼担	准教授	ナガハマ　ヒロフミ 長濱　博文 ＜平成29年4月＞		博士 （教育学）		教育原理・教育課程論	2前	2	1	法学部 准教授 （平29.4）	5日
37	兼担	准教授	シミズ　ユウ 清水　由 ＜令和3年4月＞		修士 （体育学）		体育科教育法	2前	2	1	スポーツ健康政策学部 准教授 令3.4	5日
38	兼担	准教授	イ　ヒスン 李　禧承 ＜平成24年4月＞		博士 （教育学）		韓国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ1	1前	1	1	スポーツ健康政策学部 准教授 平24.4	5日
							韓国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ2	1後	1	1		
							韓国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ3	2前	1	1		
							韓国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ4	2後	1	1		
							教育学	1前	2	1		
							教育方法論	2後	2	1		
							ICT活用スキルの理論と実際	3前	2	1		

39	兼担	准教授	イグチ　ナリアキ 井口　成明 ＜平成30年4月＞		スポーツ科学修士		学校保健・学校安全	3前	2	1	スポーツ健康政策学部 准教授 平30.4	5日
							保健体育授業演習Ⅰ	2後	0.7	1		
							保健体育授業演習Ⅱ	3前	2	1		
							保健体育授業演習Ⅲ	3後	2	1		
40	兼担	准教授	フクウラ　カズオ 福浦　一男 ＜平成29年4月＞		博士（文学）		現代社会とスポーツ	1前	2	1	スポーツ健康政策学部 准教授 平29.4	5日
41	兼担	准教授	サトウ　クニマサ 佐藤　国正 ＜平成24年4月＞		修士（体育科学）		学部キャリアセミナーⅠ	2後	2	2	スポーツ健康政策学部 准教授 平24.4	5日
							学部キャリアセミナーⅡ	3前	2	2		
							スポーツ哲学	2後	2	1		
							バレーボール	1前・後	1	2		
							ネット型球技指導法・コーチング論	3前	2	1		
42	兼担	准教授	タカセ　タケシ 髙瀬　武志 ＜平成26年4月＞		体育学修士		桐蔭キャリアゲート	1前	2	1	法学部 准教授 （平26.4）	5日
							剣道	1前	1	1		
							武道指導法・コーチング論	3前	2	1		
							体育実技Ⅰ	1前	1	1		
							体育実技Ⅱ	1後	1	1		
							アスリートの科学	1前	2	1		
							アスリートキャリア	1後	2	1		
							アスリート・クロス	2前	2	1		
							リーダーシップ教育	2前	2	1		
							ライフスキル	2後	2	1		
43	兼担	准教授	サイトウ　レイ 齋藤　れい ＜平成31年4月＞		博士（スポーツ科学）		ビジネスの科学	1前	2	2	スポーツ健康政策学部 准教授 （平31.4）	5日
							スポーツ施設・用具論	1後	2	1		
							スポーツマーケティング論	2前	2	1		
							マーケティング各論	1後	2	1		
							アントレプレナーシップ	1前	2	1		
							プロジェクト入門	1後	2	1		
							マーケティング・リサーチ	2前	2	1		
							現代ビジネス論	2後	2	1		
							分野横断型プロジェクト	2後	3	1		
44	兼担	准教授	キムラ　カズヒロ 木村　和宏 ＜平成20年4月＞		修士（体育科学）		バスケットボール	1前・後	1	2	スポーツ健康政策学部 准教授 平20.4	5日
							ゴール型球技指導法・コーチング論	3後	2	1		
45	兼担	准教授	ウエハタ　ヨウスケ 上畠　洋佑 ＜令和3年4月＞		修士（教育学）		異文化の科学	1前	2	1	教育研究開発機構 准教授 （令和3.4）	5日
							プロジェクト入門	1後	2	1		
							異文化リサーチ	2前	2	1		
							フード文化論	2後	2	1		
							若者文化論	2後	2	1		
							分野横断型プロジェクト	2後	3	1		
							ことばのスキル	1後	2	1		
46	兼担	講師	オガサワラ　カズアキ 小笠原　一彰 ＜平成7年4月＞		修士（教育学）		水泳	1前・後	1	2	スポーツ健康政策学部 講師 平7.4	5日
							水泳指導法・コーチング論	3後	2	1		
							コーチング学	3後	2	1		
47	兼担	講師	ミゾグチ　ユウ 溝口　侑 ＜令和3年4月＞		修士（教育学）		桐蔭スキルゲート	1前	2	1	教育研究開発機構 講師 （令和3.4）	5日
							データコミュニケーション入門	1後	2	1		
							心の科学	1前	2	2		
							こころの世界	1前	2	1		
							青年と心理学	1・2後	2	1		
							集団と心理学	2前	1	1		
							意思決定と心理学	2後	2	1		
							自己調整と心理学	2後	1	1		
							プロジェクト入門	1後	2	1		
							分野横断型プロジェクト	2後	3	1		
48	兼担	講師	マツイ　シンサク 松井　晋作 ＜令和3年4月＞		修士（文学）		桐蔭キャリアゲート	1前	2	1	教育研究開発機構 講師 （令和3.4）	5日
							地域の科学	1前	2	2		
							サステナブル社会学	1後		1		
							プロジェクト入門	1後	2	1		
							横浜地域学	2後	2	1		
							実践地域創成学	2後	2	1		
							分野横断型プロジェクト	2後	3	1		

49	兼担	講師	シバヤマ　ナオユキ 柴山　直之 ＜令和3年4月＞		博士 （工学）		地球環境の科学 分野横断型プロジェクト	1前 2後	0.7 3	1 1	医用工学部 講師 （令和3.4）	5日
50	兼担	講師	ミネノ　コウスケ 峰野　宏祐 ＜令和4年4月＞		修士 （教育学）		数学概論Ⅰ 数学概論Ⅱ	1前 2前	2 2	1 1	スポーツ健康政策学部 講師 令4.4	5日
51	兼担	講師	オヤマ　ユウスケ 尾山　裕介 ＜平成30年4月＞		博士 （学術）		評価測定学（実習を含む）	3前	2	1	スポーツ健康政策学部 講師 平30.4	5日
52	兼担	講師	キハラ　ヨウイチ 木原　洋一 ＜平成20年4月＞		修士 （体育学） 修士 （教育学）		スポーツ教育学 保健体育授業演習Ⅰ 保健体育授業演習Ⅱ 保健体育授業演習Ⅲ	2前 2後 3前 3後	2 0.7 2 2	1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 講師 平20.4	5日
53	兼担	助教	アサオカ　ケイタ 浅岡　慶太 ＜平成13年4月＞		修士 （法学）		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅦ 英語コミュニケーションⅧ	1前 1後 4前 4後	2 2 2 2	1 1 2 2	法学部 助教 （平13.4）	5日
54	兼担	助教	オオツジ　コウタ 大辻　康太 ＜平成31年4月＞		修士 （教育学）		体育実技Ⅰ 体育実技Ⅱ	1前 1後	1 1	1 1	法学部 助教 （平31.4）	5日
55	兼任	客員教授	オオイシ　ススム 大石　進 ＜令和2年4月＞		体育学士		運動部活動論	2前	2	1	スポーツ健康政策学部 客員教授 令2.4	
56	兼任	客員教授	ﾖｼﾊﾗ　ｼｮｳｺ 吉原　晶子 ＜平成29年4月＞		学士 （教育学）		特別活動・総合的な学習の時間指導法	3後	2	1	桐蔭横浜大学 客員教授 （平29.4）	
57	兼任	講師	スダ　カズヒト 須田　和人 ＜平成26年4月＞		修士 （体育学）		大学スポーツ論	1前	2	1	一般社団法人 菜の花AC 理事長 （令2.10）	
58	兼任	講師	フジモト　ケンタロウ 藤本　健太朗 ＜令和3年4月＞		博士 （文学）		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	桐蔭横浜大学 非常勤講師 （令3.4）	
59	兼任	講師	スズキ　シンジ 鈴木　眞二 ＜令和4年4月＞		学士 （フランス文学）		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	6 6	ファブリス株式会社 代表取締役 （平18.11）	
60	兼任	講師	カガミ　ナオコ 加賀美　直子 ＜令和4年4月＞		学士 （外国文化）		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	2 2 1 1	自営業	
61	兼任	講師	ヒガシヤマ　シホ 東山　志帆 ＜令和4年4月＞		修士 （学術）		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	6 6	湘南工科大学付属高等学校 講師 （令2.4）	
62	兼任	講師	スギシタ　アヤコ 杉下　文子 ＜令和4年4月＞		修士 （教育学）		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	1 1	学校法人河合塾 英語科 （平成4.4）	
63	兼任	講師	ﾗﾐﾚｽﾞ ﾌﾗﾝｼｼﾝ ｸﾛｴ ＜令和4年4月＞		MA English and British Literature		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	桐蔭横浜大学 非常勤講師 （令4.4）	
64	兼任	講師	ﾏｰｸｽ ｹﾋﾞﾝ ﾀﾞｸﾞﾗｽ ＜令和4年4月＞		Master of Arts in TESOL		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	7 7	San Diego State University, California English Teacher （平31.4-令3.12）	
65	兼任	講師	ﾃﾞｼｲﾝ ｼﾞｭﾘｰ ｳﾞｨｰ ﾏﾉﾝｿﾝ ＜令和4年4月＞		Masters in Education with specialization in English Language		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	ISA English Teacher （平31.3）	

66	兼任	講師	ｽﾄｰｸｽ ｼﾞｪｰﾑｽﾞ ﾌﾞﾗｯﾄﾞﾘｰ ＜令和4年4月＞		Master of Arts (TESOL)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	東京モード学園 講師 (令3.3)	
67	兼任	講師	スズキ　ナギ 鈴木　凪 ＜令和4年4月＞		Master of Arts in Chemistry		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	フリーランス	
68	兼任	講師	ｱｰﾈｯﾄ ﾀﾞﾆｴﾙ ｼﾞｪｰﾑｽﾞ ＜令和4年4月＞		MA in Education		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	5 5	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (令4.4)	
69	兼任	講師	ｸﾞﾗｰﾙ ｸﾘｽﾄﾌｧｰ ﾏｲｹｰﾙ ＜令和4年4月＞		Masters degree in Applied language studies for TESOL		英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	2前 2後	2 2	1 1	Kanda Institute of Foreign Languages Instructor (平27.4)	
70	兼任	講師	ｶｰﾝ ﾌｧｲｱｰｽﾞ ＜令和4年4月＞		MSc SEM (Sport & Exercise Medicine) PGCert.(Anatomical Sciences)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	杏林大学 講師 (平27.4)	
71	兼任	講師	タカダ　ハルノリ 高田　明宣 ＜平成26年4月＞		博士 (学術)		倫理学Ⅰ 倫理学Ⅱ 哲学Ⅰ 哲学Ⅱ	1前 1後 1前 1後	2 2 2 2	1 1 1 1	TAC(株)公務員試験講座 講師 (平20.10)	
72	兼任	講師	ヤマグチ　アキコ 山口　晶子 ＜平成30年4月＞		修士 (教育学)		社会学 教育社会論（学校安全を含む）	1前 2前	2 2	1 1	東京学芸大学 共同研究員 (平27.7)	
73	兼任	講師	アスマ　カズタカ 飛鳥馬　一峰 ＜令和3年4月＞		博士 (史学)		西洋史概論	1前	2	1	中央大学人文科学研究所客員研究員 (平31.4) 東洋大学人間科学研究所　客員研究員（平26.4）	
74	兼任	講師	タナカ　ヒロシ 田中　比呂志 ＜平成29年4月＞		博士 (社会学)		東洋史概論	1後	2	1	東京学芸大学 教授 (平21.4)	
75	兼任	講師	カミタ　セイジ 上田　誠二 ＜平成30年4月＞		博士 (史学)		日本史概論	1後	2	1	日本女子大学 准教授 (令2.4)	
76	兼任	講師	カワゾエ　ワタル 川添　航 ＜令和2年4月＞		博士 (理学)		地理学概論	1後	2	1	立正大学 助教 令4.4	
77	兼任	講師	キシ 岸　エヴェリン ＜令和3年4月＞		博士 (人文学)		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ ドイツ語Ⅲ ドイツ語Ⅳ	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	桐蔭横浜大学 非常勤講師 令3.4	
78	兼任	講師	シロイシ　アツコ 城石　敦子 ＜平成27年4月＞		修士 (ﾌﾗﾝｽ文学)		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ フランス語Ⅲ フランス語Ⅳ	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	日本女子大学附属高等学校 非常勤講師 (平26.4)	
79	兼任	講師	サトウ　ヤスヒデ 佐藤　康秀 ＜平成27年4月＞		音声学 修士		日本語ⅠA 日本語ⅡA 日本語ⅢA	1前 1前 1後	2 2 2	1 1 1	神田日本語教育アカデミー 主任講師 (平15.4)	
80	兼任	講師	イワツキ　エミコ 岩附　英美子 ＜平成27年4月＞		経済 学士		日本語ⅠB 日本語ⅡB 日本語ⅢB	1前 1前 1後	2 2 2	1 1 1	神田日本語教育アカデミー 代表取締役 (平15.4)	

81	兼任	講師	オキタ　ユウゾウ 沖田　祐蔵 ＜令和4年4月＞		修士 (体育学)		ボディーワークⅠ ボディーワークⅡ (体操：体つくり運動、集団行動)	1 前・後 1前	1 1	2 2	日本Gボール協会 (平22.4)	
82	兼任	講師	ワタヌキ　ヨシノリ 綿貫　慶徳 ＜令和3年4月＞		博士 (体育科学)		生涯スポーツ論	1後	2	1	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (令3.4)	
83	兼任	講師	ゴトウ　ヨウイチ 後藤　洋一 ＜平成20年4月＞		体育学 修士		器械運動 [illegible]	1前・後 3後	1 2	4 1	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (平20.4)	
84	兼任	講師	ヤハギ　ノブユキ 矢作　信行 ＜平成29年4月＞		修士 (学術)		道徳教育指導論	2前	2	1	帝京平成大学 教授 (令2.4)	
85	兼任	講師	マエダ　ヨシヒト 前田　善仁 ＜平成30年4月＞		修士 (教育学)		生徒指導論	3前	2	1	東海大学 教授 (平26.4)	
86	兼任	講師	イケダ　アツコ 池田　敦子 ＜令和3年4月＞		修士 (教育学)		特別支援教育指導論	2後	2	1	東海学院大学 教授 (令2.4)	
87	兼任	講師	オオツキ　シゲヒサ 大槻　茂久 ＜平成25年4月＞		修士 (体育学)		サッカー	2前・後	1	3	日本体育大学 サッカー部監督 令3.4	
88	兼任	講師	ヨネチ　トオル 米地　徹 ＜平成26年4月＞		修士 (体育学)		ラグビー	2前	1	1	日本体育大学 教授 平26.4	
89	兼任	講師	カナモリ　ジュン 金森　純 ＜平成29年4月＞		修士 (体育学)		ソフトボール・野球 ベースボール型球技指導法・コーチング論	2前 3前	1 2	1 2	神奈川工科大学 非常勤講師 (平23.4)	
90	兼任	講師	イソベ　カオル 磯辺　薫 ＜令和2年4月＞		修士 (体育学)		テニス	2 前・後	1	2	フリーランス	
91	兼任	講師	フルカワ　アキヤ 古川　暁也 ＜平成22年4月＞		体育学 修士		バドミントン	2 前・後	1	3	日本体育大学 教授 (平18.4)	
92	兼任	講師	マスダ　ケイコ 増田　敬子 ＜平成22年4月＞		学士 (体育学)		エアロビクス（実習を含む） 体つくり運動指導法 ストレッチング論（実習を含む）	3前 3後 1後	1 2 2	2 1 1	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (平22.4)	

（注）
1　教員の数に応じ，適宜枠を増やして記入すること。
2　私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合又は大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合は，この書類を作成する必要はない。
3　「申請に係る学部等に従事する週当たりの平均日数」の欄は，専任教員のみ記載すること。

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（スポーツ健康政策学部スポーツ健康政策学科（旧））

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
1	専	教授(学科長)	ヒビノ　ノブコ 日比野　暢子 ＜平成25年4月＞		博士（スポーツ政策学・スポーツマネジメント学）		専門演習Ⅰ	3前	2	1	スポーツ健康政策学部教授(平25.4)	5日
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							インターンシップ実習Ⅰ	1前	2	1		
							インターンシップ実習Ⅱ	1前	2	1		
							国際コミュニケーション実習Ⅰ	1前	4	1		
							国際コミュニケーション実習Ⅱ	1前	4	1		
							国際コミュニケーション実習Ⅲ	1前	4	1		
							障害者スポーツ論	2後	2	1		
							文化・スポーツプロジェクト研究Ⅰ	1後	1	1		
							文化・スポーツプロジェクト研究Ⅱ	1後	1	1		
							文化・スポーツプロジェクト研究Ⅲ	2後	2	1		
							文化・スポーツプロジェクト研究Ⅳ	2後	2	1		
							スポーツ政策論	2前	2	1		
							スポーツと政治	2後	2	1		
							国際交流論	2後	2	1		
							インクルーシブスポーツ論	2前	2	1		
							障害概論（実習を含む）	2前	2	1		
							地域スポーツ経営論	3前	2	1		
2	専	教授	ナミキ　コウイチ 並木　浩一 ＜平成24年4月＞		博士（学術）		視覚文化論	1前	2	1	スポーツ健康政策学部教授(平24.4)	5日
							MAST特別実習	1前・後	1	2		
							MAST特別講義	1前・後	2	2		
							ウェブ・コミュニケーション	2前	2	1		
							ビジネスアイデアデザイン	2後	2	1		
							ファッション文化論	2前	2	1		
							広告論	2後	2	1		
							映画・映像論	2前	2	1		
							日本文化表現活動	1後	2	1		
							専門演習Ⅰ	3前	2	1		
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
3	専	教授	カタヤマ　フミヨ 片山　富美代 ＜平成16年7月＞		博士（学術）		健康と心理学	1前	2	1	スポーツ健康政策学部教授(平16.7)	5日
							心理学	1前	2	1		
							集団と心理学	2前	1	1		
							幸せと心理学	2前	2	1		
							意思決定と心理学	2後	2	1		
							自己調整と心理学	2後	1	1		
							身体の仕組みと働き	1後	2	1		
							ヘルスプロモーション論	2前	2	1		
							救急処置論（実習を含む）	1後	2	1		
							専門演習Ⅰ	3前	2	1		
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
4	専	教授	イマイズミ　タカユキ 今泉　隆之 ＜平成20年4月＞		修士（文学）		宗教学概論	1後	2	1	スポーツ健康政策学部教授(平20.4)	5日
							文学Ⅱ	1後	2	1		
							身体と文化	1前	2	1		
							スポーツ史	1前	2	1		
							日本伝統の身体表現	2前	2	1		
							日本文化論	2後	2	1		
							専門演習Ⅰ	3前	2	1		
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							公務員演習Ⅰ(1)(2)	2後	4	1		
							公務員演習Ⅱ(1)(2)	3前	4	1		
							公務員演習Ⅲ(1)(2)	3後	4	1		

5	専	教授	セトグチ　ヤスヒロ 瀬戸口　靖弘 ＜平成30年4月＞		医学博士		専門演習Ⅰ	3前	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 (平30.4)	5日
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							生理学	1後	2	1		
							生活習慣病論	1後	2	1		
							健康管理とスポーツ医学	3前	2	1		
							健康医学入門	1前	2	1		
							運動療法演習	3前	2	1		
6	専	准教授	フクウラ　カズオ 福浦　一男 ＜平成29年4月＞		博士（文学）		専門演習Ⅰ	3前	2	1	スポーツ健康政策学部 准教授 (平29.4)	5日
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							現代社会とスポーツ	1前	2	1		
							文化と政策	2後	2	1		
							環境と人間	2後	2	1		
7	専	准教授	サイトウ　レイ 齋藤　れい ＜平成31年4月＞		博士（スポーツ科学）		ビジネスの科学	1前	2	2	スポーツ健康政策学部 准教授 (平31.4)	5日
							マーケティング各論	1後	2	1		
							アントレプレナーシップ	1前	2	1		
							プロジェクト入門	1後	2	1		
							マーケティング・リサーチ	2前	2	1		
							現代ビジネス論	2後	2	1		
							分野横断型プロジェクト	2後	3	1		
							スポーツ施設・用具論	1後	2	1		
							スポーツマーケティング論	2前	2	1		
							NPOマネジメント	2前	2	1		
							スポーツマネジメント論	2前	2	1		
							専門演習Ⅰ	3前	2	1		
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
8	専	准教授	サトウ　クニマサ 佐藤　国正 ＜平成24年4月＞		修士（体育科学）		学部キャリアセミナーⅠ	2後	2	2	スポーツ健康政策学部 准教授 (平24.4)	5日
							学部キャリアセミナーⅡ	3前	2	2		
							スポーツ哲学	2後	2	1		
							バレーボール	1前・後	1	2		
							アウトドア実習Ⅰ	1前	2	1		
							アウトドア実習Ⅱ	1後	2	1		
							ネット型球技指導法・コーチング論	3前	2	1		
							専門演習Ⅰ	3前	2	1		
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
9	専	講師	オガサワラ　カズアキ 小笠原　一彰 ＜令和7年4月＞		修士（教育学）		水泳	1前・後	1	2	スポーツ健康政策学部 講師 (平7.4)	5日
							水泳指導法・コーチング論	3後	2	1		
							コーチング学	3後	2	1		
							専門演習Ⅰ	3前	2	1		
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
10	専	講師	オヤマ　ユウスケ 尾山　裕介 ＜平成30年4月＞		博士（学術）		専門演習Ⅰ	3前	2	1	スポーツ健康政策学部 講師 (平30.4)	5日
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							評価測定学（実習を含む）	3前	2	1		
							ホスピタリティ論	2後	2	1		
							社会福祉概論	1後	2	1		
							健康運動現場実習	3前	1	1		
11	兼担	教授	カワサキ　ケンゾウ 河崎　賢三 ＜平成16年4月＞		医学博士		発育発達老化論	1後	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 (平16.4)	5日
							スポーツ医学Ⅰ	2前	2	1		
							救急処置論（実習を含む）	1後	2	1		

12	兼担	教授 （学部長）	ヨシタカ　ユキハル 吉鷹　幸春 ＜平成7年4月＞		体育学修士		柔道 武道指導法・コーチング論	1前 3前	1 2	1 1	スポーツ健康政策学部 教授 （平7.4）	5日
13	兼担	教授	ハヤシダ　ハルミ 林田　はるみ ＜平成30年4月＞		博士（スポーツ科学）		地域における健康課題 ダンス ダンス指導法・コーチング論 コミュニティ・ファシリテーション 地域政治論 地域観光事業論	1前 1後 3後 1後 2前 2前	2 1 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 （平30.4）	5日
14	兼担	教授	ナリタ　タカヤ 成田　崇矢 ＜平成24年4月＞		博士（スポーツ科学）		機能解剖学Ⅰ	1前	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 （平24.4）	5日
15	兼担	教授	ウエタ　トモコ 殖田　知子 ＜平成26年4月＞		修士（経営学）		統計入門 栄養学 評価測定学（実習を含む）	1後 2前 3前	2 2 2	1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 （平26.4）	5日
16	兼担	教授	サクライ　トモノブ 櫻井　智野風 ＜平成26年4月＞		博士（運動生理学）		トレーニング論（実習を含む） 運動生理学	1前 2前	2 2	1 1	スポーツ健康政策学部 教授 （平26.4）	5日
17	兼担	教授	ホシ　アキオ 星　秋夫 ＜平成20年4月＞		医学博士		衛生学・公衆衛生学 健康教育学	1後 2前	2 2	1 1	スポーツ健康政策学部 教授 （平20.4）	5日
18	兼担	教授	ハラ　チサコ 原　千砂子 ＜平成5年4月＞		法学修士		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	1 1	法学部 教授 （平5.4）	5日
19	兼担	教授	アベ　ケンジ 阿部　憲二 ＜平成14年9月＞		教育学博士		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅤ 英語コミュニケーションⅥ	1前 1後 3前 3後	2 2 2 2	3 3 1 1	法学部 教授 （平14.9）	5日
20	兼担	教授	カツマタ　ヒロフミ 勝亦　啓文 ＜平成17年4月＞		法学修士		法学	1前	2	1	法学部 教授 （平17.4）	5日
21	兼担	教授	デグチ　ユウイチ 出口　雄一 ＜平成16年4月＞		博士（法学）		歴史学Ⅰ 歴史学Ⅱ	1前 1前	2 2	1 1	法学部 教授 （平16.4）	5日
22	兼担	教授	シブクラ　タカユキ 澁倉　崇行 ＜令和5年4月＞		博士（心理学）		スポーツ心理学	2前	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 （平26.4）	5日
23	兼担	教授	カトウ　トモオ 加藤　知生 ＜平成21年4月＞		体育学士		リハビリテーション論	2前	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 （平21.4）	5日
24	兼担	教授	ナカノ　ヒデユキ 中野　英之 ＜平成31年4月＞		博士（地球環境科学）		地球と環境 自然科学	1・2前 1後	2 2	1 1	スポーツ健康政策学部 教授 （平31.4）	5日
25	兼担	教授	タニモト　ナオミ 谷本　直美 ＜平成21年4月＞		教育学修士		教育実習（中学校） 教育実習（高校） 学校体験実習（中・高） 事前・事後指導（中・高） 教職実践演習（中・高）	4前 4前 2前 4前 4前	4 2 1 1 2	1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 （平21.4）	5日
26	兼担	教授	マス　ノブオ 升　信夫 ＜平成9年4月＞		法学博士		持続可能な開発と法	1・2後	2	1	法学部 教授 （平9.4）	5日
27	兼担	教授	タケダ　ヨシコ 武田　佳子 ＜令和3年4月＞		修士（教育学）		ソーシャル・コミュニケーション	1後	2	1	教育研究開発機構 教授 （令和3.4）	5日
28	兼担	教授	カン　ネイ 韓　寧 ＜平成19年4月＞		博士（法学）		中国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ1 中国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ2 中国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ3 中国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ4	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	法学部 教授 （平19.4）	5日

29	兼担	教授	ミヤヅ　タイゾウ 宮津　大蔵 ＜平成21年4月＞		教育学士		文学Ⅰ 社会貢献論 サービスラーニング実習Ⅰ サービスラーニング実習Ⅱ	1前 1後 1前 1前	2 2 2 2	1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 (平21.4)	5日
30	兼担	教授	サトウ　ユタカ 佐藤　豊 ＜平成28年1月＞		教育学修士		教師論 ICT活用スキルの理論と実際 保健科教育法	1前 3前 2後	2 2 2	1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 (平28.1)	5日
31	兼担	教授	オカダ　トシエ 岡田　俊恵 ＜平成17年4月＞		文学修士		言語文化論 表現とコミュニケーション 英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語Ⅲ 英語Ⅳ	1前 1後 1前 1後 2前 2後	2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 (平17.4)	5日
32	兼担	教授	カメオカ　セイロウ 亀岡　聖朗 ＜平成31年4月＞		博士(心理学)		教育心理学 教育相談・キャリア教育指導論	1後 2後	2 2	1 1	スポーツ健康政策学部 教授 (平31.4)	5日
33	兼担	教授	イケガミ　マサシ 池上　和志 ＜平成18年4月＞		博士(理学)		地球環境の科学 科学技術の未来 プロジェクト入門	1前 1後 1後	0.7 2 2	1 1 1	医用工学部 教授 (平18.4)	5日
34	兼担	教授	ミヤサカ　ツトム 宮坂　力 ＜平成13年12月＞		工学博士		地球環境の科学	1前	0.7	1	医用工学部 教授 (平13.12)	5日
35	兼担	准教授	コヤマ　ケイジ 小山　桂二 ＜平成24年4月＞		博士(スポーツ健康科学)		スポーツバイオメカニクス 陸上競技指導法・コーチング論 評価測定学（実習を含む）	2後 3後 3前	2 2 2	1 1 1	スポーツ健康政策学部 准教授 (平24.4)	5日
36	兼担	准教授	ヒロセ　タツロウ 廣瀬　立朗 ＜平成21年4月＞		博士(学術)		陸上競技	1前・後	1	2	スポーツ健康政策学部 准教授 (平21.4)	5日
37	兼担	准教授	クリヤマ　ユタカ 栗山　裕 ＜平成3年4月＞		学術博士		デジタル産業論 情報リテラシーⅠ（情報機器の操作） スポーツ情報処理論	1後 1前 2後	2 2 2	1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 (平3.4)	5日
38	兼担	准教授	キムラ　カズヒロ 木村　和宏 ＜平成20年4月＞		修士(体育科学)		バスケットボール ゴール型球技指導法・コーチング論	1前・後 3後	1 2	2 1	スポーツ健康政策学部 准教授 (平20.4)	5日
39	兼担	准教授	ナガハマ　ヒロフミ 長濱　博文 ＜平成29年4月＞		博士(教育学)		教育原理・教育課程論	2前	2	1	法学部 准教授 (平29.4)	5日
40	兼担	准教授	シミズ　ユウ 清水　由 ＜令和3年4月＞		修士(体育学)		体育科教育法	2前	2	1	スポーツ健康政策学部 准教授 (令3.4)	5日
41	兼担	准教授	イ　ヒスン 李　禧承 ＜平成24年4月＞		博士(教育学)		韓国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ1 韓国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ2 韓国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ3 韓国語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ4 教育学 教育方法論 ICT活用スキルの理論と実際	1前 1後 2前 2後 1前 2後 3前	1 1 1 1 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 准教授 (平24.4)	5日
42	兼担	准教授	ヒロカワ　ミツシ 廣川　充志 ＜平成18年4月＞		修士(体育学)		柔道 運動処方論 武道指導法・コーチング論	1前 1後 3前	1 2 2	1 1 1	スポーツ健康政策学部 准教授 (平18.4)	5日

43	兼担	准教授	タカセ　タケシ 髙瀬　武志 ＜平成26年4月＞		体育学修士		桐蔭キャリアゲート 体育実技Ⅰ 体育実技Ⅱ 剣道 武道指導法・コーチング論 アスリートの科学 アスリートキャリア アスリート・クロス リーダーシップ教育 ライフスキル	1前 1前 1後 1前 3前 1前 1後 2前 2前 2後	2 1 1 1 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	法学部 准教授 (平26.4)	5日
44	兼担	准教授	イグチ　ナリアキ 井口　成明 ＜平成30年4月＞		スポーツ科学修士		学校保健・学校安全	3前	2	1	スポーツ健康政策学部 准教授 (平30.4)	5日
45	兼担	准教授	ウエハタ　ヨウスケ 上畠　洋佑 ＜令和3年4月＞		修士(教育学)		異文化の科学 プロジェクト入門 異文化リサーチ フード文化論 若者文化論 分野横断型プロジェクト ことばのスキル	1前 1後 2前 2後 2後 2後 1後	2 2 2 2 2 3 2	1 1 1 1 1 1 1	教育研究開発機構 准教授 (令和3.4)	5日
46	兼担	講師	ミゾグチ　ユウ 溝口　侑 ＜令和3年4月＞		修士(教育学)		桐蔭スキルゲート データコミュニケーション入門 心の科学 こころの世界 青年と心理学 集団と心理学 意思決定と心理学 自己調整と心理学 プロジェクト入門 分野横断型プロジェクト	1前 1後 1前 1前 1・2後 2前 2後 2後 1後 2後	2 2 2 2 2 1 2 1 2 3	1 1 2 1 1 1 1 1 1 1	教育研究開発機構 講師 (令和3.4)	5日
47	兼担	講師	マツイ　シンサク 松井　晋作 ＜令和3年4月＞		修士(文学)		桐蔭キャリアゲート 地域の科学 サステナブル社会学 プロジェクト入門 横浜地域学 実践地域創成学 分野横断型プロジェクト	1前 1前 1後 1後 2後 2後 2後	2 2 2 2 2 2 3	1 2 1 1 1 1 1	教育研究開発機構 講師 (令和3.4)	5日
48	兼担	講師	シバヤマ　ナオユキ 柴山　直之 ＜令和3年4月＞		博士(工学)		地球環境の科学 分野横断型プロジェクト	1前 2後	0.7 3	1 1	医用工学部 講師 (令和3.4)	5日
49	兼担	講師	キハラ　ヨウイチ 木原　洋一 ＜平成20年4月＞		修士(体育学) 修士(教育学)		スポーツ教育学	2前	2	1	スポーツ健康政策学部 講師 (平20.4)	5日
50	兼担	講師	オカモト　ダイ 岡本　大 ＜平成20年4月＞		修士(武道・スポーツ)		ゴール型球技指導法・コーチング論	3後	2	1	スポーツ健康政策学部 講師 (平20.4)	5日
51	兼担	講師	ミネノ　コウスケ 峰野　宏祐 ＜令和4年4月＞		修士(教育学)		数学概論Ⅰ 数学概論Ⅱ	1前 2前	2 2	1 1	スポーツ健康政策学部 講師 (令4.4)	5日
52	兼担	助教	アサオカ　ケイタ 浅岡　慶太 ＜平成13年4月＞		修士(法学)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅦ 英語コミュニケーションⅧ	1前 1後 4前 4後	2 2 2 2	1 1 2 2	法学部 助教 (平13.4)	5日
53	兼担	助教	オオツジ　コウタ 大辻　康太 ＜平成31年4月＞		修士(教育学)		体育実技Ⅰ 体育実技Ⅱ	1前 1後	1 1	1 1	法学部 助教 (平31.4)	5日
54	兼任	客員教授	ﾖｼﾊﾗ　ｼｮｳｺ 吉原　晶子 ＜平成29年4月＞		学士(教育学)		特別活動・総合的な学習の時間指導法	3後	2	1	桐蔭横浜大学 客員教授 (平29.4)	
55	兼任	講師	スダ　カズヒト 須田　和人 ＜平成26年4月＞		修士(体育学)		大学スポーツ論	1前	2	1	一般社団法人 菜の花AC 理事長 (令2.10)	
56	兼任	講師	フジモト　ケンタロウ 藤本　健太朗 ＜令和3年4月＞		博士(文学)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (令3.4)	

57	兼任	講師	スズキ　シンジ 鈴木　眞二 ＜令和4年4月＞		学士 (フランス文学)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	6 6	ファブリス株式会社 代表取締役 (平18.11)	
58	兼任	講師	カガミ　ナオコ 加賀美　直子 ＜令和4年4月＞		学士 (外国文化)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	2 2 1 1	自営業	
59	兼任	講師	ヒガシヤマ　シホ 東山　志帆 ＜令和4年4月＞		修士 (学術)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	6 6	湘南工科大学付属高等学校 講師 (令2.4)	
60	兼任	講師	スギシタ　アヤコ 杉下　文子 ＜令和4年4月＞		修士 (教育学)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	1 1	学校法人河合塾 英語科 (平成4.4)	
61	兼任	講師	ﾗﾐﾚｽﾞ ﾌﾗﾝｼｽ ｸﾛｴ ＜令和4年4月＞		MA English and British Literature		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (令4.4)	
62	兼任	講師	ﾏｰｸｽ ｹﾋﾞﾝ ﾀﾞｸﾞﾗｽ ＜令和4年4月＞		Master of Arts in TESOL		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	7 7	San Diego State University, California English Teacher (平31.4-令3.12)	
63	兼任	講師	ﾃﾞｼｲﾝ ｼﾞｭﾘｰ ｳﾞｨｰ ﾏﾉﾝｿﾝ ＜令和4年4月＞		Masters in Education with specialization in English Language		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	ISA English Teacher (平31.3)	
64	兼任	講師	ｽﾄｰｸｽ ｼﾞｪｰﾑｽﾞ ﾌﾞﾗｯﾄﾞﾘｰ ＜令和4年4月＞		Master of Arts (TESOL)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	東京モード学園 講師 (令3.3)	
65	兼任	講師	スズキ　ナギ 鈴木　凪 ＜令和4年4月＞		Master of Arts in Chemistry		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	フリーランス	
66	兼任	講師	ｱｰﾈｯﾄ ﾀﾞﾆｴﾙ ｼﾞｪｰﾑｽﾞ ＜令和4年4月＞		MA in Education		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	5 5	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (令4.4)	
67	兼任	講師	ｸﾞﾗｰﾙ ｸﾘｽﾄﾌｧｰ ﾏｲｹｰﾙ ＜令和4年4月＞		Masters degree in Applied language studies for TESOL		英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	2前 2後	2 2	1 1	Kanda Institute of Foreign Languages Instructor (平27.4)	
68	兼任	講師	ｶｰﾝ ﾌｧｲｱｰｽﾞ ＜令和4年4月＞		MSc SEM (Sport & Exercise Medicine) PGCert.(Anatomical Sciences)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	杏林大学 講師 (平27.4)	
69	兼任	講師	タカダ　ハルノリ 高田　明宣 ＜平成26年4月＞		博士 (学術)		倫理学Ⅰ 倫理学Ⅱ 哲学Ⅰ 哲学Ⅱ	1前 1後 1前 1後	2 2 2 2	1 1 1 1	TAC(株)公務員試験講座 講師 (平20.10)	
70	兼任	講師	ヤマグチ　アキコ 山口　晶子 ＜平成30年4月＞		修士 (教育学)		社会学 教育社会論（学校安全を含む）	1前 1前	2 2	1 1	東京学芸大学 共同研究員 (平27.7)	
71	兼任	講師	アスマ　カズタカ 飛鳥馬　一峰 ＜令和3年4月＞		博士 (史学)		西洋史概論	1前	2	1	中央大学人文科学研究所客員研究員 (平31.4) 東洋大学人間科学研究所　客員研究員（平26.4）	

72	兼任	講師	タナカ　ヒロシ 田中　比呂志 ＜平成29年4月＞		博士 (社会学)		東洋史概論	1後	2	1	東京学芸大学 教授 (平21.4)	
73	兼任	講師	カミタ　セイジ 上田　誠二 ＜平成30年4月＞		博士 (史学)		日本史概論	1後	2	1	日本女子大学 准教授 (令2.4)	
74	兼任	講師	カワゾエ　ワタル 川添　航 ＜令和2年4月＞		博士 (理学)		地理学概論	1後	2	1	立正大学 助教 (令4.4)	
75	兼任	講師	キシ 岸　エヴェリン ＜令和3年4月＞		博士 (人文学)		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ ドイツ語Ⅲ ドイツ語Ⅳ	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (令3.4)	
76	兼任	講師	シロイシ　アツコ 城石　敦子 ＜平成27年4月＞		修士 (ﾌﾗﾝｽ文学)		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ フランス語Ⅲ フランス語Ⅳ	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	日本女子大学附属高等学校 非常勤講師 (平26.4)	
77	兼任	講師	サトウ　ヤスヒデ 佐藤　康秀 ＜平成27年4月＞		音声学 修士		日本語ⅠA 日本語ⅡA 日本語ⅢA	1前 1前 1後	2 2 2	1 1 1	神田日本語教育アカデミー 主任講師 (平15.4)	
78	兼任	講師	イワツキ　エミコ 岩附　英美子 ＜平成27年4月＞		経済 学士		日本語ⅠB 日本語ⅡB 日本語ⅢB	1前 1前 1後	2 2 2	1 1 1	神田日本語教育アカデミー 代表取締役 (平15.4)	
79	兼任	講師	オキタ　ユウゾウ 沖田　祐蔵 ＜令和4年4月＞		修士 (体育学)		ボディーワークⅠ ボディーワークⅡ (体操：体つくり運動、集団行動)	1 前・後 1前	1 1	2 2	日本Gボール協会 (平22.4)	
80	兼任	講師	ワタヌキ　ヨシノリ 綿貫　慶徳 ＜令和3年4月＞		博士 (体育科学)		生涯スポーツ論 地域社会とスポーツ メディアと社会	1後 2前 2後	2 2 2	1 1 1	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (令3.4)	
81	兼任	講師	ゴトウ　ヨウイチ 後藤　洋一 ＜平成20年4月＞		体育学 修士		器械運動 [illegible]	1前・後 3後	1 2	4 1	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (平20.4)	
82	兼任	講師	トウジマ　ヒデオ 東島　日出夫 ＜令和元年8月＞		修士 (法学)		労働と法 労働安全衛生と法	1前 1後	2 2	1 1	日本年金機構 (平20.4)	
83	兼任	講師	ツボイ　ケンイチ 坪井　賢一 ＜平成25年4月＞		学士 (経済学)		文化と経済	2前	2	1	ダイヤモンド社取締役兼論説委員 (平29.4)	
84	兼任	講師	ヤハギ　ノブユキ 矢作　信行 ＜平成29年4月＞		修士 (学術)		道徳教育指導論	2前	2	1	帝京平成大学 教授 (令2.4)	
85	兼任	講師	マエダ　ヨシヒト 前田　善仁 ＜平成30年4月＞		修士 (教育学)		生徒指導論	3前	2	1	東海大学 教授 (平26.4)	
86	兼任	講師	イケダ　アツコ 池田　敦子 ＜令和3年4月＞		修士 (教育学)		特別支援教育指導論	2後	2	1	東海学院大学 教授 (令2.4)	
87	兼任	講師	ババ　シンイチロウ 馬場　進一郎 ＜平成25年4月＞		体育学 修士		レクリエーション論	2後	2	1	日本体育大学 教授 (平3.4)	
88	兼任	講師	モギ　ヒロコ 茂木　宏子 ＜令2年4月＞		修士 (教育学)		スポーツジャーナリズム論	1後	2	1	フリージャーナリスト (昭61.4)	
89	兼任	講師	カナモリ　ジュン 金森　純 ＜平成29年4月＞		修士 (体育学)		ベースボール型球技指導法・コーチング論	3前	2	2	神奈川工科大学 非常勤講師 (平23.4)	

90	兼任	講師	マスダ　ケイコ 増田　敬子 ＜平成22年4月＞		学士 （体育学）		エアロビクス（実習を含む） 体つくり運動指導法 ストレッチング論（実習を含む）	3前 3後 1後	1 2 2	2 1 1	桐蔭横浜大学 非常勤講師 （平22.4）	

（注）
1　教員の数に応じ，適宜枠を増やして記入すること。
2　私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合又は大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合は，この書類を作成する必要はない。
3　「申請に係る学部等に従事する週当たりの平均日数」の欄は，専任教員のみ記載すること。

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（スポーツ科学部スポーツ教育学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
1	専	教授（学部長）	ヨシタカ　ユキハル 吉鷹　幸春 ＜令和5年4月＞		体育学修士		柔道	1前・後	1	2	スポーツ健康政策学部教授（平7.4）	5日
							専門演習Ⅰ	3前	2	1		
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							スポーツプロジェクト研究Ⅰ	1前	2	1		
							スポーツプロジェクト研究Ⅱ	1後	2	1		
							武道指導法・コーチング論	3前	2	1		
2	専	教授（学科長）	タニモト　ナオミ 谷本　直美 ＜令和5年4月＞		教育学修士		専門演習Ⅰ	3前	2	1	スポーツ健康政策学部教授（平21.4）	5日
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							学校体験実習（小学校）	2前	1	1		
							学校体験実習（中・高）	2前	1	1		
							学校インターンシップ実習	4前	1	1		
							音楽概論	2前・後	2	2		
							教科指導法（音楽）	3前・後	2	2		
							教育実習（初等）	4前	4	1		
							教育実習（中学校）	4前	4	1		
							教育実習（高校）	4前	2	1		
							事前・事後指導（初等）	4前	1	1		
							事前・事後指導（中・高）	4前	1	1		
							教職実践演習（初等を含む）	4前	2	1		
3	専	教授	サトウ　ユタカ 佐藤　豊 ＜令和5年4月＞		教育学修士		専門演習Ⅰ	3前	2	1	スポーツ健康政策学部教授（平28.1）	5日
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							教師論（初等を含む）	1後	2	1		
							教師論	1前	2	1		
							ICT活用スキルの理論と実際（初等を含む）	3前	2	1		
							ICT活用スキルの理論と実際	3前	2	1		
							保健科教育法	2後	2	1		
							保健体育授業演習Ⅰ	2後	0.7	1		
							保健体育授業演習Ⅱ	3前	2	1		
							保健体育授業演習Ⅲ	3後	2	1		
4	専	教授	ミヤヅ　タイゾウ 宮津　大蔵 ＜令和5年4月＞		教育学士		専門演習Ⅰ	3前	2	1	スポーツ健康政策学部教授（平21.4）	5日
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							ボランティア論	1後	2	1		
							ボランティア実習	1後	2	1		
							学科基礎セミナーⅠ	1前	1	1		
							学科基礎セミナーⅡ	1後	1	1		
							人文科学系教科総論	2前	1	1		
							国語概論（書写を含む）	3前	1	1		
							教科指導法（国語）	3後	1	1		
							文章表現論	3前	2	1		
5	専	教授	ナカノ　ヒデユキ 中野　英之 ＜令和5年4月＞		博士（地球環境科学）		専門演習Ⅰ	3前	2	1	スポーツ健康政策学部教授（平31.4）	5日
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							地球と環境	1・2前	2	1		
							学科基礎セミナーⅠ	1前	1	1		
							学科基礎セミナーⅡ	1後	1	1		
							自然科学系教科総論	2前	1	1		
							理科概論	3前	1	1		
							生活概論	3後	1	1		
							教科指導法（理科）	3前	1	1		
							教科指導法（生活）	3後	1	1		

6	専	教授	カメオカ　セイロウ 亀岡　聖朗 ＜令和5年4月＞		博士 (心理学)		専門演習Ⅰ	3前	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 (平31.4)	5日
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							教育心理学（初等を含む）	1後	2	1		
							教育心理学	1後	2	1		
							教育相談・キャリア教育指導論（初等を含む）	2前	2	1		
							教育相談・キャリア教育指導論	2後	2	1		
7	専	教授	オカダ　トシエ 岡田　俊恵 ＜令和5年4月＞		文学修士		言語文化論	1・2前	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 (平17.4)	5日
							表現とコミュニケーション	1・2後	2	1		
8	専	教授	ハヤシダ　ハルミ 林田　はるみ ＜令和5年4月＞		博士 (スポーツ科学)		ダンス	1前・後	1	2	スポーツ健康政策学部 教授 (平30.4)	5日
							エアロビクス（演習を含む）	3前	1	1		
							ダンス指導法・コーチング論	3後	2	1		
							地域における健康課題	1・2前	2	1		
							コミュニティ・ファシリテーション	1・2後	2	1		
							地域政治論	2・3前	2	1		
							地域観光事業論	2・3前	2	1		
9	専	准教授	シミズ　ユウ 清水　由 ＜令和5年4月＞		修士 (体育学)		専門演習Ⅰ	3前	2	1	スポーツ健康政策学部 准教授 (令3.4)	5日
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							小学体育Ⅱ	1後	1	1		
							小学体育Ⅲ	2後	2	1		
							教科指導法（体育）	3前	2	1		
							体育科教育法	2前	2	1		
10	専	准教授	イグチ　ナリアキ 井口　成明 ＜令和5年4月＞		スポーツ科学修士		専門演習Ⅰ	3前	2	1	スポーツ健康政策学部 准教授 (平30.4)	5日
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							自然活動論Ⅰ（演習を含む）	1前	2	1		
							学校保健・学校安全	3前	2	1		
							保健体育授業演習Ⅰ	2後	0.7	1		
							保健体育授業演習Ⅱ	3前	2	1		
							保健体育授業演習Ⅲ	3後	2	1		
							自然活動論Ⅱ（演習を含む）	2前	2	1		
							「スポーツ人物史」の研究	3前	2	1		
11	専	准教授	イ　ヒスン 李　禧承 ＜令和5年4月＞		博士 (教育学)		専門演習Ⅰ	3前	2	1	スポーツ健康政策学部 准教授 (平24.4)	5日
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							教育学	1前	2	1		
							教育方法論（初等を含む）	2前	2	1		
							教育方法論	2後	2	1		
							ICT活用スキルの理論と実際（初等を含む）	3前	2	1		
							ICT活用スキルの理論と実際	3前	2	1		
12	専	准教授	キムラ　カズヒロ 木村　和宏 ＜令和5年4月＞		修士 (体育科学)		バスケットボール	1前・後	1	2	スポーツ健康政策学部 准教授 (平20.4)	5日
							専門演習Ⅰ	3前	2	1		
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							ゴール型球技指導法・コーチング論	3後	2	1		

13	専	准教授	サトウ　クニマサ 佐藤　国正 ＜令和5年4月＞		修士 (体育科学)		学部キャリアセミナー	3前	2	1	スポーツ健康政策学部 准教授 (平24.4)	5日
							バレーボール	1後	1	1		
							専門演習Ⅰ	3前	2	1		
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							シーズンスポーツ論Ⅰ(演習を含む)	1前	2	1		
							シーズンスポーツ論Ⅱ(演習を含む)	1後	2	1		
							スポーツ哲学	2後	2	1		
							ネット型球技指導法・コーチング論	3前	2	1		
							キャリアセミナーⅠ	2前	2	1		
							キャリアセミナーⅡ	2後	2	1		
							キャリアセミナーⅢ	3前	2	1		
14	専	講師	ミネノ　コウスケ 峰野　宏祐 ＜令和5年4月＞		修士 (教育学)		専門演習Ⅰ	3前	2	1	スポーツ健康政策学部 講師 (令4.4)	5日
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							数学概論Ⅰ	1前	2	1		
							数学概論Ⅱ	1後	2	1		
							自然科学系教科総論	2前	1	1		
							算数概論	3前	1	1		
							教科指導法（算数）	3前	1	1		
							身近な数学	3前	2	1		
15	専	講師	キハラ　ヨウイチ 木原　洋一 ＜令和5年4月＞		修士 (体育学) 修士 (教育学)		専門演習Ⅰ	3前	2	1	スポーツ健康政策学部 講師 (平20.4)	5日
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							小学体育Ⅰ	1前	1	1		
							スポーツ教育学	2前	2	1		
							保健体育授業演習Ⅰ	2後	0.7	1		
							保健体育授業演習Ⅱ	3前	2	1		
							保健体育授業演習Ⅲ	3後	2	1		
							幼児スポーツ論（演習を含む）	2後	2	1		
16	専	講師	オガサワラ　カズアキ 小笠原　一彰 ＜令和5年4月＞		修士 (教育学)		水泳	1前・後	1	2	スポーツ健康政策学部 講師 (平7.4)	5日
							専門演習Ⅰ	3前	2	1		
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							水泳指導法・コーチング論	3後	2	1		
							コーチング学	3後	2	1		
17	兼担	教授	ホシ　アキオ 星　秋夫 ＜令和5年4月＞		医学博士		衛生学・公衆衛生学	1後	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 (平20.4)	5日
18	兼担	教授	カトウ　トモオ 加藤　知生 ＜令和5年4月＞		体育学士		テーピング論（演習を含む）	1後	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 (平21.4)	5日
19	兼担	教授	ヒビノ　ノブコ 日比野　暢子 ＜令和5年4月＞		博士（スポーツ政策学・スポーツマネジメント学）		障害者スポーツ論	2後	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 (平25.4)	5日
							海外実習	2前	2	1		
							国際コミュニケーション実習Ⅰ	1前	4	1		
							国際コミュニケーション実習Ⅱ	1前	4	1		
							国際コミュニケーション実習Ⅲ	1前	4	1		
							インクルーシブスポーツ論	2前	2	1		
							スポーツ政策論	1前	2	1		
20	兼担	教授	イマイズミ　タカユキ 今泉　隆之 ＜令和5年4月＞		修士 (文学)		スポーツ史	1前	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 (平20.4)	5日
							スポーツ文化論	1前	2	1		
21	兼担	教授	カワサキ　ケンゾウ 河崎　賢三 ＜令和5年4月＞		医学博士		発育発達老化論	1後	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 (平16.4)	5日
							スポーツ医学Ⅰ	2前	2	1		
22	兼担	教授	ウエタ　トモコ 殖田　知子 ＜令和5年4月＞		修士 (経営学)		統計入門	1後	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 (平26.4)	5日
							評価測定学（演習を含む）	3前	2	1		

23	兼担	教授	シブクラ　タカユキ 澁倉　崇行 ＜令和5年4月＞		博士 (心理学)		スポーツ心理学	2前	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 (平26.4)	5日
24	兼担	教授	サクライ　トモノブ 櫻井　智野風 ＜令和5年4月＞		博士 (運動生理学)		身体の仕組みと働き 陸上競技 陸上競技指導法・コーチング論	1後 1前・後 3後	2 1 2	1 2 1	スポーツ健康政策学部 教授 (平26.4)	5日
25	兼担	教授	ナミキ　コウイチ 並木　浩一 ＜令和5年4月＞		博士 (学術)		視覚文化論 MAST特別実習 MAST特別講義 ウェブ・コミュニケーション ビジネスアイデアデザイン ファッション文化論	1・2前 1前・後 1前・後 2・3前 2・3後 2・3前	2 1 2 2 2 2	1 2 2 1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 (平24.4)	5日
26	兼担	教授	カタヤマ　フミヨ 片山　富美代 ＜令和5年4月＞		博士 (学術)		健康と心理学 集団と心理学 幸せと心理学 意思決定と心理学 自己調整と心理学	1・2前 2・3前 2・3前 2・3後 2・3後	2 1 2 2 1	1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 (平16.7)	5日
27	兼担	教授	カツマタ　ヒロフミ 勝亦　啓文 ＜令和5年4月＞		法学修士		法学	1前	2	1	法学部 教授 (平17.4)	5日
28	兼担	教授	ヤタベ　レイオ 谷田部　玲生 ＜令和5年4月＞		教育学修士		社会科学系教科総論 社会科概論 教科指導法（社会）	2後 3前 3前	2 1 1	1 1 1	法学部 教授 (平21.4)	5日
29	兼担	教授	ハラ　チサコ 原　千砂子 ＜令和5年4月＞		法学修士		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	1 1	法学部 教授 (平5.4)	5日
30	兼担	教授	アベ　ケンジ 阿部　憲二 ＜令和5年4月＞		教育学博士		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	3 3	法学部 教授 (平14.9)	5日
31	兼担	教授	イケガミ　マサシ 池上　和志 ＜令和5年4月＞		博士 (理学)		地球環境の科学 科学技術の未来 プロジェクト入門	1前 1・2前 1後	0.7 1 2	1 1 1	医用工学部 教授 (平18.4)	5日
32	兼担	教授	ミヤサカ　ツトム 宮坂　力 ＜令和5年4月＞		工学博士		地球環境の科学 科学技術の未来	1前 1・2前	0.7 1	1 1	医用工学部 教授 (平13.12)	5日
33	兼担	教授	マス　ノブオ 升　信夫 ＜令和5年4月＞		法学博士		持続可能な開発と法	1・2後	2	1	法学部 教授 (平9.4)	5日
34	兼担	教授	タケダ　ヨシコ 武田　佳子 ＜令和5年4月＞		修士 (教育学)		キャリアトランジション インターンシップ ソーシャル・コミュニケーション	2前 3前 1・2後	2 2 2	1 1 1	教育研究開発機構 教授 (令和3.4)	5日
35	兼担	准教授	クリヤマ　ユタカ 栗山　裕 ＜令和5年4月＞		学術博士		デジタル産業論	1・2後	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 (平3.4)	5日
36	兼担	准教授	コヤマ　ケイジ 小山　桂二 ＜令和5年4月＞		博士 (スポーツ健康科学)		スポーツバイオメカニクス 評価測定学（演習を含む）	2後 3前	2 2	1 1	スポーツ健康政策学部 准教授 (平24.4)	5日
37	兼担	准教授	サイトウ　レイ 齋藤　れい ＜令和5年4月＞		博士 (スポーツ科学)		スポーツイベント施設論 スポーツマーケティング論 スポーツマネジメント論 ビジネスの科学 マーケティング各論 アントレプレナーシップ プロジェクト入門 マーケティング・リサーチ 現代ビジネス論 分野横断型プロジェクト	1後 1前 1前 1前 1・2後 1・2前 1後 2・3前 2・3後 2後	2 2 2 2 2 2 2 2 2 3	1 1 1 2 1 1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 准教授 (平31.4)	5日

38	兼担	准教授	ヒロカワ　ミツシ 廣川　充志 ＜令和5年4月＞		修士 (体育学)		柔道 武道指導法・コーチング論	1前・後 3前	1 2	2 1	スポーツ健康政策学部 准教授 (平18.4)	5日
39	兼担	准教授	フクウラ　カズオ 福浦　一男 ＜令和5年4月＞		博士 (文学)		スポーツ社会学 スポーツ人類学	1前 1後	2 2	1 1	スポーツ健康政策学部 准教授 (平29.4)	5日
40	兼担	准教授	タカセ　タケシ 髙瀬　武志 ＜令和5年4月＞		修士 (体育学)		剣道 武道指導法・コーチング論 桐蔭キャリアゲート 体育実技Ⅰ 体育実技Ⅱ アスリートの科学 アスリートキャリア アスリート・クロス リーダーシップ教育 ライフスキル	1前・後 3前 1前 1前 1後 1・2前 1・2後 2・3前 2・3後 2・3前	1 2 2 1 1 2 2 2 2 2	2 1 1 1 1 1 1 1 1 1	法学部 准教授 (平26.4)	5日
41	兼担	准教授	ナガハマ　ヒロフミ 長濱　博文 ＜令和5年4月＞		博士 (教育学)		教育原理・教育課程論(初等を含む) 教育原理・教育課程論	2後 2前	2 2	1 1	法学部 准教授 (平29.4)	5日
42	兼担	准教授	ウエハタ　ヨウスケ 上畠　洋佑 ＜令和5年4月＞		修士 (教育学)		異文化の科学 プロジェクト入門 異文化リサーチ フード文化論 若者文化論 分野横断型プロジェクト ことばのスキル	1前 1後 2・3前 2・3後 2・3後 2後 1・2後	2 2 2 2 2 3 2	1 1 1 1 1 1 1	教育研究開発機構 准教授 (令和3.4)	5日
43	兼担	講師	オカモト　ダイ 岡本　大 ＜令和5年4月＞		修士 (武道・スポーツ)		ハンドボール ゴール型球技指導法・コーチング論	2前 3後	1 2	1 1	スポーツ健康政策学部 講師 (平20.4)	5日
44	兼担	講師	オヤマ　ユウスケ 尾山　裕介 ＜令和5年4月＞		博士 (学術)		ヘルスプロモーション論 評価測定学（演習を含む） 高齢者活動支援論（演習を含む）	2前 3前 3後	2 2 2	1 1 1	スポーツ健康政策学部 講師 (平30.4)	5日
45	兼担	講師	ミゾカミ　ヒロシ 溝上　拓志 ＜令和5年4月＞		修士 (スポーツ科学)		スポーツ情報処理論	1前	2	1	スポーツ健康政策学部 講師 (令4.4)	5日
46	兼担	講師	ミゾグチ　ユウ 溝口　侑 ＜令和5年4月＞		修士 (教育学)		桐蔭スキルゲート データコミュニケーション入門 心の科学 青年と心理学 こころの世界 集団と心理学 意思決定と心理学 自己調整と心理学 プロジェクト入門 分野横断型プロジェクト	1前 1後 1前 1・2後 1・2前 2・3前 2・3後 2・3後 1後 2後	2 2 2 2 2 1 2 1 2 3	1 1 2 1 1 1 1 1 1 1	教育研究開発機構 講師 (令和3.4)	5日
47	兼担	講師	マツイ　シンサク 松井　晋作 ＜令和5年4月＞		修士 (文学)		桐蔭キャリアゲート 地域の科学 サステナブル社会学 プロジェクト入門 横浜地域学 実践地域創成学 分野横断型プロジェクト	1前 1前 1・2後 1後 2・3後 2・3後 2後	2 2 2 2 2 2 3	1 2 1 1 1 1 1	教育研究開発機構 講師 (令和3.4)	5日
48	兼担	講師	シバヤマ　ナオユキ 柴山　直之 ＜令和5年4月＞		博士 (工学)		地球環境の科学 分野横断型プロジェクト	1前 2後	0.7 3	1 1	医用工学部 講師 (令和3.4)	5日
49	兼担	助教	アサオカ　ケイタ 浅岡　慶太 ＜令和5年4月＞		修士 (法学)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	1 1	法学部 助教 (平13.4)	5日
50	兼担	助教	オオツジ　コウタ 大辻　康太 ＜令和5年4月＞		修士 (教育学)		体育実技Ⅰ 体育実技Ⅱ	1前 1後	1 1	1 1	法学部 助教 (平31.4)	5日

51	兼任	客員教授	オオイシ　ススム 大石　進 ＜令和5年4月＞		体育学士		運動部活動論	2前	2	1	スポーツ健康政策学部 客員教授 令2.4	
52	兼任	客員教授	ﾖｼﾊﾗ　ｼｮｳｺ 吉原　晶子 ＜令和5年4月＞		学士（教育学）		特別活動・総合的な学習の時間指導法（初等を含む） 特別活動・総合的な学習の時間指導法	3前 3後	2 2	1 1	桐蔭横浜大学 客員教授 (平29.4)	
53	兼任	講師	ヤマグチ　アキコ 山口　晶子 ＜令和5年4月＞		修士（教育学）		教育社会論（初等および学校安全を含む） 教育社会論	2後 2後	2 2	1 1	東京学芸大学 共同研究員 (平27.7)	
54	兼任	講師	オクムラ　コウイチ 奥村　耕一 ＜令和5年4月＞		修士（教育学）		人文科学系教科総論 外国語概論 教科指導法（外国語）	2前 3前 3後	1 1 2	1 1 1	情報経営イノベーション専門職大学 講師 (令2.4)	
55	兼任	講師	オキタ　ユウゾウ 沖田　祐蔵 ＜令和5年4月＞		修士（体育学）		ボディーワークⅡ（体操：体つくり運動、集団行動）	1前・後	1	3	日本Gボール協会 (平22.4)	
56	兼任	講師	ワタヌキ　ヨシノリ 綿貫　慶徳 ＜令和5年4月＞		博士（体育科学）		生涯スポーツ論	1後	2	1	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (令3.4)	
57	兼任	講師	ゴトウ　ヨウイチ 後藤　洋一 ＜令和5年4月＞		体育学修士		器械運動 器械運動指導法・コーチング論	1前・後 3後	1 2	4 1	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (平20.4)	
58	兼任	講師	ナダチ　ヒデアキ 名達　英詔 ＜令和5年4月＞		修士（芸術学）		図画工作概論 教科指導法（図画工作）	3前 3前	1 1	1 1	十文字学園女子大学 教授 (平29.4)	
59	兼任	講師	スズキ　マユミ 鈴木　真優美 ＜令和5年4月＞		学士（教育学）		家庭概論 教科指導法（家庭）	3後 3後	1 1	1 1	川崎市立東橘中学校 非常勤講師 (平30.4)	
60	兼任	講師	ヤハギ　ノブユキ 矢作　信行 ＜令和5年4月＞		修士（学術）		道徳教育指導論（初等を含む） 道徳教育指導論	2後 2前	2 2	1 1	帝京平成大学 教授 (令2.4)	
61	兼任	講師	マエダ　ヨシヒト 前田　善仁 ＜令和5年4月＞		修士（教育学）		児童生徒指導論 生徒指導論	2前 3前	2 2	1 1	東海大学 教授 (平26.4)	
62	兼任	講師	イケダ　アツコ 池田　敦子 ＜令和5年4月＞		修士（教育学）		特別支援教育指導論（初等を含む） 特別支援教育指導論	2後 2後	2 2	1 1	東海学院大学 教授 (令2.4)	
63	兼任	講師	オオツキ　シゲヒサ 大槻　茂久 ＜令和5年4月＞		修士（体育学）		サッカー	2前	1	3	日本体育大学 サッカー部監督 令3.4	
64	兼任	講師	ヨネチ　トオル 米地　徹 ＜令和5年4月＞		修士（体育学）		ラグビー	2前	1	1	日本体育大学 教授 平26.4	
65	兼任	講師	カナモリ　ジュン 金森　純 ＜令和5年4月＞		修士（体育学）		ソフトボール・野球 ベースボール型球技指導法・コーチング論	2前 3前	1 2	2 1	神奈川工科大学 非常勤講師 (平23.4)	
66	兼任	講師	イソベ　カオル 磯辺　薫 ＜令和5年4月＞		修士（体育学）		テニス	2前・後	1	2	フリーランス	
67	兼任	講師	フルカワ　アキヤ 古川　暁也 ＜令和5年4月＞		体育学修士		バドミントン	2前・後	1	3	日本体育大学 教授 (平18.4)	
68	兼任	講師	マスダ　ケイコ 増田　敬子 ＜令和5年4月＞		学士（体育学）		体つくり運動指導法	3後	2	1	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (平22.4)	
69	兼任	講師	ババ　シンイチロウ 馬場　進一郎 ＜令和5年4月＞		体育学修士		レクリエーション論	2後	2	1	日本体育大学 教授 平14.4	
70	兼任	講師	スダ　カズヒト 須田　和人 ＜令和5年4月＞		修士（体育学）		大学スポーツ論	1・2前	2	1	一般社団法人菜の花AC 理事長 (令2.10)	
71	兼任	講師	フジモト　ケンタロウ 藤本　健太朗 ＜令和5年4月＞		博士（文学）		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (令3.4)	
72	兼任	講師	スズキ　シンジ 鈴木　眞二 ＜令和5年4月＞		学士（フランス文学）		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	6 6	ファブリス株式会社 代表取締役 (平18.11)	

73	兼任	講師	カガミ　ナオコ 加賀美　直子 ＜令和5年4月＞		学士 （外国文化）		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	2 2 1 1	自営業	
74	兼任	講師	ヒガシヤマ　シホ 東山　志帆 ＜令和5年4月＞		修士 （学術）		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	6 6	湘南工科大学付属高等学校 講師 （令2.4）	
75	兼任	講師	スギシタ　アヤコ 杉下　文子 ＜令和5年4月＞		修士 （教育学）		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	1 1	学校法人河合塾 英語科 （平成4.4）	
76	兼任	講師	ﾗﾐﾚｽﾞ ﾌﾗﾝｼﾝ ｸﾛｴ ＜令和5年4月＞		MA English and British Literature		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	桐蔭横浜大学 非常勤講師 （令4.4）	
77	兼任	講師	ﾏｰｸｽ ｹﾋﾞﾝ ﾀﾞｸﾞﾗｽ ＜令和5年4月＞		Master of Arts in TESOL		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	7 7	San Diego State University, California English Teacher （平31.4-令3.12）	
78	兼任	講師	ﾃﾞｼｲﾝ ｼﾞｭﾘｰ ｳﾞｨｰ ﾏﾝｿﾝ ＜令和5年4月＞		Masters in Education with specialization in English Language		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	ISA English Teacher （平31.3）	
79	兼任	講師	ｽﾄｰｸｽ ｼﾞｪｰﾑｽﾞ ﾌﾞﾗｳﾄﾞﾘｰ ＜令和5年4月＞		Master of Arts (TESOL)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	東京モード学園 講師 （令3.3）	
80	兼任	講師	スズキ　ナギ 鈴木　凪 ＜令和5年4月＞		Master of Arts in Chemistry		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	フリーランス	
81	兼任	講師	ｱｰﾈｯﾄ ﾀﾞﾆｴﾙ ｼﾞｪｰﾑｽﾞ ＜令和5年4月＞		MA in Education		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	5 5	桐蔭横浜大学 非常勤講師 （令4.4）	
82	兼任	講師	ｸﾞﾗｰﾙ ｸﾘｽﾄﾌｧｰ ﾏｲｹｰﾙ ＜令和5年4月＞		Masters degree in Applied language studies for TESOL		英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	2前 2後	2 2	1 1	Kanda Institute of Foreign Languages Instructor （平27.4）	
83	兼任	講師	ｶｰﾝ ﾌｧｲｱｰｽﾞ ＜令和5年4月＞		MSc SEM (Sport & Exercise Medicine) PGCert.(Anatomical Sciences)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	杏林大学 講師 （平27.4）	

（注）
1　教員の数に応じ，適宜枠を増やして記入すること。
2　私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合又は大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合は，この書類を作成する必要はない。
3　「申請に係る学部等に従事する週当たりの平均日数」の欄は，専任教員のみ記載すること。

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（スポーツ科学部スポーツ健康科学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
1	専	教授(学科長)	カトウ　トモオ 加藤　知生 ＜令和5年4月＞		体育学士		専門演習Ⅰ	3前	2	1	スポーツ健康政策学部教授(平21.4)	5日
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							テーピング論（演習を含む）	1後	2	1		
							学科基礎セミナーⅠ	1前	2	1		
							学科基礎セミナーⅡ	1後	2	1		
							アスレティックトレーナーの役割	1前	2	1		
							リハビリテーション論	2前	2	1		
							アスレティックリハビリテーションⅠ（演習を含む）	2前	2	1		
							アスレティックリハビリテーションⅡ（演習を含む）	3後	2	1		
							アスレティックリハビリテーションⅢ（演習を含む）	4前	2	1		
							スポーツ現場実習Ⅳ	3後	1	1		
							スポーツ現場実習Ⅴ	4前	2	1		
							スポーツインターンシップ実習	1前	1	1		
2	専	教授	ヒビノ　ノブコ 日比野　暢子 ＜令和5年4月＞		博士（スポーツ政策学・スポーツマネジメント学）		障害者スポーツ論	2後	2	1	スポーツ健康政策学部教授(平25.4)	5日
							専門演習Ⅰ	3前	2	1		
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							国際コミュニケーション実習Ⅰ	1前	4	1		
							国際コミュニケーション実習Ⅱ	1前	4	1		
							国際コミュニケーション実習Ⅲ	1前	4	1		
							インクルーシブスポーツ論	2前	2	1		
							スポーツ政策論	1前	2	1		
							障害概論（演習を含む）	2前	2	1		
							海外実習	2前	2	1		
							国際交流論	2後	2	1		
3	専	教授	イマイズミ　タカユキ 今泉　隆之 ＜令和5年4月＞		修士（文学）		スポーツ史	1前	2	1	スポーツ健康政策学部教授(平20.4)	5日
							専門演習Ⅰ	3前	2	1		
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							スポーツ文化論	1前	2	1		
							日本伝統の身体表現	2前	2	1		
4	専	教授	カワサキ　ケンゾウ 河崎　賢三 ＜令和5年4月＞		医学博士		専門演習Ⅰ	3前	2	1	スポーツ健康政策学部教授(平16.4)	5日
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							発育発達老化論	1後	2	1		
							スポーツ医学Ⅰ	2前	2	1		
							救急処置論（演習を含む）	1後	2	1		
							スポーツ医学Ⅱ	3前	2	1		
							スポーツ現場実習Ⅰ	1前	1	1		

5	専	教授	ウエタ　トモコ 殖田　知子 ＜令和5年4月＞		修士 (経営学)		専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ 専門演習Ⅲ 専門演習Ⅳ 卒業研究 統計入門 評価測定学（演習を含む） スポーツ栄養学Ⅰ スポーツ栄養学Ⅱ（演習を含む）	3前 3後 4前 4後 4通 1後 3前 2前 2後	2 2 2 2 4 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 (平26.4)	5日
6	専	教授	ホシ　アキオ 星　秋夫 ＜令和5年4月＞		医学博士		衛生学・公衆衛生学	1後	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 (平20.4)	5日
7	専	教授	ナリタ　タカヤ 成田　崇矢 ＜令和5年4月＞		博士 (スポーツ科学)		専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ 専門演習Ⅲ 専門演習Ⅳ 卒業研究 機能解剖学Ⅰ 検査・測定と評価 機能解剖学Ⅱ 予防とコンディショニングⅠ（演習を含む） 予防とコンディショニングⅡ（演習を含む） 予防とコンディショニングⅢ（演習を含む） スポーツ現場実習Ⅱ スポーツ現場実習Ⅲ	3前 3後 4前 4後 4通 1前 3前 2後 1前 2後 3前 2後 3前	2 2 2 2 4 2 2 2 2 2 2 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 (平24.4)	5日
8	専	教授	シブクラ　タカユキ 澁倉　崇行 ＜令和5年4月＞		博士 (心理学)		スポーツ心理学 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ 専門演習Ⅲ 専門演習Ⅳ 卒業研究 メンタルトレーニング論 ジュニアスポーツコーチング論 スポーツコーチング実習Ⅱ	2前 3前 3後 4前 4後 4通 3前 3前 3後	2 2 2 2 2 4 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 (平26.4)	5日
9	専	教授	サクライ　トモノブ 櫻井　智野風 ＜令和5年4月＞		博士 (運動生理学)		身体の仕組みと働き 陸上競技 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ 専門演習Ⅲ 専門演習Ⅳ 卒業研究 陸上競技指導法・コーチング論 運動生理学	1後 1前・後 3前 3後 4前 4後 4通 3後 2後	2 1 2 2 2 2 4 2 2	1 2 1 1 1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 (平26.4)	5日
10	専	教授	セトグチ　ヤスヒロ 瀬戸口　靖弘 ＜令和5年4月＞		医学博士		健康医学入門 健康管理とスポーツ医学	1前 3前	2 2	1 1	スポーツ健康政策学部 教授 (平30.4)	5日
11	専	教授	ナミキ　コウイチ 並木　浩一 ＜令和5年4月＞		博士 (学術)		視覚文化論 MAST特別実習 MAST特別講義 ウェブ・コミュニケーション ビジネスアイデアデザイン ファッション文化論	1・2前 1前・後 1前・後 2・3前 2・3後 2・3前	2 1 2 2 2 2	1 2 2 1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 (平24.4)	5日
12	専	教授	カタヤマ　フミヨ 片山　富美代 ＜令和5年4月＞		博士 (学術)		健康と心理学 集団と心理学 幸せと心理学 意思決定と心理学 自己調整と心理学	1・2前 2・3前 2・3前 2・3後 2・3後	2 1 2 2 1	1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 (平16.7)	5日
13	専	准教授	コヤマ　ケイジ 小山　桂二 ＜令和5年4月＞		博士 (スポーツ健康科学)		スポーツバイオメカニクス 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ 専門演習Ⅲ 専門演習Ⅳ 卒業研究 評価測定学（演習を含む） 動作分析論	2後 3前 3後 4前 4後 4通 3前 3前	2 2 2 2 2 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 准教授 (平24.4)	5日

14	専	准教授	ヒロカワ　ミツシ 廣川　充志 ＜令和5年4月＞		修士 （体育学）		柔道	1前・後	1	2	スポーツ健康政策学部 准教授 （平18.4）	5日
							専門演習Ⅰ	3前	2	1		
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							武道指導法・コーチング論	3前	2	1		
							運動処方論	1後	2	1		
							スポーツコーチング実習Ⅰ	3前	1	1		
15	専	准教授	ヒロセ　タツロウ 廣瀬　立朗 ＜令和5年4月＞		博士 （学術）		専門演習Ⅰ	3前	2	1	スポーツ健康政策学部 准教授 （平21.4）	5日
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							トレーニング論（演習を含む）	1前	2	1		
							測定機器の操作	2前	2	1		
							トレーニング学（演習を含む）	3前	2	1		
16	専	准教授	フクウラ　カズオ 福浦　一男 ＜令和5年4月＞		博士 （文学）		スポーツ社会学	1前	2	1	スポーツ健康政策学部 准教授 （平29.4）	5日
							専門演習Ⅰ	3前	2	1		
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							スポーツ人類学	1後	2	1		
17	専	准教授	サイトウ　レイ 齋藤　れい ＜令和5年4月＞		博士 （スポーツ科学）		スポーツイベント施設論	1後	2	1	スポーツ健康政策学部 准教授 （平31.4）	5日
							スポーツマーケティング論	1前	2	1		
							スポーツマネジメント論	1前	2	1		
							ビジネスの科学	1前	2	2		
							マーケティング各論	1・2後	2	1		
							アントレプレナーシップ	1・2前	2	1		
							プロジェクト入門	1後	2	1		
							マーケティング・リサーチ	2・3前	2	1		
							現代ビジネス論	2・3後	2	1		
							分野横断型プロジェクト	2後	3	1		
18	専	准教授	クリヤマ　ユタカ 栗山　裕 ＜令和5年4月＞		学術博士		デジタル産業論	1・2後	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 （平3.4）	5日
19	専	講師	オカモト　ダイ 岡本　大 ＜令和5年4月＞		修士 （武道・スポーツ）		ハンドボール	2前	1	1	スポーツ健康政策学部 講師 （平20.4）	5日
							専門演習Ⅰ	3前	2	1		
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							ゴール型球技指導法・コーチング論	3後	2	1		
							チャンピオンシップスポーツコーチング論	3前	2	1		
							スポーツコーチング実習Ⅰ	3前	1	1		
20	専	講師	オヤマ　ユウスケ 尾山　裕介 ＜令和5年4月＞		博士 （学術）		専門演習Ⅰ	3前	2	1	スポーツ健康政策学部 講師 （平30.4）	5日
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							ヘルスプロモーション論	2前	2	1		
							評価測定学（演習を含む）	3前	2	1		
							高齢者活動支援論（演習を含む）	3後	2	1		
							健康教育学	2前	2	1		
							ストレッチング論（演習を含む）	1後	2	1		
21	専	講師	ミゾカミ　ヒロシ 溝上　拓志 ＜令和5年4月＞		修士 （スポーツ科学）		スポーツ情報処理論	1前	2	1	スポーツ健康政策学部 講師 （令4.4）	5日
							専門演習Ⅰ	3前	2	1		
							専門演習Ⅱ	3後	2	1		
							専門演習Ⅲ	4前	2	1		
							専門演習Ⅳ	4後	2	1		
							卒業研究	4通	4	1		
							スポーツ映像分析論	3前	2	1		
							スポーツデータ解析	1後	2	1		
							スポーツ情報戦略論	2前	2	1		
							スポーツ技術・戦術論	2後	2	1		

22	兼担	教授 (学部長)	ヨシタカ　ユキハル 吉鷹　幸春 ＜令和5年4月＞		体育学修士		柔道 スポーツプロジェクト研究Ⅰ スポーツプロジェクト研究Ⅱ 武道指導法・コーチング論 スポーツ指導者論 スポーツコーチング実習Ⅱ	1前・後 1前 1後 3前 1前 3後	1 2 2 2 2 1	2 1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 (平7.4)	5日
23	兼担	教授	タニモト　ナオミ 谷本　直美 ＜令和5年4月＞		教育学修士		教育実習（中学校） 教育実習（高校） 学校体験実習（中・高） 学校インターンシップ実習 事前・事後指導（中・高） 教職実践演習（中・高）	4前 4前 2前 4前 4前 4前	4 2 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 (平21.4)	5日
24	兼担	教授	サトウ　ユタカ 佐藤　豊 ＜令和5年4月＞		教育学修士		教師論 ICT活用スキルの理論と実際 保健科教育法 保健体育授業演習Ⅰ 保健体育授業演習Ⅱ 保健体育授業演習Ⅲ	1前 3前 2後 2後 3前 3後	2 2 2 0.7 2 2	1 1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 (平28.1)	5日
25	兼担	教授	ミヤヅ　タイゾウ 宮津　大蔵 ＜令和5年4月＞		教育学士		ボランティア論 ボランティア実習	1後 1後	2 2	1 1	スポーツ健康政策学部 教授 (平21.4)	5日
26	兼担	教授	カメオカ　セイロウ 亀岡　聖朗 ＜令和5年4月＞		博士(心理学)		教育心理学 教育相談・キャリア教育指導論	1後 2後	2 2	1 1	スポーツ健康政策学部 教授 (平31.4)	5日
27	兼担	教授	ナカノ　ヒデユキ 中野　英之 ＜令和5年4月＞		博士(地球環境科学)		地球と環境	1・2前	2	1	スポーツ健康政策学部 教授 (平31.4)	5日
28	兼担	教授	マス　ノブオ 升　信夫 ＜令和5年4月＞		法学博士		持続可能な開発と法	1・2後	2	1	法学部 教授 (平9.4)	5日
29	兼担	教授	オカダ　トシエ 岡田　俊恵 ＜令和5年4月＞		文学修士		言語文化論 表現とコミュニケーション	1・2前 1・2後	2 2	1 1	スポーツ健康政策学部 教授 (平17.4)	5日
30	兼担	教授	タケダ　ヨシコ 武田　佳子 ＜令和5年4月＞		修士(教育学)		キャリアトランジション インターンシップ ソーシャル・コミュニケーション	2前 3前 1・2後	2 2 2	1 1 1	教育研究開発機構 教授 (令和3.4)	5日
31	兼担	教授	ハヤシダ　ハルミ 林田　はるみ ＜令和5年4月＞		博士(スポーツ科学)		ダンス エアロビクス（演習を含む） ダンス指導法・コーチング論 地域における健康課題 コミュニティ・ケアシステムⅠ 地域政治論 地域観光事業論	1前・後 3前 3後 1・2前 1・2後 2・3前 2・3前	1 1 2 2 2 2 2	2 1 1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 教授 (平30.4)	5日
32	兼担	教授	カツマタ　ヒロフミ 勝亦　啓文 ＜令和5年4月＞		法学修士		法学	1前	2	1	法学部 教授 (平17.4)	5日
33	兼担	教授	ハラ　チサコ 原　千砂子 ＜令和5年4月＞		法学修士		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	1 1	法学部 教授 (平5.4)	5日
34	兼担	教授	アベ　ケンジ 阿部　憲二 ＜令和5年4月＞		教育学博士		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	3 3	法学部 教授 (平14.9)	5日
35	兼担	教授	イケガミ　マサシ 池上　和志 ＜令和5年4月＞		博士(理学)		地球環境の科学 科学技術の未来 プロジェクト入門	1前 1・2前 1後	0.7 2 2	1 1 1	医用工学部 教授 (平18.4)	5日
36	兼担	教授	ミヤサカ　ツトム 宮坂　力 ＜令和5年4月＞		工学博士		地球環境の科学 科学技術の未来	1前 1・2前	0.7 2	1 1	医用工学部 教授 (平13.12)	5日
37	兼担	准教授	シミズ　ユウ 清水　由 ＜令和5年4月＞		修士(体育学)		体育教科法	2前	2	1	スポーツ健康政策学部 准教授 (令3.4)	5日

38	兼担	准教授	イグチ　ナリアキ 井口　成明 ＜令和5年4月＞		スポーツ科学修士		学校保健・学校安全 保健体育授業演習Ⅰ 保健体育授業演習Ⅱ 保健体育授業演習Ⅲ 「スポーツ人物史」の研究	3前 2後 3前 3後 3前	2 0.7 2 2 2	1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 准教授 (平30.4)	5日
39	兼担	准教授	イ　ヒスン 李　禧承 ＜令和5年4月＞		博士(教育学)		教育学 ICT活用スキルの理論と実際 教育方法論	1前 3前 2後	2 2 2	1 1 1	スポーツ健康政策学部 准教授 平24.4	5日
40	兼担	准教授	キムラ　カズヒロ 木村　和宏 ＜令和5年4月＞		修士(体育科学)		バスケットボール ゴール型球技指導法・コーチング論	1前・後 3後	1 2	2 1	スポーツ健康政策学部 准教授 (平20.4)	5日
41	兼担	准教授	サトウ　クニマサ 佐藤　国正 ＜令和5年4月＞		修士(体育科学)		学部キャリアセミナー バレーボール シーズンスポーツ論Ⅰ(演習を含む) シーズンスポーツ論Ⅱ(演習を含む) スポーツ哲学 ネット型球技指導法・コーチング論 キャリアセミナーⅠ キャリアセミナーⅡ キャリアセミナーⅢ	3前 1後 1前 1後 2後 3前 2前 2後 3前	2 1 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 准教授 (平24.4)	5日
42	兼担	准教授	ナガハマ　ヒロフミ 長濱　博文 ＜令和5年4月＞		博士(教育学)		教育原理・教育課程論	2前	2	1	法学部 准教授 (平29.4)	5日

43	兼担	准教授	タカセ　タケシ 髙瀬　武志 ＜令和5年4月＞		修士 （体育学）		剣道 武道指導法・コーチング論 桐蔭キャリアゲート 体育実技Ⅰ 体育実技Ⅱ アスリートの科学 アスリートキャリア アスリート・クロス リーダーシップ教育 ライフスキル	1前・後 3前 1前 1前 1後 1・2前 1・2後 2・3前 2・3後 2・3前	1 2 2 1 1 2 2 2 2 2	2 1 1 1 1 1 1 1 1 1	法学部 准教授 （平26.4）	5日
44	兼担	准教授	ウエハタ　ヨウスケ 上畠　洋佑 ＜令和5年4月＞		修士 （教育学）		異文化の科学 プロジェクト入門 異文化リサーチ フード文化論 若者文化論 分野横断型プロジェクト ことばのスキル	1前 1後 2・3前 2・3後 2・3後 2後 1・2後	2 2 2 2 2 3 2	1 1 1 1 1 1 1	教育研究開発機構 准教授 （令和3.4）	5日
45	兼担	講師	ミネノ　コウスケ 峰野　宏祐 ＜令和5年4月＞		修士 （教育学）		数学概論Ⅰ 数学概論Ⅱ	1前 2後	2 2	1 1	スポーツ健康政策学部 講師 （令4.4）	5日
46	兼担	講師	キハラ　ヨウイチ 木原　洋一 ＜令和5年4月＞		修士 （体育学） 修士 （教育学）		スポーツ教育学 保健体育授業演習Ⅰ 保健体育授業演習Ⅱ 保健体育授業演習Ⅲ 幼児スポーツ論（演習を含む）	2前 2後 3前 3後 2後	2 0.7 2 2 2	1 1 1 1 1	スポーツ健康政策学部 講師 （平20.4）	5日
47	兼担	講師	オガサワラ　カズアキ 小笠原　一彰 ＜令和5年4月＞		修士 （教育学）		水泳 水泳指導法・コーチング論 コーチング学	1前 3後 3後	1 2 2	1 1 1	スポーツ健康政策学部 講師 （平7.4）	5日
48	兼担	講師	ミゾグチ　ユウ 溝口　侑 ＜令和5年4月＞		修士 （教育学）		桐蔭スキルゲート データコミュニケーション入門 心の科学 青年と心理学 こころの世界 集団と心理学 意思決定と心理学 自己調整と心理学 プロジェクト入門 分野横断型プロジェクト	1前 1後 1前 1・2後 1・2前 2・3前 2・3後 2・3後 1後 2後	2 2 2 2 2 1 2 1 2 3	1 1 2 1 1 1 1 1 1 1	教育研究開発機構 講師 （令和3.4）	5日
49	兼担	講師	マツイ　シンサク 松井　晋作 ＜令和5年4月＞		修士 （文学）		桐蔭キャリアゲート 地域の科学 サステナブル社会学 プロジェクト入門 横浜地域学 実践地域創成学 分野横断型プロジェクト	1前 1前 1・2後 1後 2・3後 2・3後 2後	2 2 2 2 2 2 3	1 2 1 1 1 1 1	教育研究開発機構 講師 （令和3.4）	5日
50	兼担	講師	シバヤマ　ナオユキ 柴山　直之 ＜令和5年4月＞		博士 （工学）		地球環境の科学 分野横断型プロジェクト	1前 2後	0.7 3	1 1	医用工学部 講師 （令和3.4）	5日
51	兼担	助教	アサオカ　ケイタ 浅岡　慶太 ＜令和5年4月＞		修士 （法学）		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	1 1	法学部 助教 （平13.4）	5日
52	兼担	助教	オオツジ　コウタ 大辻　康太 ＜令和5年4月＞		修士 （教育学）		体育実技Ⅰ 体育実技Ⅱ	1前 1後	1 1	1 1	法学部 助教 （平31.4）	5日
53	兼任	客員教授	オオイシ　ススム 大石　進 ＜令和5年4月＞		体育学士		運動部活動論	2前	2	1	スポーツ健康政策学部 客員教授 令2.4	
54	兼任	客員教授	ﾖｼﾊﾗ　ｼｮｳｺ 吉原　晶子 ＜令和5年4月＞		学士 （教育学）		特別活動・総合的な学習の時間指導法	3後	2	1	桐蔭横浜大学 客員教授 （平29.4）	
55	兼任	講師	ヤマグチ　アキコ 山口　晶子 ＜令和5年4月＞		修士 （教育学）		教育社会論（学校安全を含む）	2前	2	1	東京学芸大学 共同研究員 （平27.7）	
56	兼任	講師	オキタ　ユウゾウ 沖田　祐蔵 ＜令和5年4月＞		修士 （体育学）		ボディーワークⅡ （体操：体つくり運動、集団行動）	1前・後	1	3	日本Gボール協会 （平22.4）	
57	兼任	講師	ワタヌキ　ヨシノリ 綿貫　慶徳 ＜令和5年4月＞		博士 （体育科学）		生涯スポーツ論	1後	2	1	桐蔭横浜大学 非常勤講師 （令3.4）	

58	兼任	講師	ゴトウ　ヨウイチ 後藤　洋一 ＜令和5年4月＞		体育学 修士		器械運動 器械運動指導法・コーチング論	1前・後 3後	1 2	4 1	桐蔭横浜大学 非常勤講師 （平20.4）	
59	兼任	講師	ヤハギ　ノブユキ 矢作　信行 ＜令和5年4月＞		修士 （学術）		道徳教育指導論	2前	2	1	帝京平成大学 教授 （令2.4）	
60	兼任	講師	マエダ　ヨシヒト 前田　善仁 ＜令和5年4月＞		修士 （教育学）		生徒指導論	3前	2	1	東海大学 教授 （平26.4）	
61	兼任	講師	イケダ　アツコ 池田　敦子 ＜令和5年4月＞		修士 （教育学）		特別支援教育指導論	2後	2	1	東海学院大学 教授 （令2.4）	
62	兼任	講師	オオツキ　シゲヒサ 大槻　茂久 ＜令和5年4月＞		修士 （体育学）		サッカー	2前	1	3	日本体育大学 サッカー部監督 令3.4	
63	兼任	講師	ヨネチ　トオル 米地　徹 ＜令和5年4月＞		修士 （体育学）		ラグビー	2前	1	1	日本体育大学 教授 平26.4	
64	兼任	講師	カナモリ　ジュン 金森　純 ＜令和5年4月＞		修士 （体育学）		ソフトボール・野球 ベースボール型球技指導法・コーチング論	2前 3前	1 2	2 2	神奈川工科大学 非常勤講師 （平23.4）	
65	兼任	講師	イソベ　カオル 磯辺　薫 ＜令和5年4月＞		修士 （体育学）		テニス	2前・後	1	2	フリーランス	
66	兼任	講師	フルカワ　アキヤ 古川　暁也 ＜令和5年4月＞		体育学 修士		バドミントン	2前・後	1	3	日本体育大学 教授 （平18.4）	
67	兼任	講師	マスダ　ケイコ 増田　敬子 ＜令和5年4月＞		学士 （体育学）		体つくり運動指導法	3後	2	1	桐蔭横浜大学 非常勤講師 （平22.4）	
68	兼任	講師	ババ　シンイチロウ 馬場　進一郎 ＜令和5年4月＞		体育学 修士		レクリエーション論	2後	2	1	日本体育大学 教授 （平3.4）	
69	兼任	講師	モギ　ヒロコ 茂木　宏子 ＜令和5年4月＞		修士 （教育学）		スポーツジャーナリズム論	1後	2	1	フリージャーナリスト （昭61.4）	
70	兼任	講師	スダ　カズヒト 須田　和人 ＜令和5年4月＞		修士 （体育学）		大学スポーツ論	1・2前	2	1	一般社団法人 菜の花AC 理事長 （令2.10）	
71	兼任	講師	フジモト　ケンタロウ 藤本　健太朗 ＜令和5年4月＞		博士 （文学）		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	桐蔭横浜大学 非常勤講師 （令3.4）	
72	兼任	講師	スズキ　シンジ 鈴木　眞二 ＜令和5年4月＞		学士 （フランス文学）		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	6 6	ファブリス株式会社 代表取締役 （平18.11）	
73	兼任	講師	カガミ　ナオコ 加賀美　直子 ＜令和5年4月＞		学士 （外国文化）		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	2 2 1 1	自営業	
74	兼任	講師	ヒガシヤマ　シホ 東山　志帆 ＜令和5年4月＞		修士 （学術）		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	6 6	湘南工科大学付属高等学校 講師 （令2.4）	

75	兼任	講師	スギシタ　アヤコ 杉下　文子 ＜令和5年4月＞		修士 (教育学)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	1 1	学校法人河合塾 英語科 (平成4.4)	
76	兼任	講師	ﾗﾐﾚｽﾞ ﾌﾗﾝｼﾝ ｸﾛｴ ＜令和5年4月＞		MA English and British Literature		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (令4.4)	
77	兼任	講師	ﾏｰｸｽ ｹﾋﾞﾝ ﾀﾞｸﾞﾗｽ ＜令和5年4月＞		Master of Arts in TESOL		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	7 7	San Diego State University, California English Teacher (平31.4-令3.12)	
78	兼任	講師	ﾃﾞｼｲﾝ ｼﾞｭﾘｰ ｳﾞｨｰﾏﾝｿﾝ ＜令和5年4月＞		Masters in Education with specialization in English Language		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	ISA English Teacher (平31.3)	
79	兼任	講師	ｽﾄｰｸｽ ｼﾞｪｰﾑｽﾞ ﾌﾞﾗｯﾄﾞﾘｰ ＜令和5年4月＞		Master of Arts (TESOL)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	東京モード学園 講師 (令3.3)	
80	兼任	講師	スズキ　ナギ 鈴木　凪 ＜令和5年4月＞		Master of Arts in Chemistry		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	2 2	フリーランス	
81	兼任	講師	ｱｰﾈｯﾄ ﾀﾞﾆｴﾙ ｼﾞｪｰﾑｽﾞ ＜令和5年4月＞		MA in Education		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	1前 1後	2 2	5 5	桐蔭横浜大学 非常勤講師 (令4.4)	
82	兼任	講師	ｸﾞﾗｰﾙ ｸﾘｽﾄﾌｧｰ ﾏｲｹｰﾙ ＜令和5年4月＞		Masters degree in Applied language studies for TESOL		英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	2前 2後	2 2	1 1	Kanda Institute of Foreign Languages Instructor (平27.4)	
83	兼任	講師	ｶｰﾝ ﾌｧｲｱｰｽﾞ ＜令和5年4月＞		MSc SEM (Sport & Exercise Medicine) PGCert.(Anatomical Sciences)		英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	1 1 1 1	杏林大学 講師 (平27.4)	

（注）
1　教員の数に応じ，適宜枠を増やして記入すること。
2　私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合又は大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合は，この書類を作成する必要はない。
3　「申請に係る学部等に従事する週当たりの平均日数」の欄は，専任教員のみ記載すること。